

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第163集

# 林崎館遺跡発掘調査報告書

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

はやし ざき だて

# 林崎館遺跡発掘調査報告書

## 序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600カ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保持し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にとりまなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特に高速道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道秋田線建設に関連して、平成2年に発掘調査した林崎館遺跡の調査結果をまとめたものであります。本遺跡は和賀川右岸の河岸段丘上に立地し、調査の結果、縄文時代中期の住居跡、土壌群が数多く発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御協力、御支援を賜りました日本道路公団仙台建設局北上工事事務所、旧和賀町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成4年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 工藤 巖

## 例 言

1. 本報告書は、岩手県和賀郡和賀町（現北上市）煤孫第3地割328ほか、に所在する林崎館遺跡の発掘調査の結果を取録したものである。
2. 本遺跡の調査は、東北横断自動車道秋田線の建設に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会と日本道路公団仙台建設局との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はME63-1267、遺跡略号はHZ-90、発掘調査面積は14,150㎡である。
4. 発掘調査期間は平成2年4月17日～10月31日、整理期間は平成2年11月1日～3年3月31日である。
5. 野外調査および室内整理は小田野哲憲・阿部勝則が担当した。
6. 本報告書の執筆はIを佐々木嘉直、その外を小田野が担当した。
7. 遺物の鑑定に当たっては次の方々へ依頼した。石質・佐藤二郎氏（佐藤地質工学研究所）、炭化材・早坂松次郎（岩手県木炭協会）、植物遺存体・髙橋マリノ・サーヴェイ。
8. 発掘・整理・執筆にあたっては下記の方々に御協力、御指導をいただいた。（50音順）  
相原康二・稲野祐介・及川靖世・及川渉・岡田康博・鎌田裕二・菊地達哉・桐生正一・熊谷常正・小林克・小林和彦・佐々木勝・佐藤嘉広・鈴鹿良一・高田和徳・高橋亜貴子・高橋信雄・高橋憲太郎・高橋文明・中村英俊・中村良幸・藤村東男・三熊啓子・三宅徹也・森幸彦
9. 野外調査では狩野真一氏ほかの、室内整理では村上幹子さんほかの御協力をえた。
10. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

# 本文目次

序

例言

I. 調査に至る経過	2
II. 遺跡の立地と環境	3
1. 地形と地質	3
2. 遺跡および周辺の地形	4
3. 周辺の遺跡	4
III. 調査・整理の方法	12
1. 野外調査	12
2. 室内整理	13
IV. 遺構と遺物	14
1. 縄文時代の遺構と遺物	14
(1) 住居跡	14
(2) 柱穴群	80
(3) フラスコピット	80
(4) 土 墳	94
(5) 陥 穴	98
V. 遺構外の遺物	113
1. 一括廃棄土器群	113
2. 縄文時代の土器	113
3. 平安時代の土器	113
4. 石 器	123
5. 土・石製品	134
VI. 考察とまとめ	140

## 図版目次

<p>第1図 遺跡位置図……………1</p> <p>第2図 地形区分図……………5</p> <p>第3図 遺跡周辺の地形図……………7</p> <p>第4図 調査区位置図……………9</p> <p>第5図 周辺の遺跡分布図……………11</p> <p>第6図 林崎館遺跡調査区遺構配置図……………15</p> <p>第7図 II B-1号住居跡・遺物(1)……………17</p> <p>第8図 II B-1号住居跡遺物(2)……………18</p> <p>第9図 III C-1号住居跡……………20</p> <p>第10図 III C-1号住居跡遺物(1)……………21</p> <p>第11図 III C-1号住居跡遺物(2)……………22</p> <p>第12図 III D-1号住居跡……………26</p> <p>第13図 III D-1号住居跡遺物(1)……………27</p> <p>第14図 III D-1号住居跡遺物(2)……………28</p> <p>第15図 III D-1号住居跡遺物(3)……………29</p> <p>第16図 III D-1号住居跡遺物(4)……………30</p> <p>第17図 III D-1号住居跡遺物(5)……………31</p> <p>第18図 III D-1号住居跡遺物(6)……………32</p> <p>第19図 III D-1号住居跡遺物(7)……………33</p> <p>第20図 III D-1号住居跡遺物(8)……………34</p> <p>第21図 IV D-1号、 IV E-1号住居跡遺物……………36</p> <p>第22図 IV D-1号、IV E-1号住居跡……………37</p> <p>第23図 IV D-2号住居跡・遺物……………41</p> <p>第24図 IV E-2号住居跡……………42</p> <p>第25図 IV E-2号住居跡遺物……………43</p> <p>第26図 IV F-1号住居跡……………44</p> <p>第27図 IV F-1号住居跡遺物……………45</p> <p>第28図 III G-1号住居跡……………47</p> <p>第29図 III G-1号住居跡遺物……………48</p> <p>第30図 III G-2号、III H-1号住居跡……………51</p> <p>第31図 III G-2号住居跡遺物(1)……………52</p>	<p>第32図 III G-2号住居跡遺物(2)……………53</p> <p>第33図 III H-1号住居跡遺物……………54</p> <p>第34図 III G-3号住居跡……………56</p> <p>第35図 III G-3号住居跡遺物(1)……………57</p> <p>第36図 III G-3号住居跡遺物(2)……………58</p> <p>第37図 III G-3号住居跡遺物(3)……………59</p> <p>第38図 III G-3号住居跡遺物(4)……………60</p> <p>第39図 III G-3号住居跡遺物(5)……………63</p> <p>第40図 III G-3号住居跡遺物(6)……………64</p> <p>第41図 III G-3号住居跡遺物(7)……………65</p> <p>第42図 III G-3号住居跡遺物(8)……………66</p> <p>第43図 IV G-1号住居跡……………68</p> <p>第44図 IV G-1号住居跡遺物(1)……………69</p> <p>第45図 IV G-1号住居跡遺物(2)……………70</p> <p>第46図 IV G-1号住居跡遺物(3)……………73</p> <p>第47図 IV G-1号住居跡遺物(4)……………74</p> <p>第48図 IV G-2、IV H-1、IV H-2、 IV I-1、IV I-2号住居跡……………77</p> <p>第49図 IV G-2、 IV H-1号住居跡遺物……………79</p> <p>第50図 IV F-1柱穴群・遺物……………81</p> <p>第51図 フラスコビット(1): II A-1、 II A-2、II A-3、II B-1号……………84</p> <p>第52図 フラスコビット(2): III A-1、 III A-2、III B-1、III B-2号……………85</p> <p>第53図 フラスコビット(3): IV G-1、 2、3号……………86</p> <p>第54図 フラスコビット遺物(1): II A-1、II A-2、II A-3号……………87</p> <p>第55図 フラスコビット遺物(2): III A-1、III A-2、II B-1、 III B-2号……………88</p>
--	---

第56図	フラスコビット遺物(3): IVG-1号〔1〕……………89
第57図	フラスコビット遺物(4): IVG-1号〔2〕……………90
第58図	フラスコビット遺物(5): IVG-2号〔1〕……………91
第59図	フラスコビット遺物(6): IVG-2号〔2〕……………92
第60図	フラスコビット遺物(7): IVG-2号〔3〕、IVG-3号 ……93
第61図	IIA-1、III A-1、 III B-1号土壇・遺物……………95
第62図	II B-1号土壇・遺物……………96
第63図	II C-1、II I-1、IO-1、 IO-2号土壇……………97
第64図	陥穴(1): II B-1、III C-1、 IO-1号……………101
第65図	陥穴(2): III B-1、III B-3、 III D-1号……………102
第66図	陥穴(3): III G-1、III G-2号 ……103
第67図	陥穴(4): III E-1、III E-2、 IVE-1号……………104
第68図	陥穴(5): II C-1、II C-2、 III B-2号……………105
第69図	陥穴(6): II B-2、II C-3、 II D-2、II D-3号……………106
第70図	陥穴(7): II D-1、III D-3、 III D-2、IV F-1、II M-1号 ……107
第71図	陥穴(8): II E-1～7号 陥穴配置図……………108

第72図	陥穴(9): I L-1～3号、 II L-4号……………109
第73図	陥穴00: II L-1、II L-2、 III L-1、III L-2号……………110
第74図	陥穴00: II L-3、IVE-1、 IM-1、III M-1号……………111
第75図	陥穴出土遺物……………112
第76図	IV C一括廃棄土器A群(1)……………114
第77図	IV C一括廃棄土器A群(2)……………115
第78図	IV C一括廃棄土器A群(3)、B群 ……116
第79図	遺構外遺物: 土器(1)……………117
第80図	遺構外遺物: 土器(2)……………118
第81図	遺構外遺物: 土器(3)……………119
第82図	遺構外遺物: 土器(4)……………120
第83図	遺構外遺物: 土器(5)……………121
第84図	遺構外遺物: 土器(6)……………122
第85図	遺構外遺物: 石器(1)……………124
第86図	遺構外遺物: 石器(2)……………125
第87図	遺構外遺物: 石器(3)……………126
第88図	遺構外遺物: 石器(4)……………127
第89図	遺構外遺物: 石器(5)……………128
第90図	遺構外遺物: 石器(6)……………129
第91図	遺構外遺物: 石器(7)……………130
第92図	遺構外遺物: 石器(8)……………131
第93図	遺構外遺物: 石器(9)……………132
第94図	遺構外遺物: 石器00……………133
第95図	遺構外遺物: 土・石製品……………135

## 写真図版

<p>写真図版1 遺跡全景 .....145</p> <p>写真図版2 II B-1号住居跡 .....146</p> <p>写真図版3 II B-1号住居跡遺物 .....147</p> <p>写真図版4 III C-1号住居跡 .....148</p> <p>写真図版5 III C-1号住居跡遺物(1) .....149</p> <p>写真図版6 III C-1号住居跡遺物(2) .....150</p> <p>写真図版7 III D-1号住居跡(1) .....151</p> <p>写真図版8 III D-1号住居跡(2) .....152</p> <p>写真図版9 III D-1号住居跡遺物(1) .....153</p> <p>写真図版10 III D-1号住居跡遺物(2) .....154</p> <p>写真図版11 III D-1号住居跡遺物(3) .....155</p> <p>写真図版12 III D-1号住居跡遺物(4) .....156</p> <p>写真図版13 IV D-1号住居跡 .....157</p> <p>写真図版14 IV D-2号住居跡 .....158</p> <p>写真図版15 IV D-1号・2号住居跡遺物 159</p> <p>写真図版16 IV E-1号住居跡 .....160</p> <p>写真図版17 IV E-1号住居跡遺物 .....161</p> <p>写真図版18 IV E-2号住居跡 .....162</p> <p>写真図版19 IV F-1号住居跡 .....163</p> <p>写真図版20 IV E-2号・ IV F-1号住居跡遺物 .....164</p> <p>写真図版21 III G-1号住居跡 .....165</p> <p>写真図版22 III G-1号住居跡遺物 .....166</p> <p>写真図版23 III G-2号住居跡 .....167</p> <p>写真図版24 III G-2号住居跡遺物 .....168</p> <p>写真図版25 III G-3号住居跡 .....169</p> <p>写真図版26 III G-3号住居跡遺物(1) .....170</p> <p>写真図版27 III G-3号住居跡遺物(2) .....171</p> <p>写真図版28 III G-3号住居跡遺物(3) .....172</p> <p>写真図版29 III G-3号住居跡遺物(4) .....173</p> <p>写真図版30 III G-3号住居跡遺物(5) .....174</p>	<p>写真図版31 III G-3号住居跡遺物(6) .....175</p> <p>写真図版32 IV G-1号住居跡(1) .....176</p> <p>写真図版33 IV G-1号住居跡(2) .....177</p> <p>写真図版34 IV G-1号住居跡遺物(1) .....178</p> <p>写真図版35 IV G-1号住居跡遺物(2) .....179</p> <p>写真図版36 IV G-1号住居跡遺物(3) .....180</p> <p>写真図版37 IV G-2号・ III H-1号住居跡 .....181</p> <p>写真図版38 IV H-1号住居跡 .....182</p> <p>写真図版39 IV G-2号・III H-1号・ IV H-1号住居跡遺物 .....183</p> <p>写真図版40 IV H-2号・IV I-1号・ IV I-2号住居跡 .....184</p> <p>写真図版41 IV F柱穴群・遺物 .....185</p> <p>写真図版42 フラスコピット(1): フラスコピット群配列状況 .....186</p> <p>写真図版43 フラスコピット(2): II A-1号、II A-2号 .....187</p> <p>写真図版44 フラスコピット(3): II A-3号、II B-1号、 III A-1号、III A-2号 .....188</p> <p>写真図版45 フラスコピット(4): III B-1号、III B-2号、 IV G-1号 .....189</p> <p>写真図版46 フラスコピット(5): IV G-2号、IV G-3号 .....190</p> <p>写真図版47 フラスコピット遺物(1): II A-1・II A-2・ II A-3号 .....191</p> <p>写真図版48 フラスコピット遺物(2): III A-1・III A-2・II B-1・ III B-2号 .....192</p>
---	---



写真図版49	フラスコビット遺物(3): IVG-1号 ……………193
写真図版50	フラスコビット遺物(4): IVG-2号〔1〕 ……………194
写真図版51	フラスコビット遺物(5): IVG-2号〔2〕・ IVG-3号 ……………195
写真図版52	土壇(1): II A-1号、 III A-1号、II B-1号 ……196
写真図版53	土壇(2): III B-1号、 II C-1号 ……………197
写真図版54	土壇(3): II I-1号、 I O-1号、I O-2号 ……198
写真図版55	土壇遺物 ……………199
写真図版56	陥穴(1): II E-陥穴群、 I L~III L陥穴群配列状況 ……200
写真図版57	陥穴(2): III B-1号、 III B-2号、III B-3号、 III D-1号 ……………201
写真図版58	陥穴(3): II E-1号、 II E-2号、II E-3号、 II E-5号 ……………202
写真図版59	陥穴(4): II E-6号、 II E-7号、III E-1号、 IV E-1号 ……………203
写真図版60	陥穴(5): III G-1号、 III G-2号、II B-2号、 II C-3号 ……………204

写真図版61	陥穴(6): II D-3号、 II E-4号、II C-1号、 II C-2号 ……………205
写真図版62	陥穴(7): III E-2号、 III D-2号、III D-3号、 II L-4号 ……………206
写真図版63	陥穴(8): IV F-1号、 II D-1号、II D-2号、 II M-1号 ……………207
写真図版64	陥穴(9): I L-1号、 I L-2号、I L-3号、 II L-1号 ……………208
写真図版65	陥穴(10): II L-2号、 III L-1号、III L-2号、 I O-1号 ……………209
写真図版66	陥穴(11): II B-1号、 III C-1号、IV L-1号 ……210
写真図版67	陥穴(12): II L-3号、 I M-1号、III M-1号 ……211
写真図版68	陥穴遺物 ……………212
写真図版69	IV C-一括廃棄土器 A群(1) ……213
写真図版70	IV C-一括廃棄土器 A群(2)・B群 ……214
写真図版71	遺構外遺物:土器(1)、土製品 ……215
写真図版72	遺構外遺物:土器(2) ……216
写真図版73	遺構外遺物:石器(1) ……217
写真図版74	遺構外遺物:石器(2)・石製品 ……218



第1図 遺跡位置図

## I. 調査にいたる経過

東北横断自動車道秋田線は、北上市から(旧)和賀町・湯田町を經由して秋田市に至る総延長107kmの高速道路である。このうち、第9次・第10次施行命令区間は北上ジャンクションから秋田県境までの延長33.9kmである。

これに関連する埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行っており、日本道路公団仙台建設局との間でその取り扱いについて協議された。協議の経過は以下の通りである。

昭和62年4月13日付け 「仙建北工第35号」による分布調査の依頼

5月25日付け 「教文第117号」による分布調査結果の回答

昭和63年9月9日付け 「教文第320号」による平成元年度発掘調査事業の照会

9月16日付け 「仙建北工第515号」による平成元年度発掘調査事業の回答

昭和63年12月27日及び平成元年1月21日：日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の三者による埋蔵文化財調査に関する協議。

これにより、岩手県教育委員会は調整の上、柳上遺跡、岩崎台地遺跡群、岩崎城西遺跡、梅ノ木台地Ⅰ・Ⅱ遺跡、兵庫館跡、本郷遺跡、石曾根遺跡、月館跡、八幡館跡、八幡野Ⅱ遺跡、田中館跡、越中畑Ⅴ遺跡の13遺跡、92,000㎡の調査を岩手県文化振興事業団の平成元年度委託事業にすることとした。

これをうけて、当埋蔵文化財センターは、平成元年4月1日付け委託契約により発掘調査に着手したものである。しかし、梅ノ木台地Ⅱ遺跡と越中畑Ⅴ遺跡の調査は、用地の買収未了や保安林解除の遅延により次年度以降に実施することとした。また、柳上遺跡、梅ノ木台地Ⅰ遺跡、兵庫館跡、本郷遺跡は、同様の理由により調査区の一部を次年度の継続調査とした。これにともない田中館跡と八幡野Ⅱ遺跡の調査面積を増加することとした。

平成2年1月10日：日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の三者による埋蔵文化財調査に関する協議。

平成2年3月2日付け「教文第731号」による平成2年度埋蔵文化財調査事業の通知

これにより、柳上遺跡、上鬼柳Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡、岩崎台地遺跡群、梅ノ木台地Ⅰ・Ⅱ遺跡、兵庫館跡、上反町遺跡、観音館跡、煤孫遺跡、法量野Ⅰ遺跡、中屋敷遺跡、林崎館跡、本郷遺跡、石曾根遺跡、八幡野Ⅱ遺跡、田中館跡、越中畑Ⅴ遺跡の20遺跡、130,700㎡の調査を実施することとなり、平成2年4月1日付け契約により発掘調査に着手した。

## II. 遺跡の立地と環境

### 1. 地形と地質 (第1～3図)

北上山地北部にその源を発し、岩手県を東西に2分する形で南流する北上川は、全長249km、流域面積10,150km<sup>2</sup>の東北地方最大の河川である。

この流域は盛岡以北を上流、盛岡～前沢間を中流、前沢以南を下流の3区域に区分されている。川の西岸と東岸では、背後に控える山地構造の違いにより、対称的な地形が見られる。西岸は、新第三系及び火山岩類を主体する奥羽脊梁山脈から流れ出す支流によって形成された大小の扇状地が発達している。これらの扇状地は本流・支流に解析され、よく発達した河岸段丘となっている。東岸では、隆起準平原である北上山地に続く丘陵部縁辺に、小規模な段丘と沖積地が観察されるにすぎない。

林崎館遺跡の所在する和賀町は中流域に含まれる。和賀町の中央部には和賀川が、その地名の発祥とされる(アイヌ語名ワッカ)「清き流れ」を恵みとしながら東流する。和賀川は、奥羽山脈の和賀岳(1,440m)に源を持ち、南流して沢内盆地を涵蓋した後、湯田町川尻付近で流路を東に変え、仙人溪谷で奥羽東列山脈を横断する。和賀町横川目付近で山地を離れた流れは、支流である夏油川・尻平川が形成した扇状地を浸食し、北上市展勝地で北上川と合流する。その長さは75km、北上川水系最大の支流である。

北上川流域における第四系及び地形の研究は、中川他(1963b, 1971, 1981)の業績が大きく、当地域の段丘は上位から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類されている。

西根段丘は、開析が進み山際では丘陵状、扇央・扇端部では残丘状を呈する。上部には、約10mの火山灰層を載せ、古期のものから一首板火山灰、前沢火山灰、黒沢尻火山灰と命名されている。

村崎野段丘は、西根段丘と比べてよく保存されており、周囲を金ヶ崎段丘に取り囲まれている。構成層は飯豊礫層と呼ばれる層厚20～30mの砂礫層で、上部に黒沢尻火山灰を載せる。黒沢尻火山灰は上半の黄～赤褐色火山灰と下半の黄橙色浮石層(村崎野浮石)から成り、浮石層の噴出源としては、南西に位置する焼石岳(1,548m)・牛形山(1,340m)が考えられ、堆積時期はウルム氷期前半(4～7万年前)と推定されている。

金ヶ崎段丘は北上川中流域沿岸で最も広範囲に分布する段丘で、扇状地形をよく示している。佐藤(1982)は和賀川北岸に分布するものを金ヶ崎II段丘として、当該段丘を2細分している。構成層は礫層(榴木礫層)で、火山灰に蔽われないことを特徴の一つとする。

村崎野段丘の分布については、前述の佐藤(1982)をはじめとする調査によって範囲が拡大

することが明らかにされている。また、一連の横断自動車道発掘調査において、それまで金ヶ崎段丘として分類されていた当遺跡、隣接する煤孫遺跡からも黒沢尻火山灰が検出され、その範囲は寺沢付近まで広がるものと考えられる。さらに、鬼柳Ⅲ・Ⅳ遺跡でも高位面で同火山灰の堆積が確認され、この地域にも村崎野段丘が部分的に残存する可能性が極めて高くなった。

## 2. 遺跡および周辺の地形 (第3・4図)

林崎館遺跡は、西に隣接する本郷遺跡とともに、和賀川南岸の河岸段丘上に立地する。西側には小田沢、東側では阿部沢が北東に流れ、段丘は和賀川の氾濫原にむけて北東に張り出す。調査区はこの段丘の末端部にあたる。遺跡調査区の標高は127～130mで、表層は火山灰質粘土ないし軽石質粘土からなる。林崎館遺跡の乗る段丘面は「地形分類図」をはじめ、多くの研究では低位段丘(金ヶ崎段丘)とされてきたが、隣接する本郷・石曾根遺跡とも同様に火山灰質粘土に覆われており、いずれとも中位段丘(村崎野段丘)と考えられる。日本道路公団ボーリング調査によれば、本郷遺跡の東南東約2kmの寺沢より西、おおむね標高120m以上の段丘末端部では、火山灰質の粘性土が表層を覆っている、との報告があり、これを基にすると当遺跡面は、中位段丘に相当する可能性が高い。その面的な広がりも、今後の検討課題としたい。なお、地形区分図では熊沢、荒谷沢間のみを村崎野段丘としてある。

林崎館遺跡そのものは、調査範囲のさらに南方と西方にのびている。より低い東側では平安時代の遺物が、より高い面の南側には縄文時代の集落の拡がり予想される。

## 3. 周辺の遺跡 (第5図)

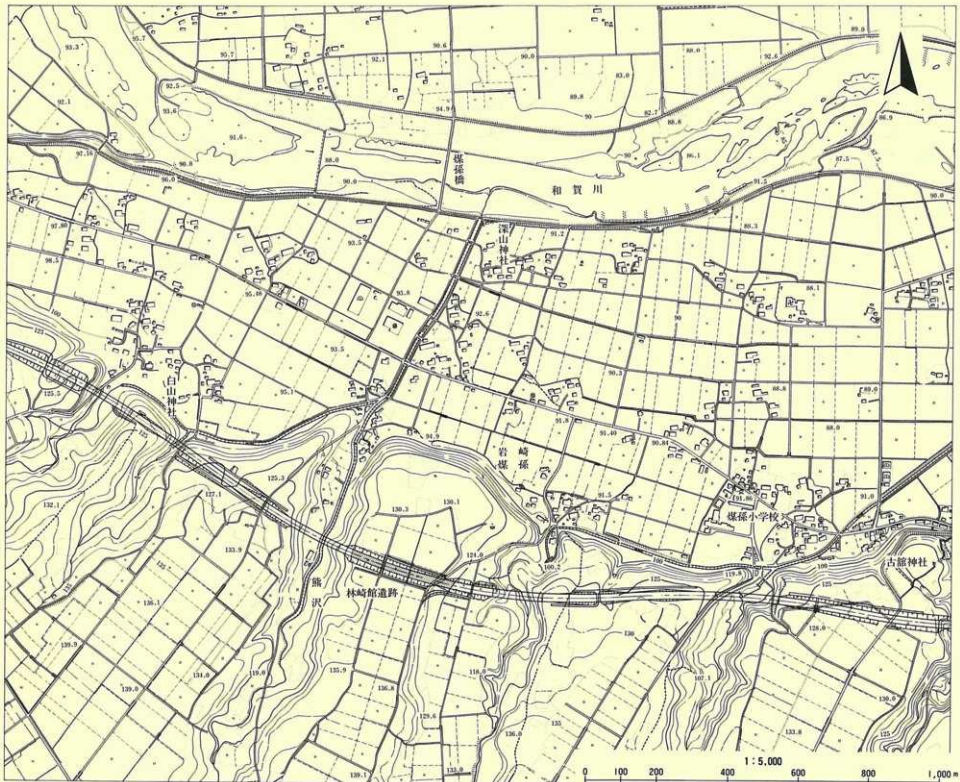
旧和賀町内では現在までに180箇所をこす遺跡が登録されている。その概要は和賀町教育委員会から一部が報告されている(和賀町教委1989～1991)。林崎館遺跡からは縄文時代中期、平安時代の遺構と遺物が確認されたので、同時代の遺跡を中心に記述する。第5図の遺跡分布図は旧和賀町教委と旧江釣子村教委の刊行物をもとに該期の代表的な遺跡を抽出したものである。

和賀川南岸では、丘陵縁辺や中・低位段丘および開析された支谷に沿って縄文時代～平安時代の遺跡が分布し、段丘の縁辺部には深く入り込んだ沢や急崖を利用した城館跡が立地している。縄文時代前・中期の遺跡としては大木7・8式期の竪穴住居、埋設土器、土壌を検出した梅ノ木遺跡(田村他1981)がある。横断自動車道関連で当センターが調査した遺跡としては大木6・7式期の集落が確認された煤孫遺跡、大木7・8式の集落跡である本郷遺跡、同じく大木8式の集落である石曾根遺跡などがある。他に、望野、岩崎城、岩沢Ⅲ、人当遺跡などで中期の土器が採集されている。これらの遺跡はいずれも中・低位段丘の先端部に位置している。平

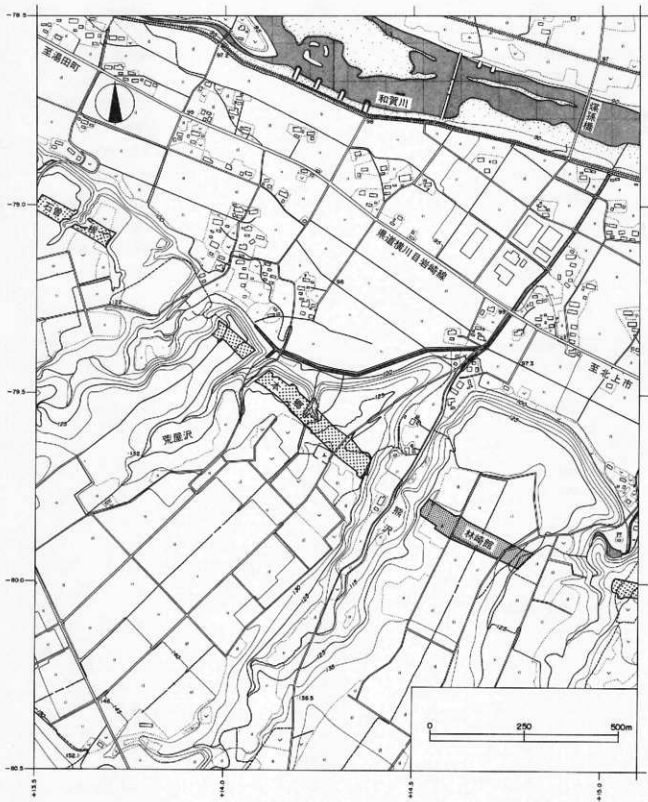


第2図 地形区分図

(中川他1963b, 1971, 岩手県1976, 和賀町1983および現地調査による)



第3図 遺跡周辺の地形図



第4図 調査区位置図



安時代の集落は、上記の梅ノ木遺跡のほか、当センターで調査中の岩崎台地遺跡群、梅ノ木台地、兵庫館、観音館、八幡館、八幡野II遺跡などで確認されている。また、隣接する旧北上市にある上鬼柳I～IV遺跡でも竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが検出されている。これらの遺跡の報告書は近日中に刊行の予定である。和賀川北岸では、中位段丘やその縁辺部および開折された小支谷沿って縄文時代の遺跡が比較的多く分布し、底地にも若干認められる。奈良～平安時代の遺跡の多くは、低位段丘上や縁辺に沿う河岸底地に形成された自然堤防上に分布する傾向が認められる。縄文時代前・中期の遺跡は旧江釣子村に多く、大木6～7式期的大型住居跡を伴う鳩岡崎(相原1982)、新平(草間1971)、高橋(高橋1981a)、鳩岡崎上ノ台遺跡(同1983)などが知られているが、和賀町内ではすくない。平安時代の遺跡としては、和賀町内では複数の住居跡が検出された蟹沢館が、江釣子村では八幡(高橋1984)、本宿羽場遺跡(同1981b)などがある。

### 引用参考文献

- 相原 康二他 1982 「江釣子村鳩岡崎遺跡」『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』XV-1、2 岩手県教育委員会
- 井上克弘・小沼 敦 1981 「北上川中流域における黒沢尻火山灰の層序、分布と強磁性鉱物の化学組成」  
第四紀研究 20-1
- 菊池啓治郎 1977 「掘り出された古代中世」『和賀町史』 岩手県和賀町
- 草間 俊一 1971 「岩手県江釣子村新平遺跡」『日本考古学年報』19
- 高橋 文明 1981a 「高橋遺跡」 江釣子村教育委員会
- 同 1981b 「江釣子遺跡群(本宿羽場遺跡)」 同
- 同 1983 「 同 (鳩岡崎上ノ台)」 同
- 同 1984 「 同 (八幡遺跡)」 同
- 和賀町教委 1989～1991 「和賀町内遺跡分布調査報告書Ⅰ～Ⅲ」

表1. 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考	番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考
1	欠の下台地	平安、竪穴住居跡、掘立柱建物	13	花曾根	平安
2	伍大板I	Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	14	花曾根上	縄文、平安
3	Ⅱ	Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	15	折	縄文・後晩期土器
6	高田坂	奈良・平安、古墳	16	七折館	中世、縄文
9	久田II	Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	17	岩崎城	中世、掘立柱建物、溝他
4	小平	平安、縄文	18	梅ノ木I～Ⅳ	縄文中期集落、平安
5	小寺	Ⅱ	19	岩崎城西	柱穴列、縄文、弥生土器
7	寺村	Ⅱ、中世?	20	梅ノ木台地I	縄文、平安
8	久田I	Ⅱ	21	Ⅱ	Ⅱ、弥生・埋墓、平安住居
10	八天坂	Ⅱ	22	兵庫館	弥生・再葬墓、中世城跡・楨列・堀
11	新田I	平安～中世?	23	上反町	中世城跡・土塁、柱穴列
12	Ⅱ	Ⅱ	24	観音館	中世・溝他



第5図 周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考	番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考
25	煤 孫	縄文中期・住居・平安・住居・集落	49	賀 刈 場	縄文
26	法 量 野 I	縄文・陥穴・土壇・中～晩、弥生土器	50	立 石	〃
27	〃 II	縄文、中世	51	水 神	〃
28	〃 III	〃、〃	52	新 平	旧石部、縄文中期、奈良、平安、駅 家屋遺構
29	中 屋 敷	弥生・土壇、縄文晩期～弥生土器	53	道の 下 長 根	奈良、平安
30	林 崎 館	本文参照	54	長 沢	平安
31	本 郷	縄文中期住居・集落	55	堰 ノ 下	縄文
32	石 曾 根	縄文中期住居・集落	56	北 藤 根	縄文晩期
33	月 館(横 館)	中～近世	57	藤 根 八 幡 館	中世
34	八 幡 館	〃 〃	58	稲 葉(蓮 見)	縄文、平安
35	荒 屋 沢	縄文晩期	59	藤 根 駅 北	平安
36	八 幡 野 I	縄文	60	下 江 釣 子 羽 場	奈良、平安、住居
37	〃 II	縄文陥穴、奈良～平安土壇、平安住居	61	蔵 屋 敷	縄文晩期、弥生
38	〃 III		62	倉 仏 車 I	〃、〃
39	田 中 館	縄文、平安、中世	63	〃 II	奈良、平安
40	短 ケ 丘	縄文	64	長 沼 古 墳 群	奈良、古墳
41	望 野 I	縄文中・後期	65	菟 留 田 古 墳 群	〃、〃
42	〃 II	旧石器?、縄文	66	上 長 沼	平安
43	代 官 森 I	縄文中・後期	67	釜 川 目	縄文後期
44	〃 II	〃	68	瀬 ノ 森 古 墳 群	
45	〃 III	〃	69	短 川 屋	中世、縄文中期
46	神 菜 I	縄文	70	古 館(八 幡 館)	縄文晩期、弥生
47	〃 II		71	時 田 館	縄文中期
48	藪 沢	縄文	72	戸 花 館	縄文

### III. 調査・整理の方法

#### 1. 野外調査

##### (1) 調査区の設定と遺構の命名 (第6図)

遺構、遺物の整理、記録のため調査区域に20m四方のグリットを単位とする平面直角座標を設定し地区割りを行った。座標原点は平面直角座標第X系、基準点1: X=-79,880m、Y=14,700m、基準点2: X=-79,900m、Y=14,700mを用いた。この原点を通る磁北から西へ60°振った直線を基準緯線とし、これと直行する線を基準経線とした。調査区域内の位置は、基準経緯線を用い座標原点から距離を算出し、西から東に向かってA～O、北から南に向かってI～IVの区画名を与え、IB、IVCなどのグリット名を付した。

遺構名はグリットごと検出順に1、2、3の番号を付し、IB-1号住居跡、IIIH-3陥穴のように命名した。遺構が複数のグリットにかかる場合は、より若いグリット名によった。また、整理の段階で別種の遺構となったり、遺構と認められなかった場合は欠番とした。

## (2) 粗掘り・遺構検出

当初、2 m幅のトレンチを任意に地形に応じて入れ、遺跡の状況把握につとめた。その結果、遺跡の西側の畑地および荒地の堆積状況が良好で、水田として利用されている殆どが開田工事に伴って削平されていることを確認した。したがって、前者については人力で掘下げ、後者は削平されている面まで重機によって除去した。検出された遺構は原則として住居跡の場合は4分方、土壇類は2分方によった。

## (3) 基本層序

遺跡の大半が削平されているため、良好な土層が観察できたのは調査区の西側のみである。

- 1層：表土（耕作土）、水田には存在しない
- 2層：褐色土、遺物を少量含む。畑地のみ存在。
- 3層：黒色土、遺物を含む。基本的な遺構検出面であるが、大部分は削平されている。
- 4層：(黒)褐色土、西側で部分的にしか存在しない。遺物を含む。
- 5層：地山

## (4) 実測・写真撮影

平面実測はグリットに合わせた1 mメッシュを基本とした。住居跡の場合は1/20、土壇類・その他の遺構は1/10の縮尺を原則とした。写真撮影は35mmモノクロとカラーズライド各1台、モノクローム6×7判1台を使用。実際の撮影は、各種の埋土堆積状況や、遺物の出土状況、完掘状況、全景などについて行い、調査の終了段階でラジコンヘリコプターによる空中撮影を行った。

## 2. 室内整理

野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は、室内整理の段階で次のように処理、整理し、報告書作成とするとともに、資料化を計った。

各実測図面は遺構ごとに分類し、原図点検の上、必要なものについては第二原図を作成しトレースを行った。撮影されたフィルムは、ネガアルバムに密着写真と一緒にして収納した。カラーズライドフィルムはスライドファイルに撮影順に収納した。遺物は発掘現場および当センター整理室で水洗いした後、出土地点・層位等を注記した。その後、地点・層位ごとに仕分けを行い、接合復原作業を実施した。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮尺して図化した。炭化物、植物遺存体、石材の分析は、外部の専門家に委託した。

報告書は以上の作業を経て編集した。各遺構、遺物図面の体裁や細部については、それぞれのページに注記してある。

## IV. 遺構と遺物

### 1. 縄文時代の遺構と遺物 (第6図)

林崎館遺跡の遺構はすべて縄文時代に属するものと推定される。検出された遺構は竪穴住居跡18棟、フラスコピット11基、土壇8基、陥穴42基である。遺構配置図(第6図)に見るように遺跡の西側、台地の縁にフラスコピットが、南側には住居跡が集中し、土壇は散在している。陥穴はそれぞれのタイプ毎に集中する傾向にある。惜しむらくは、昭和40年代の開田工事により西側の一部を除いて、著しく削平されている。そのため、半数以上の住居跡は埋土、炉を失っている。はなはだしきは、床面に当時のキャタピラーの痕跡すら鮮明に残されている。したがって、遺物包含層も殆ど無く、住居跡床面出土とした土器も開田の際に運ばれてきた可能性がある。ただし、出土する土器の殆どは縄文時代中期のものであり、時期的には確実性が高い。各遺構と遺物は下記のとおりである。

#### (1) 住居跡(第7～49図、写真図版2～40)

##### II B-1号住居跡(第7図、写真図版2)

〈検出状況〉遺跡の西端、フラスコピット群の近くに位置している。B、C区は台地のへりに位置するため開田を免れ畑地となっており、包含層、埋土とも良好であった。検出面は3層黒色土の上面である。

〈形状・規模〉径5.3×4.7mの卵形のプランで、長径はほぼ北向きである。

〈埋土〉自然堆積で、上層は黒色土、下層は暗・黒褐色土に大別される。粘土質の土が多く、焼土、炭化物、遺物は、他の住居に比較して非常に少ない。

〈壁・床面〉壁はほぼ直立しており、深い所で20cmを測る。床面は平坦で堅い。

〈柱穴〉6本を検出したが、支柱穴はP<sub>1-1</sub>で正方形となる。他の2本は入口とも考えられるがP<sub>2</sub>に近すぎる位置にある。

〈炉〉検出されなかった。埋土、床面に攪乱はなく、床面周辺に焼土、炭化物が少なかったことからして、当初より炉は設置されていないかと推定される。

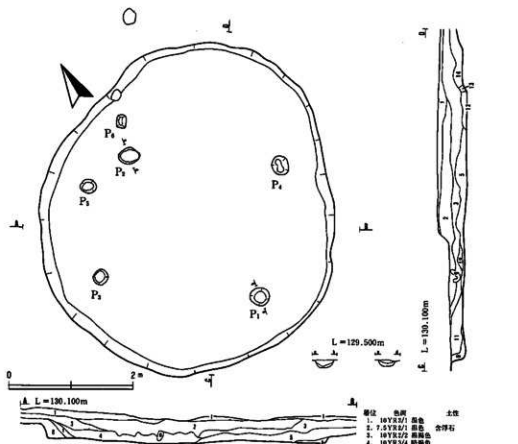
#### 遺物(第7・8図、写真図版3)

〈出土状況〉殆どが埋土上層からの出土で、床面からは出土していない。この状況は炉が存在しないことと関連があるものと思われる。

〈土器〉すべて鉢、深鉢の破片である。

〈石器〉16の擦石を除いて1層の出土。13、14は両面加工で完形。15は石棒状の擦石で擦り面

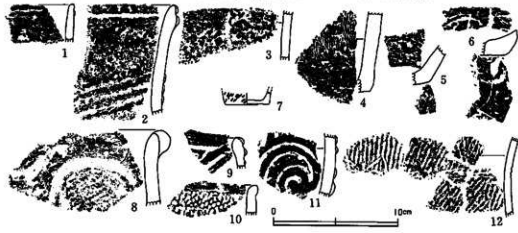




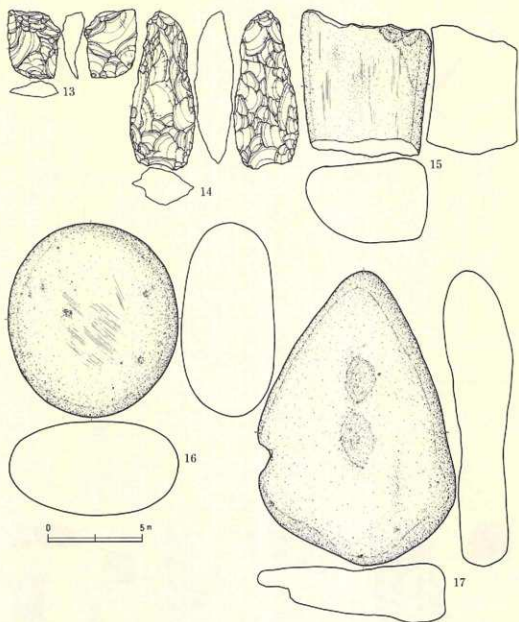
P. No.	(m)					
	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>
径(上缘)	20	24	24	20	26	20
径(下缘)	18	22	17	22	20	7
壁	13	11	9	10	8	14

- P<sub>1</sub>(a-b)  
 部位 色调 土性  
 1. 7.5YR4/3 褐色 粘土质  
 2. 7.5YR4/6 褐色 粘土质(密), 含炭化物
- P<sub>1</sub>(c-d)  
 部位 色调 土性  
 1. 10YR4/6 暗褐色 粘土质  
 2. 7.5YR3/6 暗褐色 粘土质(密)

- 部位 色调 土性  
 1. 10YR2/1 褐色  
 2. 7.5YR2/1 褐色 含浮石  
 3. 10YR2/2 暗褐色  
 4. 10YR2/4 暗褐色  
 5. 10YR2/4 暗褐色 粘土质(密)  
 6. 10YR4/4 褐色 粘土质(密)  
 7. 10YR2/3 暗褐色  
 8. 10YR2/2 暗褐色  
 9. 10YR2/2 暗褐色  
 10. 10YR2/2 暗褐色  
 11. 10YR3/4 暗褐色 粘土质, 基底L.C. p-A 层  
 12. 10YR3/4 暗褐色 含炭化物(少量)  
 13. 10YR4/6 褐色 粘土质  
 14. 10YR2/4 暗褐色



第7图 II B-1号住居跡・遺物(1)



図版No.	出土地点	器 種	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g	石 質	出 所
13	埋土1層褐色	燧石片	2.4	2.4	1.2	3.0	玉子石	平池、時代不明
14	埋土2層褐色	石ヘラ	4.5	3.5	2.1	49.4	燧質流石	赤野山地、阿蘇三湯中新石器
15	埋土1層褐色土	磨石	7.6	7.0	4.8	1270	燧石(凝結石)	赤野山地(夏湖川)、新第三紀群峰統
16	埋土4層褐色	磨石	10.2	8.0	5.0	679	"	"
17	埋土1層褐色土	肉石片	15.4	10.5	3.2	1620	"	"

第8図 II B-1号住居跡・遺物(2)



No	出土地点	器形	特 徴・文 様・その他
1	埋土 3層	小形鉢	口縁部隆沈線、頸部ヨコナデ
2	# 2層	深鉢	隆線による鬚文、頸部無文
3	# #	#	体部下半無文
4	# #	#	体部下半～底部、鬚糸文、底部ナデ
5	# #		同 上 #
6	# #		手掘土器、無文
7	# #	小形鉢	底部ミガキ、LRヨコ
8	埋土 1層	深鉢	太い隆帯による区画、RLナナメ
9	# #	鉢	隆沈線、鬚文あるが不明
10	# #	深鉢	L 4本による組紐、上端は側面圧痕
11	# #	#	隆沈線による鬚文
12	# #	#	沈痕文、頸部、RLナメ

が凹んでおり、擦痕は縦に走る。砥石の可能性もある。17は中央部に浅い二つの凹みを持つが敵きによる凹みではなく、擦り込みの加圧によるものか、滑らかな凹みである。

〈時期〉直接的に時期を示す資料はないが、埋土の土器は大木8b式であり中期と推定される。

### Ⅲ C-1住居跡（第9図、写真図版4）

〈検出状況〉II B-1号住から東側20mの地点で、基本層序3層中に検出された。良好な埋土が存在するのはこのC区周辺までである。ほかの遺構との重複はない。

〈形状・規模〉4.85×3.80mの隅丸長方形で、壁際には支柱穴がめぐる。北側には細く浅い溝が走るが、本来的なものと思われる。南壁際には炭化物の多い埋土をもつピットがある。長軸はII B-1号住と同様やや東に寄る。

〈埋土〉自然堆積で5層に分類される。

〈壁・床面〉やや外反する壁であるが、北側半分は10～20の幅で崩壊している。床面はほぼ水平で堅くしまっている。

〈柱穴〉支柱穴を含めて16本が検出された。深さ20cm以上のP<sub>1,4</sub>が結ぶと方形になり支柱穴となろう。支柱穴は東側で一部分とぶが、他は等間隔に配置されている。P<sub>2,3</sub>の役割は不明。

〈炉〉8個の川原石で構成された方形の石囲炉で、襖は長辺を縦にして埋設している（写真参照）。西端のコーナーには深鉢が伏せた状態で出土した。掘り込みの深さ25cmで、焼土は5cmの厚さである。断面からすると土器の埋設はともなわない。

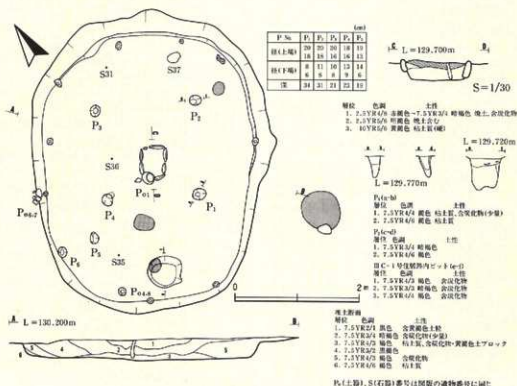
### 遺物（第10・11図、写真図版5・6）

〈出土状況〉各層から万遍なく出土しているが、特に床面からは小ブロック状にまとまって出土している。6、7は壁にかかって、4、8はピットの上面で出土。石器も4点床面から出土

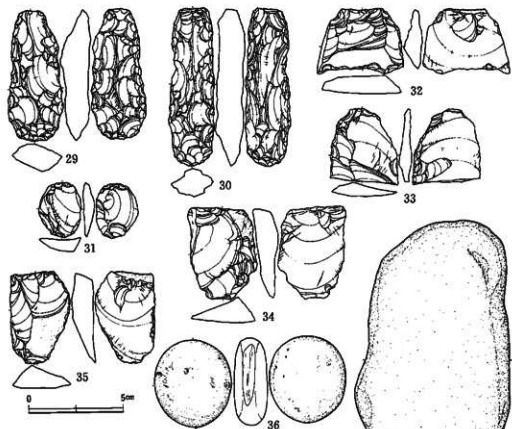
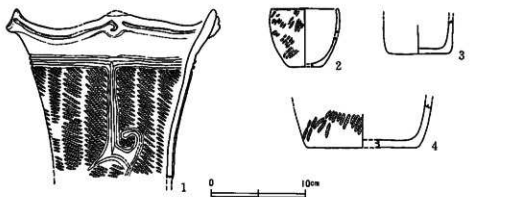
している。住居跡の東側やや離れた地点で大型深鉢の破片が集中していた。

〈土器〉1は炉石に倒立した状態で検出。底部を欠損しており、隣に扁平な自然角礫が出土、この礫が蓋の役目をしていた可能性もある。その場合は炉あるいは住居の廃棄に伴う儀礼の遺物とも考えられる。床面の土器は完形品はなく、図化できたのは小型の鉢のみである。

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	炉	深鉢	突起4個の波状口縁、頸部無文、波頂部に対応して隆沈線(曲線と直線が2対)LRタテ、付着物なし
2	床	小形鉢	1/3残、底面ミガキ、RLナナメ
3	1層	#	内外面ヘラ、底部ナデ
4	ビット埋土	深鉢	LRヨコ、底部刷代の上からナデ
5	床	#	浅い沈線による三本単位の施文、LRタテ
6	壁際 5層	深鉢	波状口縁、頸部無文・平行隆線、RLヨコ
7	# # #	#	#、頂部溝文、頸部無文、三本沈線の施文
8	ビット埋土	#	体部下平、底部ナデ、RLタテ、部分的に炭化物付着
9	3層	#	口唇部深い沈線、口縁無文、浅い沈参文、RLタテ
10	# # #	#	体部平、細いタテの平行沈線、LRタテ
11	2層	#	平縁、口縁部隆線X字状文、頸部粘土層付、RLタテ
12	# # #	小形鉢	波状口縁、口縁部溝文、隆線文、LRヨコ
13	# # #	#	#、#、#、#、#
14	#	深鉢	口縁付近、橋状把手、全面ミガキ



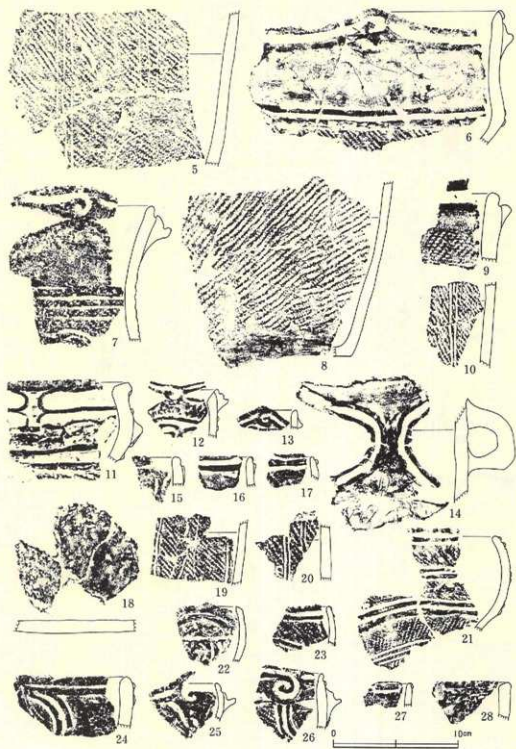
第9図 III C-1号住居跡



図号	出土地点	器名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	産地
29	日置野原	石ノ子	6.9	2.9	1.7	27.6	流紋岩(流紋岩)	島根山陰、新井三島中野原
30	ピット地上中層	"	8.3	2.4	1.5	25.6	流紋岩	" "
31	層	ピノス、スロキーン	2.9	2.3	0.7	4.5	流紋岩	" "
32	日置野原	磨石	3.5	4.6	1.9	17.5	流紋岩(流紋岩)	" "
33	日置野原	"	4.5	3.6	0.7	19.0	流紋岩	" "
34	日置野原	"	4.9	3.7	1.4	23.0	流紋岩(流紋岩)	" "
35	層	"	4.9	3.7	1.2	18.4	流紋岩	" "
36	層	磨石	4.4	4.1	1.7	27.4	流紋岩(流紋岩)	" "
37	ピット	磨石	22.2	19.2	2.2	4,300	輝石質流紋岩	島根山陰(流紋岩)、新井三島中野原

S=1/4

第10図 ■C-1号住居跡・遺物(1)



第11圖 III C-1号住居跡・遺物(2)

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
15	2層	鉢(?)	口縁部裝飾突起の一部
16	#	小形鉢	口縁部隆線
17	#	#	#
18	#	鉢	底部片、甕代の上からナデ
19	#	深鉢	体部片、沈線文、LRタテ、炭化物付着
20	#	#	キャリバー形、口縁部隆線文、体部沈線文、口縁部RLヨコ、体部RLタテ
21	1層	鉢	口縁内溝、隆沈線
22	#	#	#、#
23	#	#	#、#、#、口縁部にも隆文、RLヨコ
24	#	深鉢	キャリバー形、口縁部隆線文、RLヨコ
25	#	小形鉢	#、#、#
26	#	深鉢	口唇部隆線剥落、渦巻状突起、隆線文、RLヨコ
27	#	小形鉢	口唇部に一本の隆線
28	#	深鉢	粗製、無文

〈石器〉31、35、36、37は床面、30はビット埋土の出土。33を除いて完形品である。32は先端部に刃を、33～36は側縁に刃をもつ。36は全面を磨っているが、特に側面を丁寧に加工している。37は一面をフラットに磨りあげた台石状の石器。

〈時期〉炉、床面の土器は大木8b式であり、中期に属する。

### Ⅲ D-1号住居跡(第12図、写真図版7・8)

〈検出状況〉ⅢC-1号住居の両側7mの地点で炭化物の集中する面を検出し、その分布範囲から住居跡と確認した。開田のため埋土の一部は削平されている。炭化材、灰の分布状況は焼失家屋であることを示している。

〈形状・規模〉5.35×4.25mの隅丸方形を呈する。

〈埋土〉下層は自然堆積である。床面に近い層には多量の炭化物が含まれ、材は炉に向かって放射状となる。東南には材は少ない。この上層には粘土ブロックの投げ捨て(9、12、16層)が見られ、さらに上層は土器の廃棄の場となっている。

〈壁・床面〉ゆるやかに外反する壁で、床面は平坦で堅くしまっている。

〈柱穴〉主柱穴は4本で構成されると思われるがP<sub>1,3</sub>の位置が他の三本とずれており、方形とはならない。三本と対応する位置では検出できなかった。P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>とも深さも近似しており(新旧は不明)これらを含めた不正形の4本柱で構成されていたと推定される。

〈炉〉竈穴および柱のほぼ中央に位置する地床炉である。掘り込み周辺は灰が分布し、中央に層高5cmの焼土がある。炉の東側に扁平な自然礫があるが関連は不明。加熱されてはいない。

遺物(第13～20図、写真図版9～12)

〈出土状況〉床面にはりついた遺物は皆無で、直上の3、14層から少量の遺物が出土している。

大多数の遺物は中層の2層および上層の1層の周辺からの出土で、これらの遺物は廃棄されたものである。87の土偶も2層の検出で、他の土器片に混じって出土している。

〈土器〉3、17~21が床直3、14層の出土、22~30はその上層あるいは周辺ブロック的な層から出土したものである。31以下は2、1層の土器が殆どのため完形品はない。器種は深鉢が大多数を占め、図示した86点中浅鉢は3点のみである。深鉢は口縁部がキャリバー状のものと、外反するものとに大別できるが、量的には前者が多い。縄文は単節が多く、複節は3点のみである。1は注口土器、75は口縁に一对の孔がある。

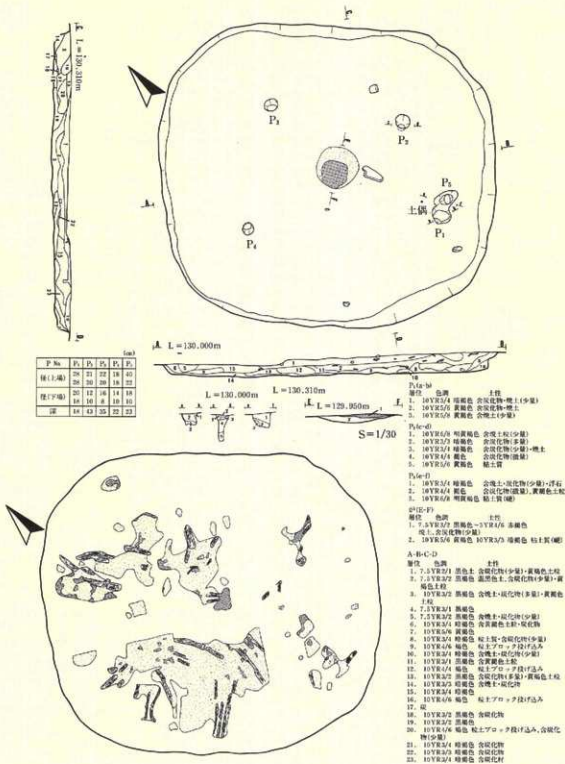
No.	出土地点	器形	特 徴・文 様・その他
1	埋土 2層	注口	口縁部欠、注口先端欠、2本単位の沈線文、内面・底部ミガキ、RLタテ
2	〃 〃	小型鉢	縄文、底部磨痕、RLタテ
3	〃 3層	深鉢	波状口縁、キャリバー形、隆沈線文、体部地文のみ、口縁RLヨコ、体部RLRタテ
4	〃 2層	〃	平縁、キャリバー形、隆沈線文で口縁部区画、体部地文のみ、口縁LRヨコ、体部RLタテ
5	〃 1層	〃	平縁、突起突起、口縁部隆沈線RLヨコ、体部沈線文RLタテ、内外面炭化物
6	〃 2層	〃	大型キャリバー、推定最大径47cm、口縁部隆沈線、頸部無文、RLタテ
7	〃 〃	〃	波状口縁、口縁部深い沈線、体部隆線、頸部無文、LRタテ
8	〃 〃	〃	平縁、口縁部外反・隆線、頸部無文、沈線文、RLタテ
9・10	〃 1~2層	〃	体部、隆沈線、底部ナデ、LRタテ
11・12	〃 〃	〃	体部下半、〃、〃、RLタテ
13	〃 〃	〃	粗製、口縁部2本の平行隆線、LRタテ・ヨコ
14・15	〃 〃	〃	体部下半、地文のみ、底部ミガキ04、RLタテ
16	〃 〃	浅鉢	〃、〃、〃、RL
17	〃 3層	小形鉢	平縁、隆沈線、RLヨコ
18	〃 〃	深鉢	粗製、平縁、頸部隆帯に刻目
19	〃 〃	〃	体部下半~底部(ナデ)
20・21	〃 14層	〃	粗製、平縁、口縁に一本の隆線(20LRタテ)
22	〃 9層	小型鉢	キャリバー型、頸部無文、RLヨコ
23	〃 6層	深鉢	体部下半、細く浅い沈線、RLタテ
24	〃 12層	小型鉢	平縁、口縁下に一本の隆線
25	〃 6層	〃	〃、三本沈線、LRタテ・ヨコ
26	〃 〃	〃	口縁部付近、キャリバー型、隆沈線、LRヨコ
27	埋土 中層	深鉢	粗製、口縁内湾、隆線貼付
28	〃 〃	〃	体部下半、隆線文、LRタテ
29	〃 〃	〃	波状口縁、LRヨコ
30	埋土 中層	深鉢	体部下半~底部(ナデ)
31	埋土 2層	〃	波状口縁、キャリバー型、頂部下に隆線の縄文、口縁RLヨコ、体部タテ
32~34	〃 〃	〃	平縁、キャリバー型、隆沈線、32RL・33LRヨコ、34LRタテ・ヨコ
35	〃 〃	〃	キャリバー型、隆線文、縄文なし
36	〃 〃	〃	平縁、キャリバー型、突起の左右に双縄文、LRヨコ
37・38	〃 〃	〃	波状口縁、キャリバー型、隆沈線、37L・38LRヨコ
39	〃 〃	〃	〃、口縁内湾、LRヨコ
40	〃 〃	〃	〃、二本隆(沈)線の縄文、頸部無文、LRヨコ
41	〃 〃	〃	平縁・内湾、隆線貼付文、地文(不明)の上をナデ
42・43	〃 〃	〃	〃、キャリバー型、隆沈線、42LR・43RLヨコ

No	出土地点	群形	特徴・文様・その他
44	埋土 2層	小型鉢	#、#、平行隆線、RLヨコ
45	# #	深鉢	波状口縁、二本隆線施文、LRヨコ
46	# #	#	平縁、隆沈線直接タテ展開、横C字状文
47・48	# #	#	#、頸部に太い隆線、47縄文の上をナデ、48LRヨコ
49	# #	#	平縁、口縁部平行隆線、LRヨコ?
50	# #	#	#、キャリバー型、口縁部隆沈線、頸部沈線文、RLヨコ
51~53	# #	#	波状口縁の頂部に縄文、51頸部剥落、52LRヨコ、53は縄文剥落
54	# #	小型鉢	波状口縁、体部文様タテ展開、LRタテの上からナデ
55	# #	深鉢	口縁外反無文、頸部に隆線、体部浅い沈線文、LRタテ
56	# #	#	波状口縁頂部沈線のみ、LRタテ
57	# #	#	波状口縁、口縁と頸部太い平行隆線、頸部ミガキ、穿孔焼成後
58	# #	#	平縁直立、頸部平行隆線、RLヨコの上からナデ
59・60	# #	#	#、口縁平行隆線、体部隆沈線縄文?、LRヨコ
61	# #	#	平縁、頸部粘土帯に刻目、体部平行沈線、原体不明
62	# #	#	#、口唇部・隆線間厚体押圧、RLタテ
63	# #	#	体部、沈線文、表面剥落、LRヨコ
65	# #	#	#、頸部無文、鋭利な隆沈線(部分的に剥落)、RLRタテ
66・67	# #	#	#、三本沈線施文、RLタテ、66炭化物
68・69	# #	#	粗製、平縁、墨線貼付(69剥落)、無文
70~72	# #	#	#、#、#、縄文
73・74	# #	#	#、#、無文
75	# #	浅鉢	平縁、平行線文、焼成前の穿孔一対突起状、RLタテ
76	# #	#	波状口縁、頂部縄文か?、内面ミガキ、RL
77~79	# #	深鉢	底部ミガキ又はナデ
80・81	# #	#	底部網代文、1体越え、1本書り、1本送り、80LRタテ
82	埋土 1層	小型鉢	波状口縁頂部縄文
83~85	# #	#	平縁、キャリバー型、隆沈線、RLヨコ
86	# #	深鉢	体部、沈線文、LRタテ

〈石器〉床面出土はないが、直上の3層からは5点の礫石器が出土している。90は石鏃、91は片面加工の鏃、92は気泡の混じる黒曜石製の種削器、96は横長剥片の先端を加工。97は小型扁平磨製石斧で上部欠損。98、99は擦痕のある小さな礫。100~103凹石でいずれも両面を使用している。102は側面を擦っている。104~110は平面、側面を利用した擦石。111、112は太い擦痕があり、113は擦り面が窪んでいる。

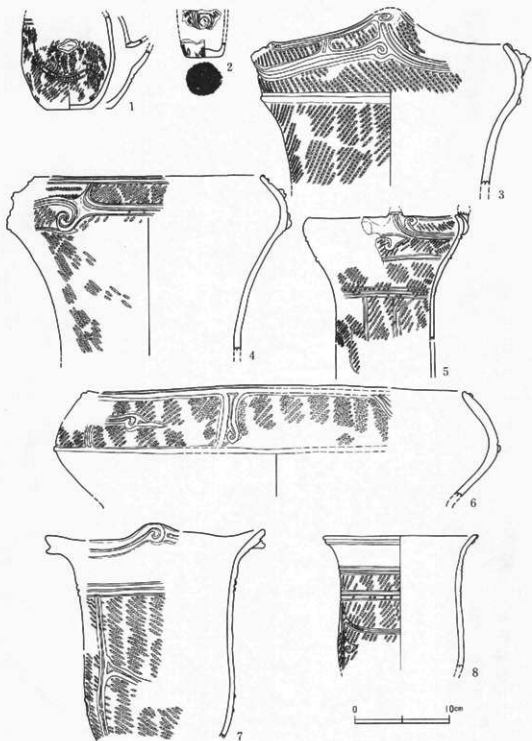
〈土製品〉87は土偶で顔面は欠損、腕は左右に短く張り出している。脚部も欠損しているが、背面の造りからすると直立はしないで、全面に出る座位の姿と推定される。全面粗いヘラケズリで腹部の円形沈線の中には細かい刺突文があり、胸元には太い刺突と2条の縄文がある。背面は1条の縄文があるのみである。2層からの出土。88は3層出土で土偶の脚のように見えるが、両端の窪みは生きて周囲が折れている。糸巻状の形態が考えられる。89は硯状の方形の形態で縁が一段高くなっている。背面は欠損、2層の出土である。

〈時期〉直接的な資料に乏しいが、土器は大木8b式が殆どであり、中期に属する。

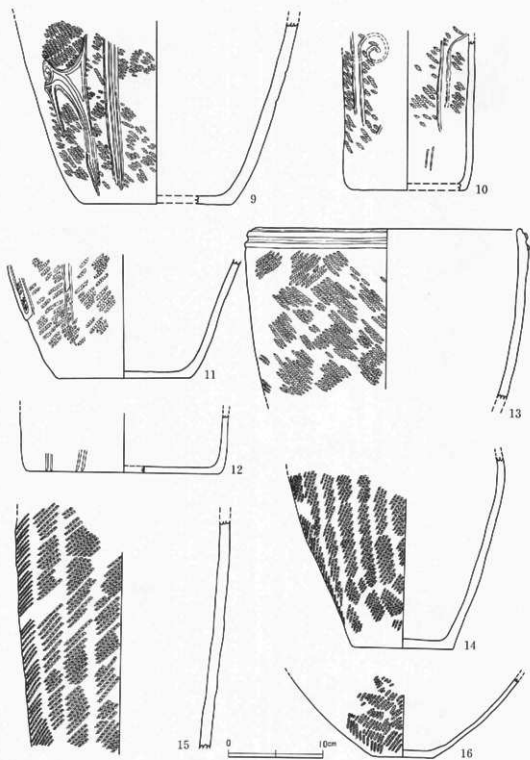


第12図 ■ D-1号住居跡





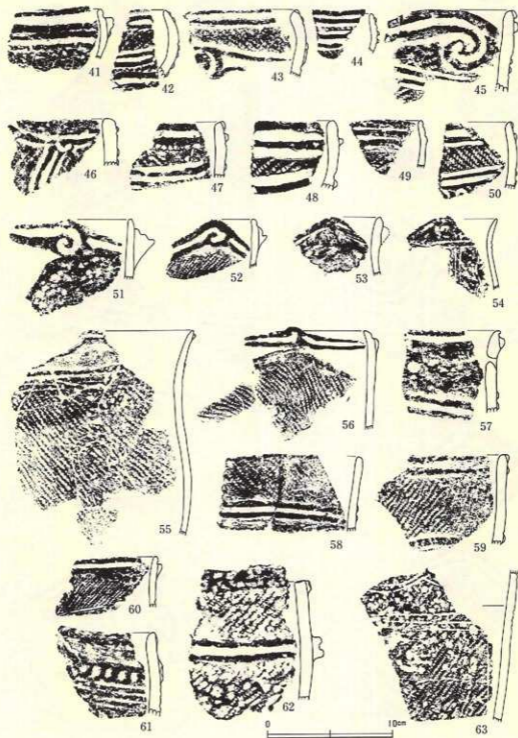
第13圖 III D-1号住居跡遺物(1)



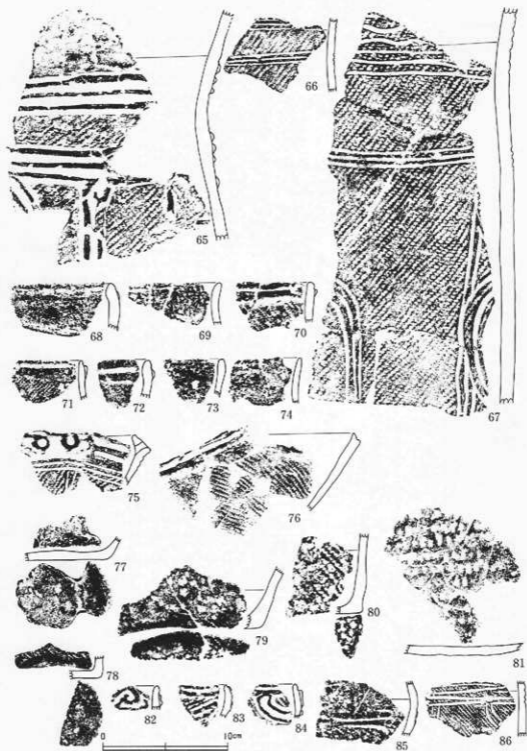
第14图 III D-1号住居跡遺物(2)



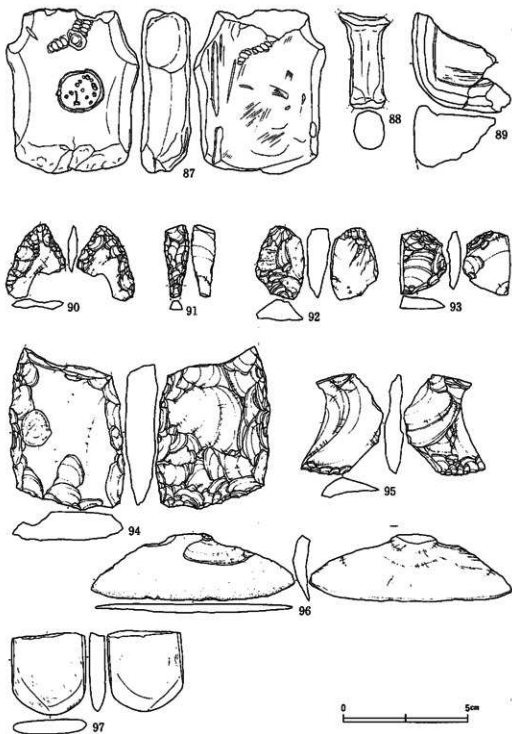
第15图 III D-1号住居跡遺物(3)



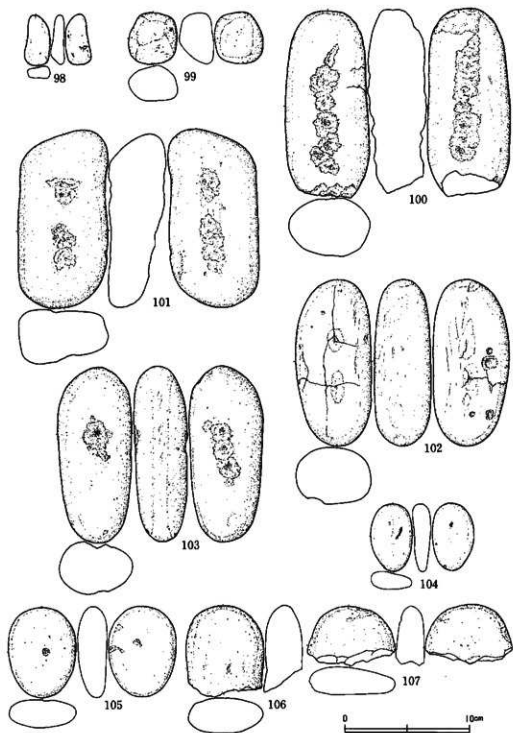
第16图 III D-1号住居跡遺物(4)



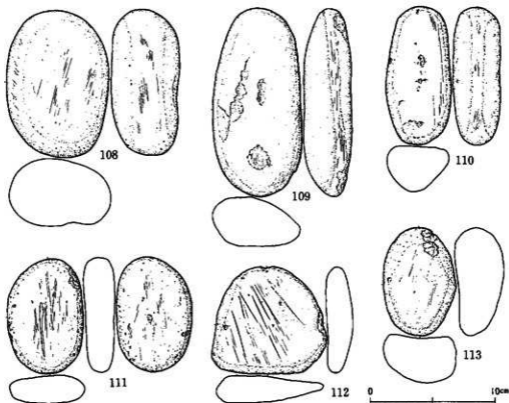
第17图 III D-1号住居跡遺物(5)



第18圖 ■D-1号住居跡遺物(6)



第19图 III D-1号住居跡遺物(7)



図版No	出土地点	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石	質	産地
108	塚上2層	石鉢	5.0	2.4	0.4	12.0	硬質泥岩		美濃山地、新第三系中新統
111	"	石鉢	3.0	1.0	0.4	1.3	地質泥岩		"
112	"	漆川器	3.0	1.9	0.9	5.4	湖原石		尾張、時代不明
113	"	"	1.0	2.0	0.9	13.22	地質細粒凝灰岩		美濃山地、新第三系中新統
109	"	"	6.4	4.6	1.3	108.4	硬質泥岩		"
110	"	"	4.0	3.3	0.8	7.8	"		"
114	"	"	2.7	2.2	0.7	19.00	淡緑色細粒凝灰岩		"
115	"	磨製石鈔	3.3	3.0	0.7	111.3	粘板岩		尾張河、古生帯
116	塚上3層	漆川	4.1	2.1	1.1	11.4	淡緑色細粒凝灰岩		美濃山地、新第三系中新統
117	塚上2層	"	4.1	3.0	2.0	80.0	礫石質砂岩		美濃山地(夏油川)、新第三系中新統
118	塚上3層(A・B)	漆川	14.9	6.6	4.7	150.1	細粒質緑色凝灰岩		美濃山地、新第三系中新統
119	塚上4層	"	14.2	7.2	4.6	648	礫石質砂岩		美濃山地(夏油川)、新第三系中新統
120	塚上2層	"	13.3	6.0	4.5	295	淡緑色細粒凝灰岩		美濃山地、新第三系中新統
121	"	"	14.0	5.9	4.2	415	細粒質緑色凝灰岩		"
122	塚上10層	漆川	5.4	3.3	1.3	34.9	淡緑色細粒凝灰岩		"
123	塚上2層	"	7.3	5.4	2.4	120	細粒質緑色凝灰岩		"
124	"	"	7.3	6.2	3.1	148	イイヤイ質粘石凝灰岩		美濃山地(夏油川流域)、新第三系中新統
125	"	"	4.8	7.0	2.3	154.5	礫石質砂岩		美濃山地(夏油川)、新第三系中新統
126	塚上3層	"	11.6	8.2	5.5	708	"		"
127	"	"	14.8	7.1	4.0	950	礫石質凝灰岩内層岩		尾張津田、新第三系中新統
128	塚上2層	"	11.0	5.2	3.8	385	礫石質砂岩		美濃山地(夏油川)、新第三系中新統
129	"	"	9.1	6.0	3.5	125	イイヤイ質粘石凝灰岩		美濃山地(夏油川流域)、新第三系中新統
130	"	"	8.5	3.2	2.2	180	"		"
131	塚上3層	"	8.6	3.8	4.0	210	礫石質砂岩		美濃山地(夏油川)、新第三系中新統

第20図 ⅡD-1号住居跡遺物(8)



#### IV D-1号住居跡(第22図、写真図版13)

〈検出状況〉IV D-2号住の南側4mの地点で検出した。III C-1号住を含めて3棟が南北に並ぶ。床面ぎりぎりまで削平されているため埋土は無く、西側で数cmの壁の一部を検出したのみである。南側は調査区域外である。東側で複数の柱穴と重複する。炉は検出できなかったが、これをIV E-1号住居跡とした。新旧は不明である。

〈形状・規模〉形状は不明。規模は、炉が中央に位置すると仮定すれば長径7m前後の楕円形状の大型になる。炉の大きさからすると妥当な規模であろう。

〈柱穴〉当住居に属すると思われるものはP<sub>1-10</sub>であろう。P<sub>8</sub>付近は床面が削平されていることを考慮すれば、いずれも50cm以上の深さとなる。配列はP<sub>1-8</sub>の8本柱が考えられる。

〈炉〉ほぼ中央と推定される位置にある。埋設土器を伴うコ字状の配石炉である。南側コーナーの石は開田の際に移動したもので、割れ口が新しく、かつ石の在った痕跡がある。北側では石を検出できなかった。本来存在していた痕跡も認められず、掘り込みのラインが明確であることからすると擾乱の可能性も薄く、もともと一辺に石のない配石炉と考えるべきであろう。この辺には斜め内側に入るピットが2個ある。また、埋設土器に接してもピットがある。

#### 遺物(第21図1~12、写真図版15)

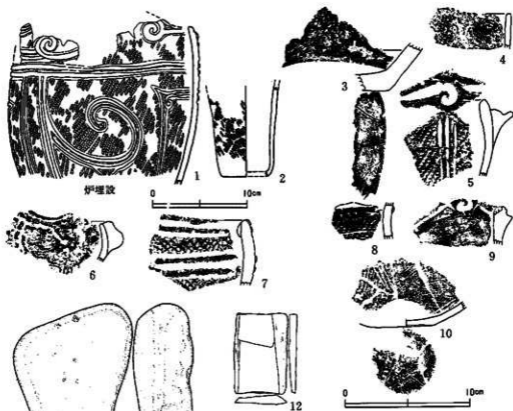
〈出土状況〉炉、床面、柱穴の遺物は信頼できるが、かすかにあった埋土出土のものは開田の際に動かされている可能性がある。

〈土器〉1は炉埋設で口縁部、底部を欠く。炉面よりやや下で検出した(写真図版 参照)。2は床面、3、4はP<sub>10</sub>他は埋土である。

〈石器〉2点出土したがいずれもP<sub>8</sub>の埋土からである。11は平面三角形の長辺の側面を利用した擦石、12は石剣あるいは石棒状の破片で、両側に加工面を残している。

〈時期〉埋設炉の土器は大木8b式であり、中期に属する。

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	炉内	深鉢	口縁、底部欠、磨沈線文、隆線2本の施文、LRヨコ
2	床面	小型鉢	#、#、地文のみ、LRタテ・ナナメ
3	P <sub>10</sub> 埋土3層	深鉢	体部下半~底部(ナデ)
4	# 4層	小型鉢	粗製口縁部、RLヨコの上からナデ
5	埋土	深鉢	波状口縁、頂部粥文直下に沈線3本タテ、RLRLタテ
6	#	#	平縁、キャリパー型、口縁部突起、隆線文
7	#	#	#、#、隆沈線、RLヨコ
8	#	小型鉢	頸部~体部、隆線区画、体部沈線文、RLタテ
9	#	深鉢	波状口縁、頂部粥文、ミガキ
10	#	浅鉢	体部タテの平行沈線文、底部ミガキ、RL

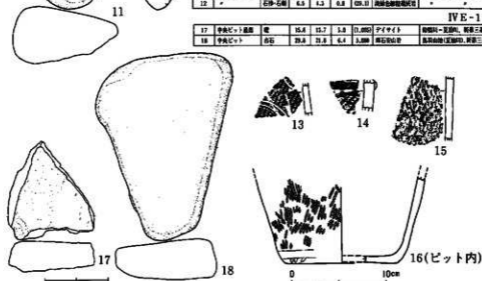


ND-1号住

図例No.	出土地点	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質	備考	出所
11	庭元	磨石	13.5	9.5	4.8	879	砂岩	表面に黒い斑点あり	奈良大学考古学研究所蔵
12	*	石印之類	6.5	4.3	0.8	209.11	角閃片岩	表面に黒い斑点あり	*

IVE-1号住

17	中興ビード遺物	磨	15.6	13.7	5.8	1,080	アイヤイト	表面に黒い斑点あり	奈良大学考古学研究所蔵
18	中興ビード	磨石	29.6	21.8	6.4	3,388	磨石	表面に黒い斑点あり	奈良大学考古学研究所蔵



(1-12ND-1号住、13-18IVE-1号住)

第21図 ND-1号、IVE-1号住居跡遺物



#### Ⅳ E-1号住居跡 (第22図、写真図版16)

〈検出状況〉ⅣD-1号住を精査中に多数の柱穴を検出、住居跡として扱ったが削平が激しく、確証はない。周辺は大小のピットが検出されており、削平された遺構がさらに存在していた可能性もある。

〈形状・規模・柱穴〉深さからすると主柱穴となりえるのはP<sub>1-4</sub>であるが、P<sub>1</sub>は位置的に外れる。P<sub>2-4</sub>と調査区域外にあるであろう柱とが主柱と推定される。規模は柱間隔からするとⅢD-1号住とほぼ同じである。

〈ピット〉P<sub>3</sub>の東側(ピット1)、P<sub>2</sub>の南側(ピット2)検出。前者は深さ70cmあり、埋土上層には土器が、下層には礫を含んでいた。柱穴よりは大きく、掘り方も丁寧である。同様のピットはⅢG-2号住にもあり、その位置は東南の柱の近く(当住居跡は未検出であるが)であることも共通している。さらには両住居跡とも炉が検出されていない。埋土に炭化物は少量含まれてはいるが、焼土はなく炉とみなす根拠は少ない。当住居の場合は削平された可能性も考えられなくはないが、類例のあることからすれば最初から炉は存在せず、ピット1は異なる目的を有する施設と考えられる。ピット2は深さ65cmでやや斜めに掘られている。中からは多量の炭化物が出土した。肉眼で観察したかぎりでは、炭化した堅果類と細い木材であった。資料の一部をバリノ・サーヴェイ株式会社と同定委託したところ、次のような結果を得た。「炭化材、炭化したクリの種子である。ほとんど果皮をつけずに炭化しているものと考えられる。種子の大きさの推定値は、幅1.4~1.8cm、高さ1.3~1.8cmである」(抜粋)。同定委託しなかった資料のなかにはクルミの種子と思われるものも含まれている。ピット内は少量の土以外は多量の堅果類と炭化材片が詰まっていた。柱穴とするには曲がった穴で適さず、もともとこのような堅果類を貯蔵するための施設と考えられる。ナツツ・ピットと仮称しておく。

#### 遺物 (第21図、写真図版17)

〈出土状況〉13、14は床面として取り上げたが、確実性はない。15はP<sub>4</sub>の埋土、16はピット1の埋土上層で1/4残。17、18もピット1埋土中でいずれも底部に近い5層の出土である。

〈土器〉13は小型鉢、14、15は深鉢片で後者は燃糸文、16は隆沈線文をもつ深鉢で、内面に炭化物付着、底部網代の上からミガキ。

〈石器〉17は無加工の角礫と思われるが、三角形に打ち欠いた可能性はある。18は扁平な川原石、台石と思われる。

〈時期〉土器はすべて大木8b式であり、中期に属する。

#### ⅣD-2号住居跡（第23図、写真図版14）

〈検出状況〉ⅢD-1号住とⅣD-1号住の中間に位置する。水田客土を除去した後、焼土、柱穴を検出した。埋土、壁等は一切削平されており、炉の断面から判断すると床面も削られている。

〈形状・規模〉形状は不明。規模も不明であるが、東西の柱間隔2.6m、南北2.3m、これを炉、柱穴の位置が類似しているⅢD-1号住に比例させると長径6.2、短径5.3mとなる。他の住居の例からすると隅丸形状と推定される。ただし、この規模とすると東側にあるピットが壁にかかることになる。埋土は判断材料とならず、この住居に伴う施設であるかどうか不明である。

〈柱穴〉炉の周囲に4本を検出。間隔は上記のとおりで支柱穴となる。

〈炉〉中央と思われる位置にあり皿状の掘り込みがある。焼土の上面が削平されているため石があったかどうかは不明である。検出面では痕跡は認められなかった。

#### 遺物（第23図、写真図版15）

〈検出状況〉すべて土器片である。1、2は柱穴内の出土ではあるが、他は上記の理由により必ずしも原位置を保っていないと推定される。

〈土器〉1はP<sub>12</sub>はP<sub>3</sub>の埋土から、他の検出面での出土。いずれも深鉢片で、隆沈線の施文縄文はRLとLRの両者がある。

〈時期〉5点とも同時期であり、柱穴内の土器が原位置を保っているとすれば大木8b式で中期に属する。

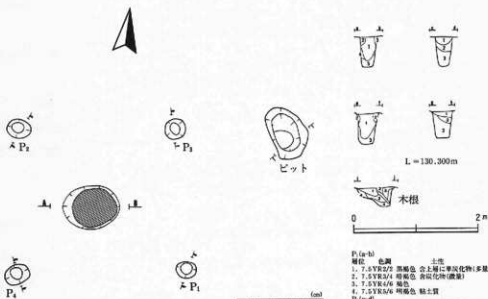
#### ⅣE-2号住居跡（第24図、写真図版18）

〈検出状況〉ⅣE-1号住の南側、農道を挟んだ位置で検出された。距離的にみるとⅣE-1号住とはほぼ接している。水田客土の下で焼土と柱穴を検出したが、炉断面から判断すると、床面下まで削平されている。調査区域外に見える土層は、農道の客土である。

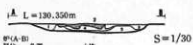
〈形状・規模・柱穴〉壁、床ともになく形状は不明である。柱穴は周辺を含めて7本検出されたがP<sub>12</sub>は直接的に関係のない位置にある。配置からするとP<sub>2,3,8</sub>と未検出の4本柱も想定可能であるが、焼土の広がりやを考慮すると炉が北側に寄りすぎている。他の住居の炉が柱穴内の中央に在ることからすると、北側に伸びて6本の長形状となるか、あるいはP<sub>4</sub>を含めた六角形の配置が考えられる。その場合は径6m以上の規模が想定される。

〈炉〉半分が農道下にあるため形状は不明であるがP<sub>2,3,8</sub>に平行するような方形の炉と思われる炉石を伴うかどうかは削平のため不明。浅い掘り方は残っており万遍なく焼土が詰まっている。北側に寄った位置に深鉢体下半の埋設土器がある。

#### 遺物（第25図、写真図版20）

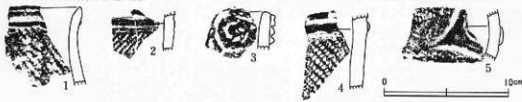


(cm)				
P No.	P1	P2	P3	P4
径(上端)	22	28	32	40
径(下端)	18	20	20	20
深	49	47	33	42



- Ⅱ(A-Ⅱ)  
 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR5/2 黒褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)  
 2. 5YR4/6 赤褐色 含炭土・炭化物  
 3. 7.5YR4/4 黄褐色 粘土質, 含炭化物(微量)  
 4. 7.5YR4/6 黄褐色 混黑色土  
 5. 10YR4/6 褐色 含炭化物・浮石

- Ⅱ(a-b)  
 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR2/5 黒褐色 含土層に炭化物(多量)  
 2. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(微量)  
 3. 7.5YR4/6 黄褐色  
 4. 7.5YR4/6 黄褐色 粘土質  
 P1(c-d)  
 1. 10YR3/4 暗褐色 含炭土粒・炭化物  
 2. 10YR3/6 黄褐色 含炭化物(微量)  
 3. 10YR3/6 黄褐色 断面にちがいが、黒い汚れ入る  
 P1(e-f)  
 1. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(多量)  
 2. 7.5YR3/6 暗褐色 含炭土  
 3. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土質, 含炭化物(少量)  
 P1(g-h)  
 1. 7.5YR2/4 暗褐色 含炭化物(多量)  
 2. 7.5YR3/6 暗褐色 含炭化物(多量)  
 3. 10YR3/3 暗褐色 含炭化物(多量)  
 ⅡD-2号住居跡内ピット  
 1. 7.5YR2/5 黒褐色 含炭褐色土粒・炭化物  
 2. 7.5YR4/3 黄褐色 含炭化物(微量)  
 3. 7.5YR4/4 黄褐色 粘土質, 含炭化物(微量)  
 4. 7.5YR4/6 黄褐色 断面に近く今中内に入る



第23図 ⅡD-2号住居跡・遺物

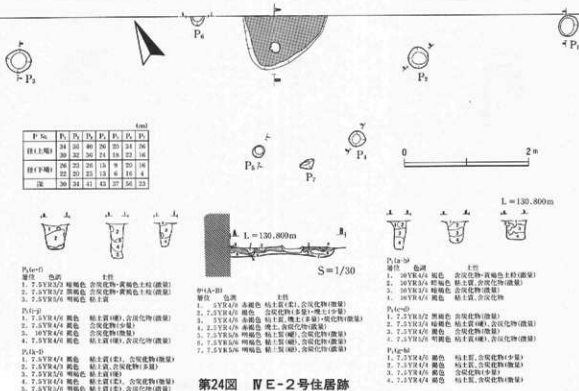
〈出土状況〉床面として取り上げた遺物は上記の理由により確実性に欠ける。3、9は炉内、4～8、12は柱穴埋土の出土。

〈土器〉いずれも深鉢、小形鉢の破片である。炉埋設土器の新しい割目は開田の際の破損であろう。

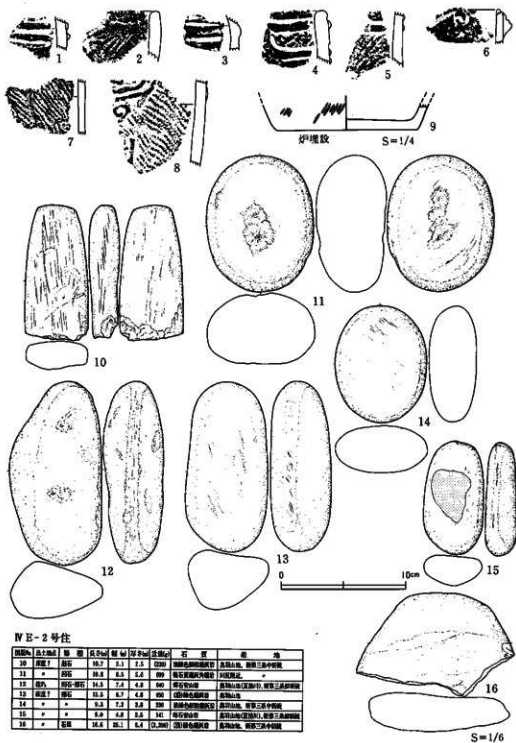
〈石器〉12がP<sub>3</sub>埋土柱であるが、この住居に伴う柱穴であるかどうか不明。これを除くとすべて検出面の出土である。10は破損した石斧を再利用した敲石、11、12は凹石で12は側面が擦石となっている。13は側面使用の、14、15は平面使用の擦石で、15の片面には黒い煤状の付着物がある。16は中央部が少し凹む石皿。

〈時期〉炉、柱穴出土の土器はすべて大木8b式で、中期に属する。

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面?	深鉢	キャリバー部分、平行隆線
2	#	#	粗製、LRヨコ
3	炉下層	#	キャリバー部分、太い隆帯、ミガキ
4	P <sub>2</sub> 、4層	#	平縁、太い隆線文、RLタテ
5	#	#	口縁一体部、隆線文、RLタテ
6	#、2層	小型鉢	波状口縁、頂部貼付の上から溝文
7	P <sub>1</sub> 、3層	深鉢	体部下半、LRタテ
8	P <sub>2</sub> 、2層	#	#、隆線文、LRタテ
9	炉埋設	#	底部、網代の上からナデ、外面炭化物、内面加熱でポロポロ



第24図 IV-E-2号住居跡



IV E-2 号住

图例号	出土地层	器名	长×宽	厚	孔径	重量	石质	备注
10	灰层 I	石斧	16.7	3.1	1.5	2260	褐色砂质页岩	高松山组, 第三层中上部
11	"	石斧	16.8	3.5	1.2	899	褐色砂质页岩	高松山组, 第三层中上部
12	灰层 I	石斧-磨石	14.5	7.4	4.2	860	褐色砂质页岩	高松山组(灰层 I), 第三层中上部
13	灰层 I	石斧	13.5	6.7	4.2	490	褐色砂质页岩	高松山组
14	"	"	9.3	7.3	3.2	290	褐色砂质页岩	高松山组, 第三层中上部
15	"	"	8.9	4.2	2.2	342	褐色砂质页岩	高松山组(灰层 I), 第三层中上部
16	"	石斧	16.4	10.1	6.4	(2,200)	褐色砂质页岩	高松山组, 第三层中上部

第25图 IV E-2号住居跡遺物



## IV F-1号住居跡 (第26図、写真図版19)

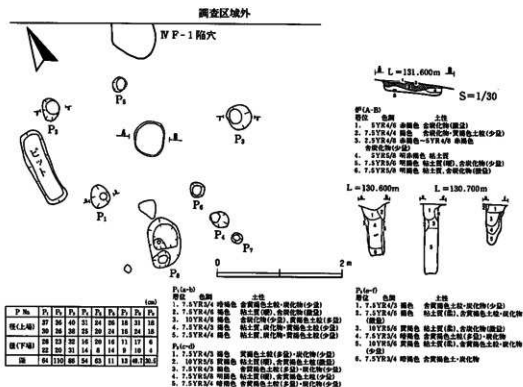
〈検出状況〉IV E-1号住の東側18mの位置にある。この間には複数の住居跡と思われる柱穴群 (IV F柱穴群) が存在している。この住居跡も著しく削平されており、炉、柱穴、ピットを検出できたのみである。写真で見ると検出面は重機のキャタピラ一跡で波打っている。

〈形状・規模・柱穴〉壁、床とも検出できず、形状は不明である。柱穴は9本検出しているが、方形を基本配置と考えたと径、深さからしてP<sub>1a-c</sub>の4本が相当する。ただ、その場合炉が西側に寄ることとなる。柱間隔東西2.0、南北1.8mを他の住居にあてはめると、径4.8×4.1mの規模が想定される。西側の浅い長方形のピットの正確は不明、埋土から土器片が出土している。北側調査区域外にかけてIV F-1号陥穴と重複している。埋土削平のため新旧の判断材料に乏しいが、陥穴の開口部が比較的残りが良いことからすると (第70図) この方が新しい。

〈炉〉上部を削平されたやや楕円形の地床炉と推定される。残存する部分には純粋な焼土は少なく、粘土が加熱された状況にある。

## 遺物 (第27図、写真図版20)

〈出土状況〉1~6、10~13は検出面の出土で、確実性に欠ける。7~9はピット内から出土。

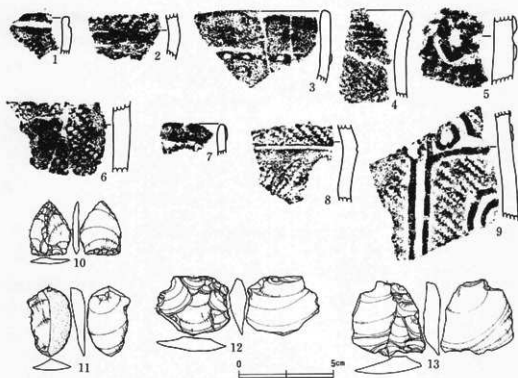


第26図 IV F-1号住居跡

〈土器〉 いずれも深鉢か小形鉢の破片である。7は複合口縁の小形鉢、8はキャリパー型、9は隆線文の深鉢。縄文はL RとR Lの2種類を使用。

〈石器〉 いずれも剥片の一部に刃部調整を加えた不定形な石器で、10は2辺に、11は両側面に12、13は一辺に刃がある。なお、写真図版19の床面に大型の礫が写っているが、自然石でありかつ原位置を留めていないので、遺物として扱わなかった。

〈時期〉 ピット内および5を除く土器は大木8b式で、中期に属する。



図版No	出土地点	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重量(g)	石質	産地
10	住居跡南面	不定形石器	2.8	2.2	0.4	1.5	住居産石	鹿嶋山産、新第三系中新統
11	"	"	3.7	2.4	0.6	4.6	硬質産石	"
12	"	"	3.1	3.9	1.0	9.8	住居産石	"
13	"	"	4.0	3.9	0.9	12.6	硬質産石	"

第27図 WF-1号住居跡遺物

### Ⅲ G-1号住居跡（第28図、写真図版21）

〈検出状況〉F区を縦に走る農道の東側で検出、西側にⅢG-3号住居が、西側にⅢG-1がそれぞれ接して在る。他の遺構との重複はない。この住居も削平を受けており、検出面にキャタピラー跡が走っており、炉石の一部は移動し、東側の最も大きな石は撤去され痕跡を残すのみである明瞭な埋土は検出できなかったが、炉の周辺には薄く褐色土が残っていた。

〈形状・規模〉壁は確認できなかったが支柱穴が一周しており、知ることができた。長径7.8、短径7.1m以上の楕円形を呈する。

〈柱穴〉炉の周囲で方形をなす4本の主柱穴と、25本の支柱穴とからなる。主柱穴のうちP<sub>2</sub>のみ42cmと浅いが、この周辺特に削平を受けており、本来は50cm以上あったと思われる。支柱穴は一部で検出できない箇所もあったが、狭い所で50cm、広い所で1mの間隔でめぐっている。このような柱穴を持つ例はこの1棟のみであり、かつ最も大型の住居でもある。

〈炉〉ほぼ中央に位置する円形の石囲炉であるが、炉石の一部は上記の理由は移動している。掘り込みは炉に比較して大きく、径1.6mを計る。炉石を設置後、外側を埋めもどしている。焼土は中央部で良く発達しており、層高は10cmである。

〈焼土〉P<sub>1</sub>の東側に150×65cmの焼土の詰まった浅い掘り込みを検出した。キャタピラーに踏み荒されているので断定はできないが、二次堆積と思われる。遺物はない。

#### 遺物（第29図、写真図版22）

〈出土状況〉部分的に残っていた床面、炉、柱穴埋土、客土中から出土した。主柱穴4本のいずれからも遺物が出土したことは注目に値する。特に1の吊り手、2の手捏は元来特殊な器種であり、13、14は精製の大破片である程度意識されている。このことは手捏土器と17、18の石器がP<sub>3</sub>から出土していることでも言えよう。柱穴撤去後に埋設した可能性が高い。

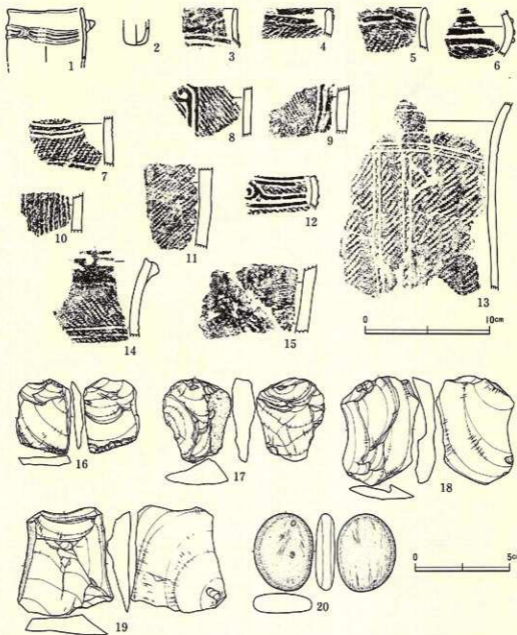
〈土器〉すべて破片資料で、器種は深鉢、小形鉢、手捏土器、浅鉢は見当たらない。

〈石器〉16は先端部両面加工で炉中から、17、18は一部分に再調整でP<sub>3</sub>から、19はフレイク、20は両面と側面に擦痕のある擦石で床面からの出土。

〈時期〉図示した土器すべて大木8b式であり、中期に属する。

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	P <sub>1</sub> 埋土	小型鉢	無文、頸部に二本隆線・突起、突起4単位でクテ・ヨコ貫通、吊手土器か
2	P <sub>3</sub> #	手捏	口縁部欠
3	床面	小型鉢	平縁、隆沈縁、口縁部ミガキ
4	#	#	平縁、キャリバー型、口縁隆線、LRヨコ（隆線にかかる）
5	#	#	小波状口縁、隆線1本のみ、RLRクテの上をナゲ
6	#	深鉢	キャリバー型、隆線文、頸部横文（RL）の上をヨコナゲ
7	#	#	体部、三本沈線、RLクテ





图例%	出土地方	器 种	高×径	胎 色	纹 饰	重量(克)	石 器	出 处
16	窑	罐的形	4.0 2.9	6.4	7.7	紫褐色	■	■
17	村次(窑埋土)	不定形石器	4.4 3.6	1.4	16.7	■	■	■
18	■	■	3.8 4.2	1.1	21.3	埋藏于地层中	■	■
19	■	■	3.7 3.1	1.3	31.6	埋藏于地层中	■	■
20	■	■	4.1 3.1	1.0	17.7	埋藏于地层中	■	■

第29图 III G-1号住居跡遺物

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
8・9	床面	漆跡	体部、隆沈線（渦文）LRタテ
10	#	#	#、擦糸文
11	床	漆跡	体部下半、太さの異なるLとLの単筋RLタテ
12	P <sub>1</sub> 埋土	#	平縁、キャリパー型、隆沈線文、RLヨコ
13・14	#	#	同一器体、口唇部渦文と二本沈線、体部も二本沈線文、口縁RLヨコ・体部タテ
15	P <sub>1</sub> 埋土	#	体部下半、RLタテ?の上からミガキ、外面炭化物

### ⅢG-2号住居跡（第30図、写真図版23）

〈検出状況〉ⅢG-1号住の東側と接するような位置で楕円形状の褐色土の広がりを検出、住居跡を確認した。住居跡の周辺は地山まで削平されており、かろうじて埋土と壁が残されていたが、東側では一部壁が不明瞭である。この住居に接して炉、柱穴、ピットを検出、ⅢH-1号住とした。埋土が無いので新旧の判断は困難であるが、C-D断面の3層貼床状の堆積を示している。これを根拠とすれば当住居のほうが古い。

〈形状・規模〉長径4.8、短径3.75mの不整形な楕円形を呈する。炉は無く、P<sub>1</sub>の北側にピットが検出された。東側より空間がある。

〈埋土〉上半部は削平されているが、自然堆積と考えられる。殆どの層で量の多寡はあるが炭化物を含む。遺物は上層にあたる1、5層および床面に多い。

〈壁・床面〉残存壁高10cmで直立に近い。床面はほぼ水平で堅い。

〈柱穴〉住居内に8本を検出したが、何本かはⅢH-1号住に伴う。主柱穴は方形の配置を基本とするがP<sub>1-4</sub>となるが、P<sub>1</sub>が他に比べて浅い。この4本と対応する位置に小さくて浅いP<sub>1-4,12</sub>がある。入口施設よりは東側の広い空間を支えるための支柱穴と考えられる。柱全体は西と南側に寄っている。

〈ピット〉P<sub>1</sub>の北側に径55、深さ70cmのピットを検出、上面で31図1の土器が出土した。埋土中に焼土は認められない。同様のピットはⅣE-1号住にもあり、位置もほぼ同じである。炉がない代わりにこのピットがあるようにも思われるが、炉の機能は果たしていない。

### 遺物（第31・32図、写真図版24）

〈出土状況〉床面および直上、埋土中から出土している。特に床面および直上からは復原可能な土器が3個体出土したがいずれも口縁部の一部が山形を呈したり、突起を持つなどの特徴を備えている。柱穴からの遺物は皆無である。11のみは異例で大木7b式。

〈石器〉16は石鎌で基部欠損、17は両側にノッチが入り両端部を調整している異形石器、19、20は鎌、21は側面使用の擦石、22は擦石の破片で部分的に熱を受けて変色している。23、24はP<sub>3,4</sub>の傍にあった扁平な礫、台石として使用か。

〈時期〉埋土上層中に1点大木7a式が含まれているが、他は8b式で中期に属する。

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	ピット	深鉢	略定形、口縁部のみ山形(図になし)、口縁部文様帯、体部縦文、隆状横文、底部テテ、西面炭化物、口縁部Lヨコ・体部テテ
2	床直上	#	略定形、口縁部一部山形、口縁部隆状横線、底面無文、体部沈線文、口縁部R Lヨコ・体部テテ・底面無文
3	床面	#	平縁、口縁部起1方形、口縁下にも突起(数不明)、口縁部隆状横線、体部縦線文、底面R Lヨコ・テテ
4	床直	#	口縁下に太い隆線、無文、沈線間に炭化物
5	#	#	体部片、隆線文、L Rテテ
6	埋土上層	#	平縁、口縁部太い隆帯、L Rヨコ
7	#	小型鉢	波状口縁、隆線、無文
8	#	深鉢	#、# 体部太さの異なるR 2本の単層L Rテテ
9	#	小型鉢	波状口縁、波頂部突起文、隆線、R Lヨコ
10・12	#	#	平縁、隆状横線、R Lヨコ
11	#	深鉢	頸部、太い隆帯の上に刻目文
13	#	#	#、2本単位の隆状横線、R Lヨコ
14・15	#	#	粗製、平縁、R Lヨコ

### Ⅲ H-1号住居跡(第30図、写真図版37)

〈検出状況〉ⅢG-1号住に同じ。

〈形状・規模・柱穴〉形状は不明。当住居に係わる柱穴は8または9本と推定される。他の住居にならない炉を中心とした配置を想定すると、西側では深さの近似するP<sub>Δ7.10</sub>が相当するが東側では全く対応しない。深さ50cm以上のP<sub>Δ8.12</sub>では1本不足で、かつ炉が西に寄りすぎる。削平された際に地山の土で埋められ、それを我々が検出できなかった可能性もある。したがって規模を推定することも不可能である。

〈炉〉上部を削られているが、円形の地床炉であったと思われる。残存する掘り方の深さは10cmである。焼土の残りは5cm前後である。

〈ピット〉炉の東1.3mのところ深さ10cmの円形ピットを検出、東西に細い柱穴状のピットをもつ。単独の遺構か、当住居に付属する施設かは判断材料がなく不明である。

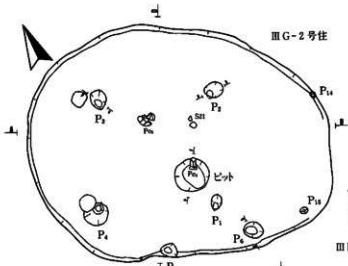
### 遺物(第33図、写真図版39)

〈出土状況〉いずれも住居の検出面で出土したが、当然のことながら原位置は保っていない。石器のみの出土である。

〈石器〉1は石槍あるいは石筈の基部、2は磨製石斧の破損品、3はフレークの一部分に刃があり、片側は自然面。4は石棒、五あるいは六角に面取りしていると思われるが縦に割れており不明、荒く磨きがかかっている。5は多面を使用している擦石。

〈時期〉土器が出土せず不明であるが、ⅢG-2号住が当住居よりは古く大木8b式期あることからすると、同時期かそれよりは新しい時期となる。大木8b式期以外の住居がないことからすると、この時期とみなすのが妥当であろう。

Ⅲ G-2号住



Ⅲ H-1号住ピット



Ⅲ G-2、Ⅲ H-1号住柱穴

P No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14
柱(上端)	34	29	22	26	12	20	23	20	24	30	34	34	34	34
柱(下端)	18	24	21	27	22	25	22	19	23	20	23	23	23	23
深	13	13	13	18	10	18	18	17	16	18	16	18	16	18
	8	10	8	7	9	12	16	10	14	13	12	14	14	14
	33	48	37	46	19	49	29	11	32	30	21	68	52	52

L = 131.300m

L = 131.200m



P1(a-b)

- 柱穴 色調 土質
- 10YR5/6 黄褐色 粘土質(土)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)
  - 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土質(硬)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(土)
  - 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土質(土)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(土)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質(土)
- Ⅲ G-2号住居跡ピット(a-b)
- 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 7.5YR4/4 褐色 粘土質(硬)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質(土)
- Ⅲ H-1号住居跡ピット(a-b)
- 10YR4/6 褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)
  - 10YR4/6 褐色 含炭化物・黄褐色土粒(多量)
  - 10YR5/6 黄褐色 含炭化物(少量)・黄褐色土粒(多量)
  - 10YR5/6 黄褐色 含炭化物土粒

Ⅲ H-1号住

L = 131.200m

L = 121.200m

L = 131.200m

L = 121.200m

L = 131.200m

S = 1/30

Ⅲ H-1号住居跡ピット(a-b)

- 柱穴 色調 土質
- 10YR4/6 褐色 含炭土・炭化物(微量)
  - 5YR4/6 黄褐色 含炭化物(微量)
  - 7.5YR4/6 黄褐色 含炭化物・粘土
  - 10YR4/6 褐色 含炭化物(少量)
  - 10YR5/6 黄褐色 含炭化物・7.5YR5/6 黄褐色 含炭化物(少量)

L = 131.250m



P1(a-b)

- 柱穴 色調 土質
- 10YR2/4 暗褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 10YR4/6 褐色 含炭化物(少量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)
  - 7.5YR5/6 黄褐色 粘土質
- Ⅲ H-1号住居跡ピット(a-b)
- 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質、含炭化物(少量)
  - 7.5YR2/4 暗褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 7.5YR2/4 暗褐色 粘土質、含炭化物(少量)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質、含炭化物(少量)

- Ⅲ G-2号住居跡ピット(a-b)
- 柱穴 色調 土質
- 10YR2/4 暗褐色 粘土質(硬)、含炭化物(多量)・焼土
  - 10YR2/4 暗褐色 10YR5/6 黄褐色 粘土質(硬)、含炭化物・焼土(少量)
  - 7.5YR2/4 暗褐色 含炭化物土粒(少量)・炭化物(微量)
  - 7.5YR2/4 暗褐色 7.5YR4/4 褐色 含炭化物土粒(少量)
  - 10YR2/4 暗褐色 7.5YR2/4 黄褐色 粘土質(硬)、含炭化物(多量)
  - 7.5YR2/4 黄褐色 含炭化物・焼土(少量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(土)、含炭化物(少量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(土)、含炭化物(微量)
  - 10YR2/4 暗褐色 含炭化物(少量)
  - 10YR2/4 暗褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)
  - 10YR2/4 暗褐色 含炭化物(少量)
  - 10YR2/4 暗褐色 粘土質(硬)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質

Ⅲ G-2号住居跡ピット(a-b)

- 柱穴 色調 土質
- 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質、含炭化物

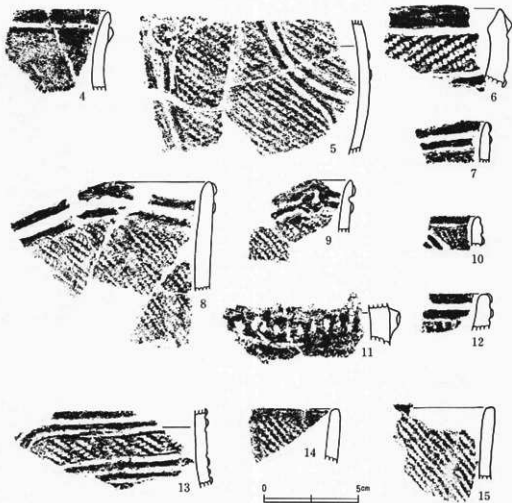
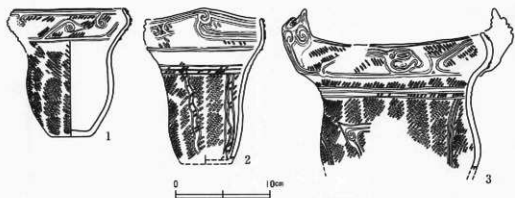
P1(a-b)

- 柱穴 色調 土質
- 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)、含炭化物・黄褐色土粒
  - 7.5YR4/6 に近い褐色 粘土質(土)・含炭化物(少量)
  - 7.5YR5/6 黄褐色 粘土質(土)
  - 7.5YR5/6 黄褐色 粘土質(土)
- Ⅲ G-2号住居跡ピット(a-b)
- 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)、含炭化物・黄褐色土粒
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)、含炭化物・黄褐色土粒
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)、含炭化物・黄褐色土粒
  - 7.5YR4/6 褐色 粘土質(硬)

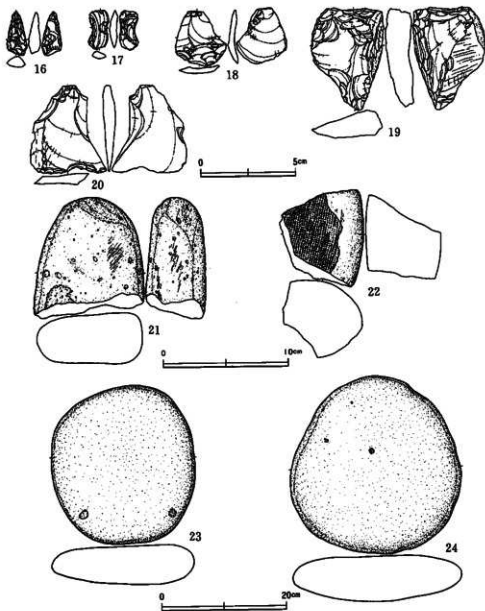
Pol(土器)、S(石器)番号は図面の遺物番号と同じ

第30図 Ⅲ G-2号、Ⅲ H-1号住居跡



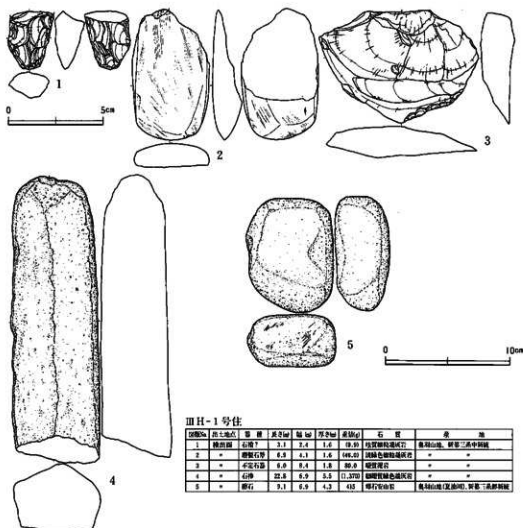


第31图 ■ G-2号住居跡遺物(1)



器物No	出土地点	器名	高cm	径cm	厚cm	重量g	石質	産地
16	塚上土層	石錐	2.4	1.1	0.6	(1.30)	地質用岩	鳥羽山塊, 新第三系中群統
17	"	圓形石錐	2.1	1.0	0.4	0.9	磨礫石	産地, 時代不明
18	"	不定形石錐	2.0	2.7	0.5	2.7	地質用粘板岩	鳥羽山塊, 新第三系中群統
19	塚底	石錐	5.4	3.9	1.4	29.2	玉子	産地, 時代不明
20	塚上土層	"	4.7	4.0	0.6	8.78	地質用粘板岩	鳥羽山塊, 新第三系中群統
21	"	卵石	9.6	8.7	4.8	(20)	礫石(雲山岩)	鳥羽山塊(夏池川), 新第三系中群統
22	塚底	"	7.7	6.6	6.2	(20)	"	"
23	塚底	卵石	17.4	16.4	5.8	6,980	"	"
24	"	"	18.2	16.8	7.2	7,640	"	"

第32圖 ■ G-2号住居跡遺物(2)



III H-1 号住

图例No	出土地点	器 种	长×宽×高	重量(g)	石 质	备 注
1	陈鹤园	石屑?	3.1 2.4 1.6	19.50	浅灰色砂质泥灰岩	墓葬山脚, 距墓二米中到偏
2	*	磨制石斧	6.5 4.1 1.6	446.03	浅绿色砂质泥灰岩	" "
3	*	不规则石器	6.6 6.4 1.8	80.0	砂质泥岩	" "
4	*	石棒	22.8 6.9 5.5	11,370	细粒浅绿色泥灰岩	" "
5	*	磨石	9.1 6.9 4.2	433	磨石岩(砂岩)	墓葬山脚(及陈鹤园), 距墓二米到中偏

第33图 III H-1 号住居址遗物

### Ⅲ G-3号住居跡（第34図、写真図版25）

〈検出状況〉F区を走る農道際にかかって褐色土の広がりと多数の遺物を検出し、住居跡と確認した。西側はキャピラー跡があり、さらにその西は農道にかかっている。東南にはⅢG-1号住が接している。

〈形状・規模〉西側は推定によるが、柱穴の配置は確認しておりこれから判断すると長径5.8m、短径4.0mの隅丸長方形となる。東側の床面でⅢG-2号陥穴と重複するが、陥穴を貼って床としており当住居のほうが新しい。

〈埋土〉大半を削平されているため層位全体の把握ができず、脈絡のない分層にせざるを得なかった。自然堆積と思われるが、大量の遺物の廃棄が認められた。

〈壁・床面〉壁の残存高10cm。床面は堅くしまっており、陥穴の上には貼床が認められた。

〈柱穴〉主柱穴となりうる4本と、壁際と床に不規則にある8本を検出した。P<sub>1-4</sub>は深さ50cm以上で方形の配置となるが、南側に寄っている。壁際にあるものは支柱穴と思われるが、他は用途不明である。

〈炉〉床面直上で2箇所の焼土を検出したが柱穴の中央にあるのが炉で、その東側にあるのは投げ捨てである。地床炉であるが木根による攪乱が著しく、明瞭なプランを確認できなかった。焼土は広い範囲に渡っているが、一部は炉からはみ出したものと思われる。

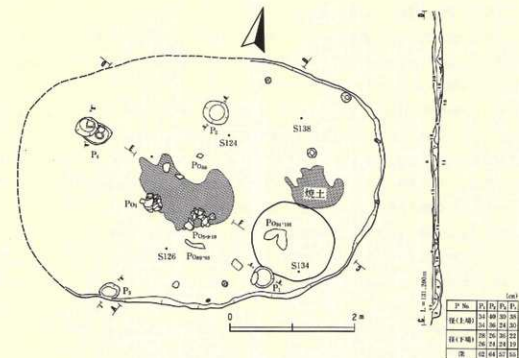
#### 遺物（第35～42図、写真図版26～31）

〈出土状況〉床面、埋土中から多量の遺物が出土したが、床面を除いては小さな破片資料が多い。炉の焼土上から最も多く出土しているが、廃棄された遺物の可能性が高い。焼土自体も廃棄されているものを含んでいると思われるが、炉のそれと区別はつかなかった。この他には柱穴、焼土から少量の土器が出土している。

〈土器〉器種は深鉢、小型鉢、浅鉢で、小型鉢の占める割合は他の住居跡よりは多い。1、4、60などのように、装飾的な突起を有する土器も含まれている。

〈石器〉115は不整形の石に両側から穿孔、それ以外の加工はない。116～120は剥片の一部分に調整を加えた不定形石器。121、122は片面加工の石筥、123は石斧片。124は擦石の先端部を打ち欠いた敲石、125は唯一の凹石で側面を擦っている。129～134は楕円形の礫の側面を主な擦り面とする擦石で、134には赤褐色の顔料のようなものが付着している。128は方形で折れているが破損部に細かい打痕がある。135～140は扁平、球形、楕円形の川原石の一面あるいは両面に擦痕のある擦石。141は焼土面出土で加熱痕がある。廃棄された炉石の可能性もある。142は床面からで周辺を擦り中央部がやや凹んでいる。143は柱穴出土の角礫。144、145は埋土下層からで、前者は中央が凹む石皿状、後者は扁平な台石。

〈時期〉床面、炉出土の土器は大木8b式の特徴を示しており、中期に属する。



埋土断面

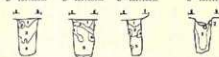
- | 層位  | 色調           | 土質                     |
|-----|--------------|------------------------|
| 1.  | 10YR2/5 黄褐色  | 粘土質(硬)                 |
| 2.  | 10YR4/4 褐色   | 粘土質(硬), 含黄褐色土粒         |
| 3.  | 7.5YR4/3 褐色  | 粘土質, 含炭化物(少量)          |
| 4.  | 10YR2/4 暗褐色  | 粘土質, 含炭化物・黄褐色土粒        |
| 5.  | 10YR4/5 褐色   | 粘土質, 含炭化物              |
| 6.  | 7.5YR4/4 暗褐色 | 粘土質, 含黄褐色土粒            |
| 7.  | 10YR2/3 暗褐色  | 粘土質, 含炭化物              |
| 8.  | 10YR2/3 暗褐色  | 粘土質, 含燐土(少量)・黄褐色土粒・盛り土 |
| 9.  | 7.5YR2/3 暗褐色 | 粘土質, 含燐土(少量)・黄褐色土粒     |
| 10. | 10YR2/3 暗褐色  | 粘土質, 含燐土・炭化物・黄褐色土粒     |

層位

- | 色調               | 土質                   |
|------------------|----------------------|
| 11. 7.5YR5/5 褐色  | 粘土質, 含明褐色粘土・フコフ      |
| 12. 10YR5/6 黄褐色  | 粘土質, 含炭化物(少量)        |
| 13. 7.5YR3/2 赤褐色 | 深褐色土, 含黄褐色土粒・炭化物(少量) |
| 14. 10YR5/6 黄褐色  | 粘土質                  |
| 15. 10YR5/5 褐色   | 粘土質, 含炭化物            |
| 16. 10YR4/4 褐色   | 粘土質(硬), 含黄褐色土粒       |
| 17. 7.5YR4/4 褐色  | 粘土質, 含炭化物            |
| 18. 10YR4/4 褐色   | 粘土質, 含燐土・フコフ・炭化物     |
| 19. 7.5YR2/2 黑褐色 | 含炭化物(少量)・盛り土         |
| 20. 10YR2/2 黑褐色  | 含炭化物(少量)・盛り土         |



L = 131.600m    L = 131.600m    L = 131.100m    L = 131.100m



P1(a-b)

- | 層位  | 色調           | 土質                      |
|-----|--------------|-------------------------|
| 1.  | 7.5YR4/4 暗褐色 | 含燐土(少量)                 |
| 2.  | 2.5YR4/6 赤褐色 | 5YR4/3 赤褐色 燐土, 含炭化物(少量) |
| 3.  | 7.5YR4/3 褐色  | 燐土, 含炭化物(少量)            |
| 4.  | 7.5YR2/3 暗褐色 | 含炭化物・燐土(少量)・黄褐色土粒       |
| 5.  | 7.5YR4/3 暗褐色 | 10YR4/5 褐色 含燐土・黄褐色土粒    |
| 6.  | 7.5YR5/6 暗褐色 | 燐土, 含炭化物(少量)            |
| 7.  | 10YR2/3 暗褐色  | 粘土質                     |
| 8.  | 10YR2/3 暗褐色  | 10YR6/6 暗黄褐色 含炭化物(少量)   |
| 9.  | 10YR2/4 暗褐色  | 含燐土・炭化物                 |
| 10. | 10YR2/4 暗褐色  | 含燐土・炭化物(少量)             |
| 11. | 5YR4/6 赤褐色   | 含炭化物(少量)                |

P1(c-d)

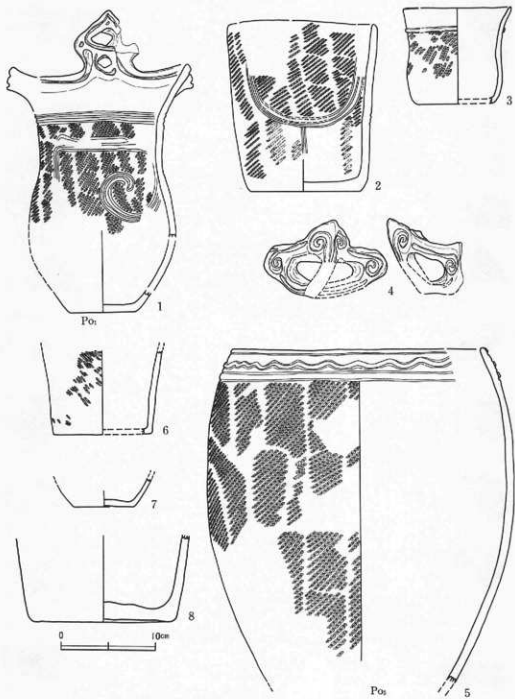
- | 層位 | 色調          | 土質                 |
|----|-------------|--------------------|
| 1. | 10YR4/4 褐色  | 含黄褐色土粒・炭化物(少量)     |
| 2. | 10YR2/3 暗褐色 | 含炭化物(少量)           |
| 3. | 10YR4/6 褐色  | 粘土質                |
| 4. | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質                |
| 5. | 10YR2/4 暗褐色 | 含黄褐色土粒(少量)         |
| 6. | 10YR3/4 暗褐色 | 含黄褐色土粒(少量)・炭化物(少量) |
| 7. | 10YR3/5 黄褐色 | 粘土質                |
| 8. | 10YR4/6 褐色  | 粘土質, 含炭化物          |

P1(e-f)

- | 層位      | 色調          | 土質                      |
|---------|-------------|-------------------------|
| 1.      | 10YR3/3 暗褐色 | 含炭化物・燐土                 |
| 2.      | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質, 含炭化物・燐土(少量)        |
| 3.      | 10YR4/6 褐色  | 粘土質                     |
| 4.      | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質                     |
| 5.      | 10YR4/6 褐色  | 含黄褐色土粒(少量)・炭化物(少量)      |
| 6.      | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質                     |
| P1(e-f) |             |                         |
| 1.      | 10YR4/4 褐色  | 粘土質, 含炭化物(少量)・黄褐色土粒(少量) |
| 2.      | 10YR4/6 褐色  | 粘土質, 含炭化物(少量)           |
| 3.      | 10YR3/5 黄褐色 | 粘土質, 含炭化物(少量)           |

Po(上欄), S(右欄)番号は図面の遺物番号と同じ

第34図 ■ G-3号住居跡



第35圖 ■ G-3号住居跡遺物(1)

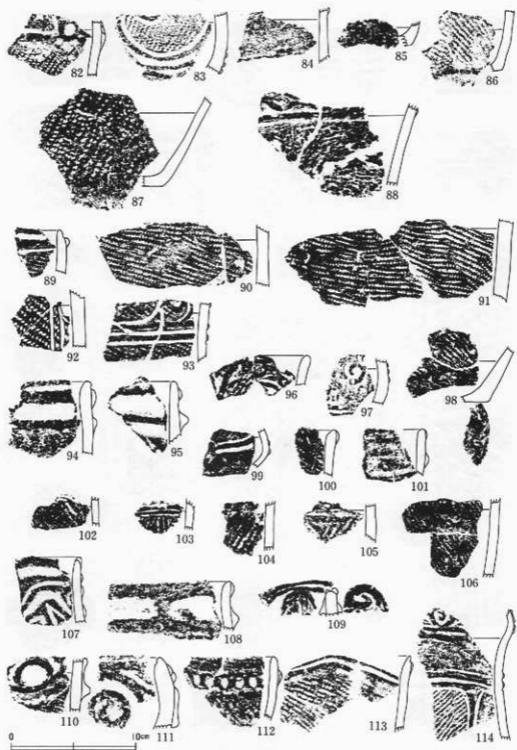


第36图 III G-3号住居跡遺物(2)



第37图 ■ G-3号住居跡遺物(3)





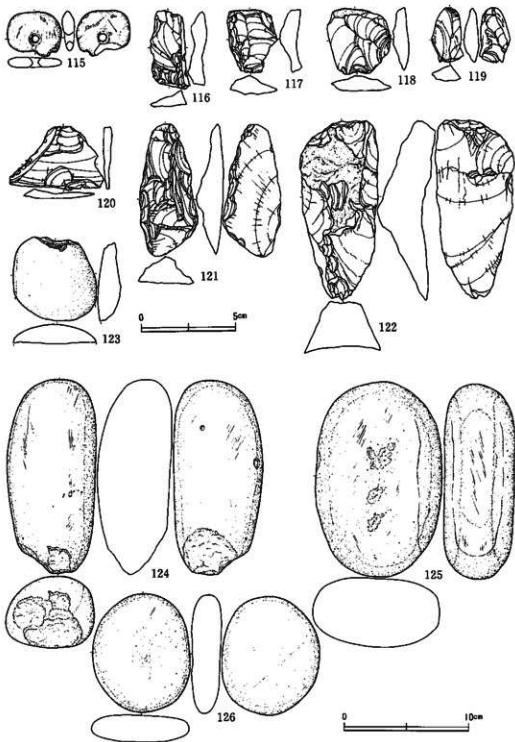
第38图 III G-3号住居跡遺物(4)

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	伊勢土上	深鉢	4単位の波状、正面裝飾突起、他は頂部渦文、頸部無文、体部沈線文、RLタテ
2	埋土	#	破損した部分をすり上げ、口縁として再利用、沈線文、底部ミガキ、RLタテ
3	#	鉢	平縁、頸部に隆縁、RLタテ
4	# 10層	深鉢?	口縁部裝飾突起、基本的モチーフは1と同じ
5	伊勢土上	深鉢	平縁、口縁隆縁間に隆縁波状文、外面部分的に炭化物、RLタテ
6	#	#	体部下半~底部(ミガキ)、LRタテ、柱穴P、出土の土器と整合
7	P埋土	浅鉢?	#、無文、内面ミガキ、底部ナデ
8	埋土	深鉢	# (ナデ)
9	伊勢土上	#	口縁部三角の隆帯、平縁、内湾、器面ミガキ
10	#	小型鉢	口縁部裝飾突起
11	床面	#	平縁、隆縁、無文
12・13	#	深鉢	体部片、隆沈線文
14	伊勢土上	#	頸部片、頸部無文、体部三本沈線、LRヨコ
15	#	小型鉢	体部片、沈線、RLヨコ
16	#	深鉢	口縁部~頸部、隆沈線、頸部無文、キャリバー型
17	#	#	体部下半、渦文のみ、LRタテ
18~20	#	#	縄文、捺永文、隆縁文
21	#	浅鉢	体部下半~底部、LRタテ、内面・底部ミガキ
22~24	伊3~4層	小型鉢	波状と平縁、隆縁、RLヨコ
25~26	伊4・1層	深鉢	体部片、LR、RLタテ
27	床面	小型鉢	RLタテ、底部隆縁のあるナデ
28	#	浅鉢	LRヨコ、内面ミガキ・底部ナデ
29~39	伊内	深鉢	口縁~体部片
40~43	#	鉢	頸部、無文
45・46	埋土7層	深鉢	平縁、隆沈線、RLヨコ
47	#	#	体部、隆縁文、RLタテ
48	# 12層	#	頸部三本沈線、RLヨコ
49	# 6層	小型鉢	体部、細い沈線文、LRタテ
50	# 10層	#	#、沈線漢文、LRタテ
51・52	# 9層	深鉢	平縁、キャリバー型、隆沈線文、RLヨコ
53	#	#	口縁部片、騎状把手、ミガキ
54~56	# 10層	#	平縁、キャリバー型、細い隆沈線文、54LR・55、56RLヨコの上からナデ
57	# 10層	#	波状口縁、太い隆縁二本単位、間に刺突
58・59	# 10層	小型鉢	#、頂部渦文、両側沈線、ミガキ
60	#	深鉢	口縁部裝飾突起(両側渦文)、ブリッジ部分欠落、キャリバー型、RLヨコ
61	#	#	波状口縁、隆沈線、器面ナデ
62~65	#	#	同1個体、隆帯・隆沈文、器面粘結土、内面丹塗痕跡、器面ミガキ
66	#	小型鉢	口縁部裝飾突起
67	#	#	体部下半~底部(ナデ)、LRヨコ?
68	# 15層	浅鉢	平縁、口縁部隆縁で区画、漢文、内面ミガキ、口縁部LRヨコ・体部タテ
69	#	深鉢	波状口縁外反、頂部渦文、三本沈線、太さの異なるLRタテ
70	#	#	波状口縁、隆帯による両側の突起、RLヨコ
71	#	深鉢	粗製、平縁、口縁部隆縁、RLヨコ
72	#	浅鉢	体部下半~底部、内外面ナデ
73	#	深鉢	体部片、隆縁文、LRタテ
74・75	#	小型鉢	#、細い沈線、LRタテ

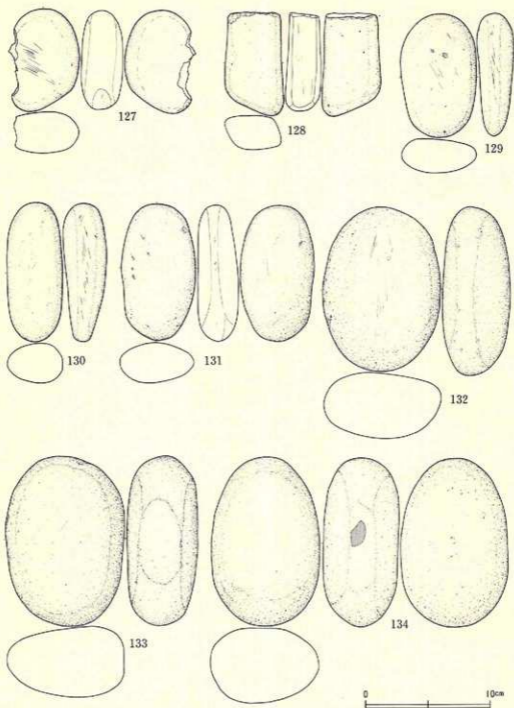
No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
76	埋土15層	浅鉢	底部、ミガキ
77	〃	深鉢	内面に炭化物、納代痕、1本越え1本滑り1本透り
78	〃 13層	深鉢	波状口縁、頂部横文、RLタテ、加熱でポロポロ
79	〃	小型鉢	体部片、隆沈線、底面摩滅
80	〃	深鉢	体部、隆帯区画、ミガキ
81	〃	〃	〃、隆線横文、RLヨコ
82	P <sub>1</sub> の上層	〃	口縁へ頸部、隆線区画、槽円形の刺突文、RLタテ
83	〃	〃	口縁部片、キャリバー型、隆沈線横文、LRヨコ
84	〃	〃	頸部？無文
85・86	〃	小型鉢	体部下半～底部（ナデ）、86LRタテ
87	〃	深鉢	〃（〃）、RLRタテ
88	床直	〃	体部片、隆線区画、内外面ナデ
89	〃	〃	平縁、口縁部隆線、RLヨコ
90・91	〃	〃	同一個体、体部片、LRナナメ
92	〃	〃	体部片、沈線文、LRタテ
93	〃	〃	〃、隆沈線、LRタテ
94・95	埋土15層穴上層(灰皿)	〃	平縁、隆帯貼付、裏面ナデ
96・97	〃	〃	波状口縁(96)、隆沈線、横文、LRヨコ？
98	〃	〃	体部下半～底部（ミガキ）LRタテ
99	〃	小型鉢	頸部、キャリバー型、隆沈線、LRヨコ
100・101	〃	深鉢	平縁直立、隆線貼付、RLヨコ（100）
102～104	P <sub>1</sub> 埋土	〃	102体部片、隆線文、103沈線文LRヨコ
105・106	P <sub>1</sub> 埋土	〃	体部片、RLタテ
107	埋土上層	〃	波状口縁、隆線文
108	〃	〃	平縁、隆線の間「の」字文、ナデ
109	〃	小型鉢	口縁突起、内面横文、外面隆線（欠落）文
110・111	〃	深鉢	平縁、太い隆線文、円形・横文、RLヨコ
112	〃	〃	〃、隆帯に刺目文、RLヨコの上をナデ
113	〃	〃	波状口縁、口縁部隆線、RLヨコ
114	〃	〃	口縁へ体部、頸部無文、隆沈線、RLタテ

床面からで周辺を擦り中央部がやや凹んでいる。143は柱穴出土の角礫。144、145は埋土下層からで、前者は中央が凹む石皿状、後者は扁平な台石。

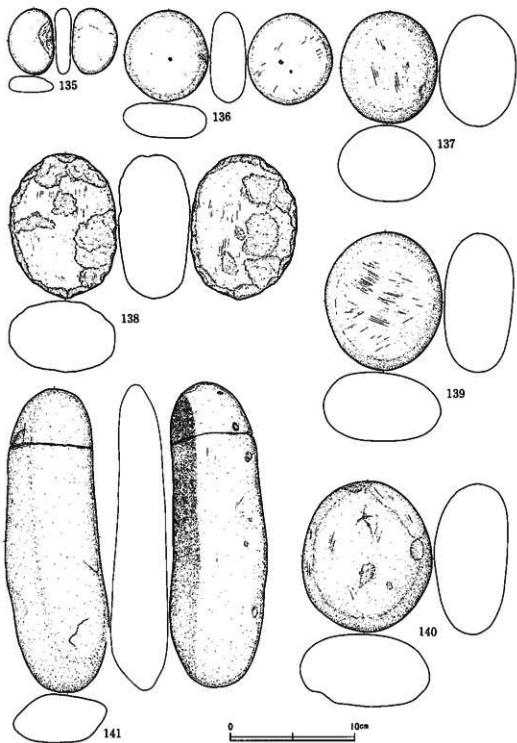
〈時期〉床面、炉出土の土器は大木8b式の特徴を示しており、中期に属する。



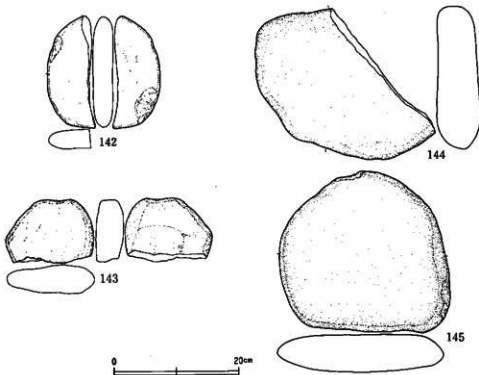
第39圖 ■ G-3号住居跡遺物(5)



第40图 ■ G-3号住居跡遺物(6)



第41图 II G-3号住居跡遺物(7)



編號	出土地点	器名	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
115	焼土上層	磨物石	2.4	2.8	8.8	4.2	淡緑色細粒凝灰岩	高野山塊、新第三系中層統
116	灰層	不定形石	4.2	2.8	1.9	7.1	玉子石	産地、時代不明
117	焼土上層	"	3.4	2.7	1.1	8.2	磨物石	高野山塊、古生層
118	焼土1層	"	3.5	3.4	8.8	9.8	磨物石	高野山塊、新第三系中層統
119	焼灰	"	2.9	1.7	0.8	3.8	玉子石	産地、時代不明
120	焼土	"	3.1	3.0	0.7	6.4	磨物石	高野山塊、新第三系中層統
121	"	石	7.0	3.1	1.8	37.1	淡緑色細粒凝灰岩	"
122	焼灰	"	9.5	4.2	3.1	108.0	玉子石	産地、時代不明
123	焼土	石片	4.3	4.4	1.2	(25.7)	淡緑色細粒凝灰岩	高野山塊、新第三系中層統
124	灰層	灰化石	15.5	7.8	5.8	(660)	"	"
125	焼土	磨石	16.4	10.1	5.7	1,372	磨石質凝灰岩	川尻層、新第三系中層統
126	灰層	磨石	9.5	7.8	2.3	220	淡緑色細粒凝灰岩	高野山塊、新第三系中層統
127	灰層上層	"	8.1	5.8	3.3	(199)	磨物質細粒凝灰岩	"
128	焼灰	"	8.2	4.7	2.8	(186)	(磨) 磨物質凝灰岩	"
129	焼土	"	9.5	6.0	3.0	285	磨物質細粒凝灰岩	"
130	"	"	11.0	4.4	3.4	251	(磨) 磨物質凝灰岩	"
131	焼土上層	"	10.8	5.9	3.2	385	磨物質細粒凝灰岩	"
132	焼土	"	12.0	9.4	5.4	590	磨石質凝灰岩	川尻層、新第三系中層統
133	"	"	12.4	9.3	5.8	1,065	"	"
134	灰層	"	12.4	8.5	6.0	1,078	磨石質凝灰岩	高野山塊(高野山)、新第三系中層統
135	焼土上層	"	5.2	3.8	1.3	45.0	淡緑色細粒凝灰岩	高野山塊、新第三系中層統
136	焼灰	"	7.2	6.7	2.8	140	"	"
137	焼土	"	8.8	7.7	6.1	320	磨石質凝灰岩	高野山塊(高野山)、新第三系中層統
138	灰層	"	11.4	8.5	5.7	800	磨石質凝灰岩	川尻層、新第三系中層統
139	焼土	"	11.8	9.3	5.3	942	(磨) 磨物質凝灰岩	高野山塊、新第三系中層統
140	"	"	11.9	10.3	5.3	1,045	磨石質凝灰岩	高野山塊(高野山)、新第三系中層統
141	焼土上層	"	24.2	8.0	4.7	1,230	クイサイ	粉物質(高野山)、新第三系中層統
142	灰層	"	17.8	7.8	5.3	(611)	磨物質細粒凝灰岩	高野山塊、新第三系中層統
143	クイサイ	"	16.1	12.8	4.8	(885)	磨石質凝灰岩	高野山塊(高野山)、新第三系中層統
144	焼土下層	"	25.3	20.6	6.4	(6,400)	(磨) 磨物質凝灰岩	高野山塊、新第三系中層統
145	"	"	28.4	27.2	6.3	6,780	磨石質凝灰岩	高野山塊(高野山)、新第三系中層統

第42図 III G-3号住居跡遺物(8)

#### IV G-1号住居跡（第43図、写真図版32・33）

〈検出状況〉III G-3号住と同様、農道にかかって検出された。従って西側は未検出である。調査区最南端に位置する遺構であり、集落自体はさらに南に伸びることが予想される。

〈形状・規模〉円形あるいは隅丸方形のプランと推定され、規模は径6m以上と思われる。石囲炉検出以前にピット、数本の柱穴を検出しており建替あるいは重複の可能性がある。その場合は写真図版32の上段が新しく、下段が古い。そして、新しい時期は炉を持たず深い円形ピットを有するIII G-2号住タイプに、古い時期は柱穴間の中央に炉が位置するタイプとなろう。

〈埋土〉北側は削平を免れているが、東側は上部を削られている。自然堆積で壁に近い層は遺物を多く含んでいる。2層は殆ど無遺物である。各層とも炭化物を含んでいる。

〈壁・床面〉古期の壁はピット2と溝の東側壁に沿うラインと推定される。床面はこの推定ラインより内側で、若干レベルが下がっている。新規の壁はほぼ直立するが、上面は削平されている。床面は凹凸はあるが堅くしまっている。

〈柱穴〉12本検出したが、おおまかに30cm以下のものと、50cm以上のものとに分けられる。前者はP<sub>7,10,11,13</sub>などでピット1に伴う柱穴で、ピット2と溝の東側の掘り込み部分が壁の推定ラインとなろう。後者はP<sub>1,3,5</sub>などが相当するものと思われる。古期に伴うP<sub>3</sub>の埋土は埋め戻された状況である。

〈炉〉新期の床面、柱穴検出の段階ではくすんだ焼土の拡がりであったが（写真図版 ）、掘下げた結果、埋設土器を伴う方形の石囲炉と判明した。石は三方に廻り、土器が埋設されている北側には設置されていない。炉の奥にあたる南側には丸い掘り込みがあり、以前の埋設土器の掘り方とも考えられる。土器はこの方向に向かって斜位に立っている。埋土1層は埋められたような土であるが、その下層は焼土が底面まで残っている。

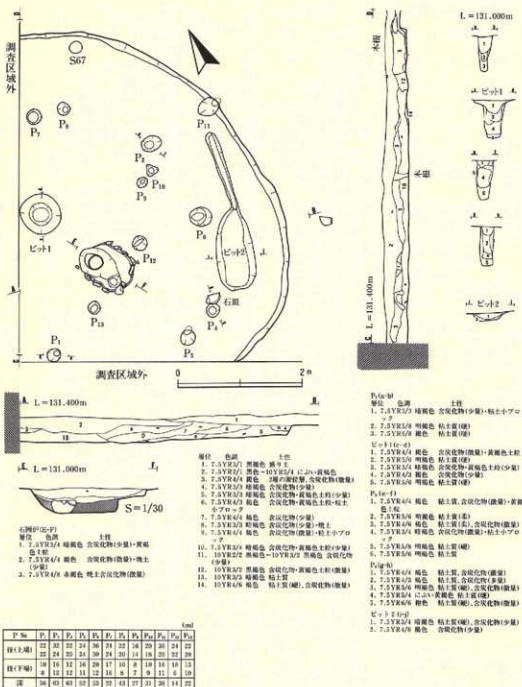
〈ピット〉ピット1は円形で深さ62cm、遺物はなく、焼土もなく埋土は自然堆積であり、III G-2号住のそれと全く同じである。ピット2は長方形の掘り方に溝が続いているが、溝の方がやや浅い。同じようなピットはIII G-1、IV F-1号住にもあり、同一の機能を果たしていたと考えられる。このピットは検出された位置、状況からすると石囲炉の住居に伴う施設である。

#### 遺物（第44～47図、写真図版34～36）

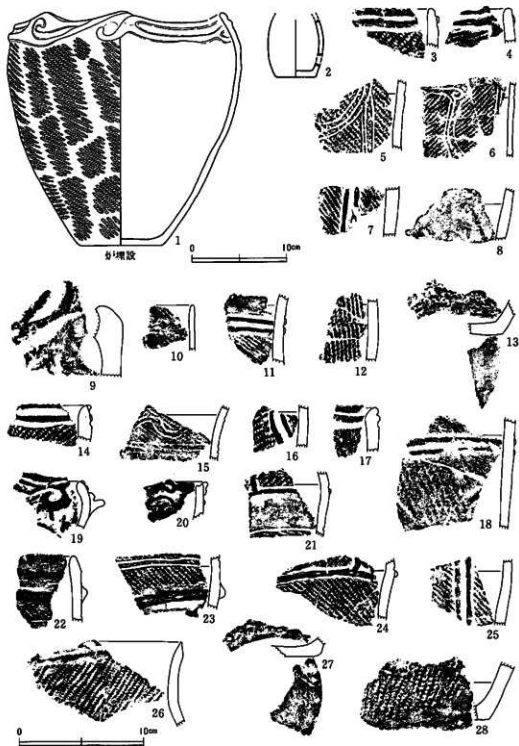
〈出土状況〉炉の脇、床面直上、各層から万遍なく出土しているが接合はしない。廃棄された状況を示している。1層水田の客土にも遺物が含まれていたため、いくつかを掲載した。

〈土器〉完形品は炉埋設土器のみで、他は破片資料で、小型鉢の割合が比較的大きい。36は器面の剥落した部分の奥に赤色顔料が付いている。57は客土からで晩期大洞C<sub>2</sub>式。

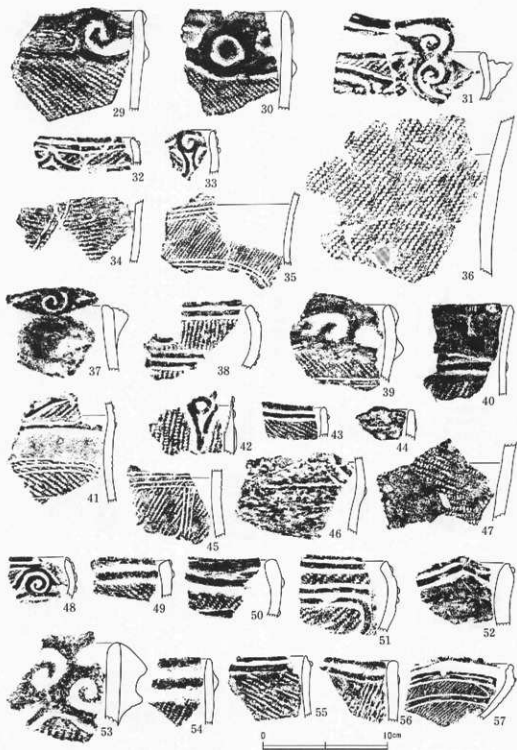




第43図 IV G-1号住居跡



第44图 IV G-1号住居跡遺物(1)



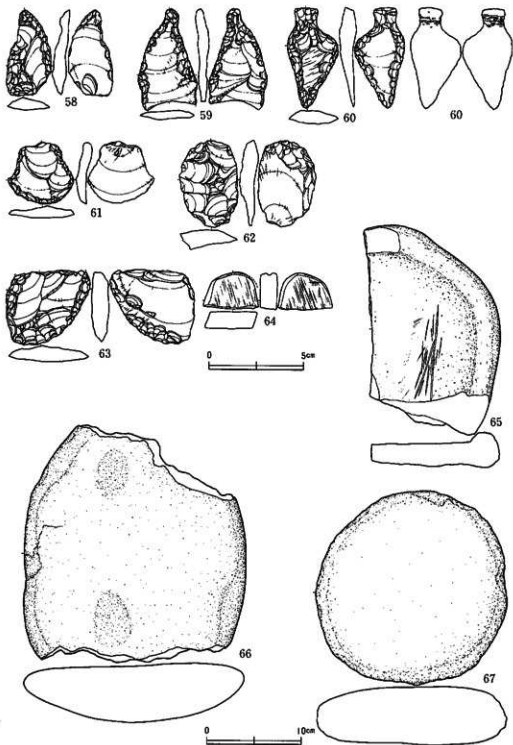
第45图 WG-1号住居跡遺物(2)

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	炉埋設	深鉢	口縁片削欠、波状口縁（6単位?）、口縁部隆線横「の」文字、LRタテ
2	埋土8層	小型鉢	体部～底部、無文、ナデ
3・4	床面	深鉢	平縁、隆沈線、LRヨコ
5・6	#	#	体部、沈線文、LR・RLそれぞれタテ
7	炉の脇	#	#、隆線文、LRタテ
8	床直	#	体部下半、無文
9	P、埋土下層	#	口縁突起部分、大木8a式
10	炉の脇	小型鉢	平縁、無文、ナデ
11	床直	深鉢	頸部（無文）～体部、隆沈線、LRタテ
12	炉3層	#	体部片、無文
13	炉の脇	浅鉢	体部下半～底部（ナデ）、原体（不明）の上からナデ
14	埋土9層	深鉢	平縁、口縁部、隆沈線、LRヨコ
15	# #	#	頸部部片、沈線文、RLヨコ
16～18	# #	#	隆沈線、17平縁、16・18RLタテ
19・20	# 8層	#	平縁、隆沈線横文、19は突起に横文、ナデ
21	# 10層	#	キャリバー型、頸部無文、口縁部隆沈線LRヨコ、体部沈線LRタテ
22	# 8層	#	平縁、口縁部下太い横隆線、頸部RLヨコ
23・24	# #	#	頸部を隆線区画、RLヨコ
25	# 5層	#	体部片、波の隆沈線、LRタテ
26	# 8・10層	#	接合資料、口縁部外反、RLタテ
27・28	# 8層	#	体部下半～底部（ナデ）28RLRタテ
29・30	# 6～7層	#	小波状口縁、口縁部隆帯「の」字文、円文、LRタテ
31・32	# #	#	平縁、隆沈線、口縁部突起に横文、キャリバー型、LRヨコ
33	# #	小型鉢	小波状口縁、頸部隆沈線横文、RLヨコ
34・35	# #	深鉢	体部片、沈線文、34LRナナメ、35RLタテ
36	埋土7層	#	体部下半、下部剥落部分に丹の痕跡、外面炭化物付着、RLRタテ
37	埋土中～上層	#	波状口縁外反、口唇部横文、ミガキ
38	#	#	平縁、キャリバー型、隆沈線、RLナナメ
39	#	#	波状口縁、口縁部隆帯「の」字文、RLヨコ、体部沈線文
40	#	#	平縁、やや外反、頸部に隆線、体部RLタテ、外面炭化物
41	#	#	キャリバー型頸部無文、口縁部隆沈線LRヨコ、体部沈線LRタテ
42	#	#	体部片、隆沈線横文、RLナナメ
43	#	#	平縁、キャリバー型、平行隆沈線、RLヨコ
44	#	小型鉢	小波状口縁、口縁下浅い沈線、ヘラケズリ
45	#	深鉢	体部片、沈線文、RLタテ
46	#	#	キャリバー型、頸部隆線区画、ミガキ
47	#	#	体部下半、RLヨコ、一部ミガキ
48	水田客土	小型鉢	平縁、隆沈線横文、LRヨコ
49～51	#	深鉢	平縁、キャリバー型、隆沈線文、LR・RLヨコ
52	#	#	波状口縁、粗製、ヘラケズリ
53	#	#	平縁?隆帯、横文、沈線文、RLナナメ
54～56	#	#	平縁、口縁部隆線、粗製、LR、RL
57	#	浅鉢	口縁部B突起、磨消縄文・大洞C式

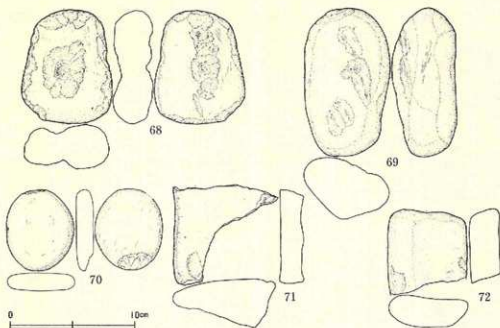
〈石器〉77は石鏃の形態を呈するが先端部が左側に湾曲する。秋田県八木遺跡で数多く出土し嘴状石器と呼ばれているものと同じである(注)。59、60は石匙で59は刃部破損、60は床直出土でつまみ部分に横に走る糸状のタール状付着物がある。61はエンドスクレーパー、62、63は側面、全面に刃の付くスクレーパー。64は装飾品の破片と推定される。両面には整形のための擦痕が無数に走り、側面には溝が巡っている。65はP<sub>4</sub>脇にあった石皿で、隅丸長方形と推定される。高い側縁を有し、裏側は無加工である。皿の面は良く擦られているが、一部に細くて鋭利な溝が走る。66は中央がやや凹む台石、67は北側床面にあった円形のおそらく台石。68は両面使用の凹石、69は片面凹石・側面擦石、70、72は擦石、71は台石と思われるが、全面に煤状の炭化物が付着している。

(注)小林 克・大野憲司他：1989「八木遺跡発掘調査報告書」秋田県文化財調査報告書181

〈時期〉炉内、床面の土器は大木8b式であり、中期に属する。



第46圖 IV G-1号住居跡遺物(3)



WG-1号住

図物No.	出土地点	器種	径 (cm)	高 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	石 器	出 土 地
58	内溝土	燗灰石器	4.6	2.4	0.9	6.8	粘質砂状凝灰岩	鹿野山池、新築、湯中銅坑
59	水田家上下層	石製	5.4	3.1	0.7	17.31	埴原泥岩	〃
60	埴原	〃	5.3	2.7	0.9	8.0	粘質砂状凝灰岩	〃
61	内溝土	スチレ-ン製	3.3	3.0	0.9	7.1	埴原泥岩	〃
62	水田家上下層	〃	4.6	3.1	1.0	12.5	粘質砂状凝灰岩	〃
63	内溝土	〃	3.5	4.3	0.9	17.8	埴原泥岩	〃
64	水田家上下層	石製陶器品	7.0	7.0	0.9	64.30	粘質砂状凝灰岩	〃
65	埴原	石製	22.0	14.5	3.7	11,149.9	石田岡緑石	尾道川一柳敷個人、中牛塚
66	埴土4-5層	土石	25.2	23.4	4.4	15,269.9	礫石安山岩	鹿野山池(尾道川)、新築(湯中銅坑)
67	埴原	〃	20.8	20.4	4.4	4,150	石田岡緑石	個人(尾道川)、中牛塚
68	水田家上下層	陶石	9.0	7.7	3.5	290	〃	尾道川一柳敷個人、中牛塚
69	埴土4層	陶石・燗石	11.8	6.0	5.1	310	礫石安山岩	鹿野山池(尾道川)、新築(湯中銅坑)
70	水田家上下層	陶石	4.5	5.4	1.4	56.1	淡緑色砂状凝灰岩	鹿野山池、新築、湯中銅坑
71	埴土1・中層	土石	8.0	8.3	3.9	4360	サイキト	湯野川(尾道川)、新築(湯中銅坑)
72	水田家上下層	燗石	0.7	0.4	2.0	4369	粘質黄緑色凝灰岩	鹿野山池、新築(湯中銅坑)

第47図 WG-1号住居跡遺物(4)

#### IVG-2号住居跡（第48図、写真図版37）

〈検出状況〉IVG-1号住の東側3mの地点、4本の柱穴とこれらの中央で炉跡を検出した。壁、床面、埋土は削平されており、南側は調査区域外にかかる。北側の壁付近と推定される位置にIVG-2号フラスコピットを検出したが、削平のため新旧は不明である。

〈形状・規模〉形状は不明。柱穴の間隔はほぼ2mで、この数値を他の住居と比較すると4.7m前後と推定される。

〈柱穴・炉〉柱穴はほぼ方形で、残存する深さ50cm前後である。炉は残存径50cmの円形で、柱穴やや東寄りに位置している。埋設土器はなく炉石の存在も不明である。西側の焼土下に凹みがある。

#### 遺物（第49図1～8、写真図版39）

〈出土状況〉炉、柱穴検出面から1、7、8が、P<sub>4</sub>埋土から2～5、P<sub>2</sub>から6が出土している。柱穴以外の遺物は原位置を留めていない。

〈土器・石器〉1～7は精・粗製の深鉢で、1の底部はナデ。7は内外面ミガキの浅鉢。8は剥片の一部に刃を持つ不定形石器。

〈時期〉出土している土器はすべて大木8b式であり、中期に属する。

#### IVH-1号住居跡（第48図、写真図版38）

〈検出状況〉IVG-3号住の東側に接して検出、南側は調査区域外にのびている。区域外にかかってIV-3フラスコピットと載合っているが、2号炉を載っており当住居の方が古い。

〈形状・規模〉埋土、壁、床面削平されているため不明である。4本の柱穴を主柱穴とすれば柱間隔は2.5mで、推定径5.8m前後の規模となる。

〈柱穴・炉〉柱穴は4本で深さは30cm以上ある。炉は2基検出されたが、当住居に伴うものか別ものであるかを判断する材料に欠けるので不明である。本遺跡では往々にして炉が柱穴間の中央からずれる傾向があり、それからすると1号炉の位置は妥当である。ただ、2号炉のように柱穴間の線上に位置する例はない。従って、この炉が当住居に伴うという確証は乏しい。調査区外南側の遺構に伴う可能性もある。2基とも上部を削平されているが地床炉と思われる。

#### 遺物（第49図9～18、写真図版39）

〈出土状況〉9～16は検出面からの出土で、原位置は保っていない。17、18はP<sub>1</sub>の埋土1、2層の出土である。土器のみで石器はない。

〈土器〉いずれも深鉢の破片である。9は隆帯に刺突文、その他の文様は隆沈線である。10は一部に条痕が走る。

〈時期〉柱穴内、検出面いずれの土器も大木8b式であり、中期に属する。



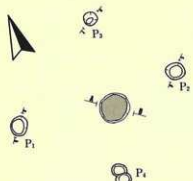
**ⅣH-2、ⅣI-1、ⅣI-2号住居跡（第48図、写真図版40）**

〈検出状況〉 H、I区の南端で4本単位の柱穴が東西に3基並んで検出された。残された柱穴の深さ、配置などから住居跡と判断した。かなりの深さで削平されており、炉はもとより焼土すら確認できなかった。当然、遺物は皆無である。

〈規模・柱穴〉 残された柱穴から判断すると、径4 m前後のプランと推定される。3棟ほぼ一列に並ぶがⅣH-2号住の柱穴方向若干異なっている。

〈時期〉 遺物が皆無であるので不明であるが、規模、柱穴の配置は他の住居と同様の傾向を示しているので、中期に位置づけて大過ないものと思われる。

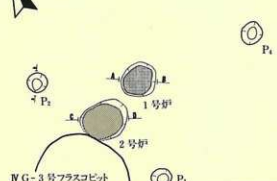
WG-2号住



WG-2号住 (cont)

P. No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>
柱(上端)	34	32	33
	27	25	23
柱(下端)	29	31	34
	30	28	36
床	43	40	41

WH-1号住



WH-1号住 (cont)

P. No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>
柱(上端)	32	32	37
	28	28	32
柱(下端)	34	36	33
	31	29	31
床	47	46	47

WG-3号フタスコピト

調査区域外

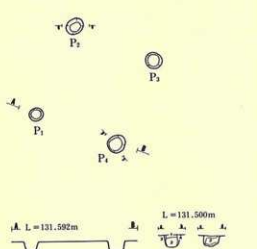


- 解 釈 1. 5.YR6/4 明褐色 粘土質, 含炭化物(少) 土質  
2. 2.5.YR6/4 暗褐色 粘土質, 含炭化物(中) 土質  
3. 7.5.YR6/3 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質
- WG-2号住居跡  
解 釈 1. 7.5.YR6/3 暗褐色 粘土質, 含炭化物(多) 土質  
2. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質, 含炭化物(中) 土質  
3. 1.5.YR6/4 暗褐色 含炭化物(多) 土質  
4. 2.5.YR6/6 暗褐色 粘土質(硬)

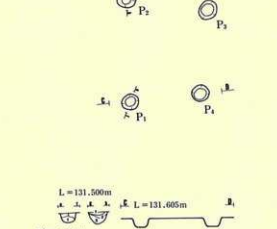
- 解 釈 1. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質, 含炭化物(多) 土質  
2. 2.5.YR6/4 暗褐色 粘土質, 含炭化物(中) 土質  
3. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬)  
4. 7.5.YR6/3 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
5. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
6. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
7. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
8. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
9. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質

- 解 釈 1. 7.5.YR6/3 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
2. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
3. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬)  
4. 5.YR6/4 赤褐色 含炭化物(多) 土質  
5. 5.YR6/6 赤褐色 含炭化物(多) 土質  
6. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
7. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
8. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質  
9. 7.5.YR6/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(多) 土質

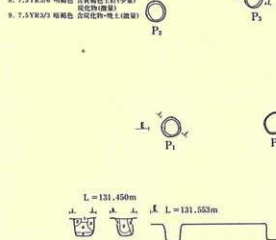
WH-2号住



WI-2号住



WI-1号住



WH-2号住 (cont)

P. No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>
柱(上端)	30	29	27
	21	20	22
柱(下端)	34	36	37
	31	33	33
床	43	41	43

WI-2号住 (cont)

P. No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>
柱(上端)	27	28	28
	25	25	25
柱(下端)	37	38	38
	34	34	34
床	46	46	44

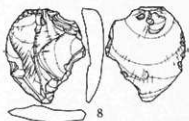
WI-1号住 (cont)

P. No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>
柱(上端)	29	29	34
	25	25	29
柱(下端)	37	38	38
	34	34	34
床	46	46	44

WI-1号住 (cont)

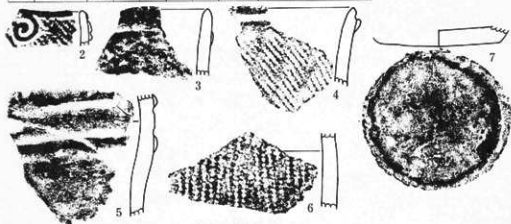
P. No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>
柱(上端)	29	29	34
	25	25	29
柱(下端)	37	38	38
	34	34	34
床	46	46	44

第48回 WG-2、WH-1、WH-2、WI-1、WI-2号住居跡

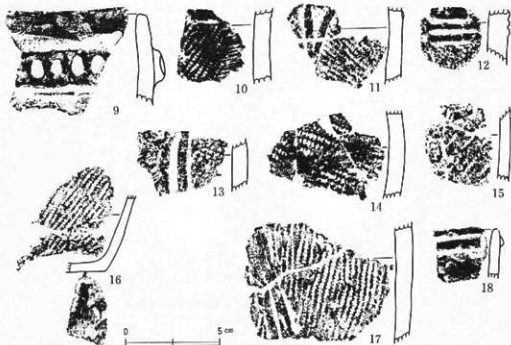


IVG-2号住

IVG2a	出土地点	器 物	长 (cm)	宽 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	石 质	出 处
a	坑(7)	石质刻纹	5.0	4.2	1.1	16.5	白质砂岩	黄城山组, 洞窟二系中群坑



IVG-2号住



IVG-1号住

第49图 IVG-2、IVH-1号住居跡遺物

## (2) 柱穴群

### IV F 柱穴群 (第50図、写真図版41)

〈検出状況〉 F 区の南端、IVE-2号住とIVF-1号住の中間で多数の柱穴を検出した。いずれも浅い柱穴のみで、かなりの削平を受けている。おそらく竪穴住居に伴う柱跡と思われるが、調査区域が狭く南北方向は未検出であるためプランを確認できない。最低3棟以上の住居が重複しているものと考えられるが、推定の域をでない。

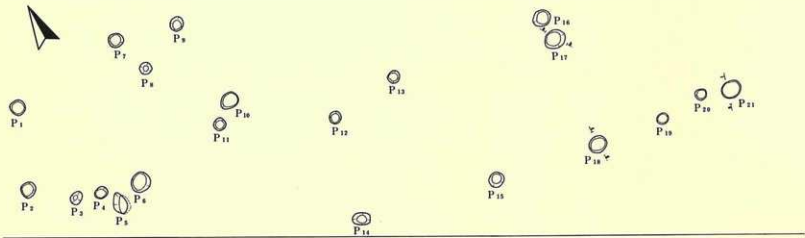
〈遺物〉 柱穴P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>。埋土中からそれぞれ剥片、深鉢底部片が出土したのみである。

〈時期〉 土器は大木8b式と思われるので、中期に属する。

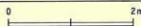
## (3) フラスコピット (第51～60図、写真図版42～51)

11基のうち8基は調査区西端のへりに集中しており、他の3基はIVG区に集中し住居跡と重複している。西端A、B区の8基は規模も大体同じであり、同一時期の遺構と考えられる。ただし、IIA-3号とIIB-1号は重複しており、後者が古い。IVG-1、2、3号はいずれも近接しており、かつ規模も類似しており同一時期の遺構である。IVG-3号がIVH-1号住の戸を載っており、この3基はIVG区の住居よりは新しく位置づけられる。11基の詳細なデータは83ページの通りである。

調査区域外



調査区域外



L=130.650m



PNo	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27
掘上層	20	28	22	21	24	22	18	19	21	20	20	20	20	20	21	28	20	21	28	26	28	26	18	18	29		
掘下層	20	20	8	17	6	18	18	10	16	20	11	15	16	16	18	20	21	20	14	19	14	13	30				
深	12	10	10	15	14	11	21	26	16	15	17	18	11	12	12	29	25	27	13	10	23						

ⅣF柱穴群

調査No	出土地点	器種	高さcm	幅cm	厚さcm	重量kg	石質	産地
2	P21下層	石製貯器	3.6	4.8	0.2	8.4	硬質灰石	鹿嶋山産、調査区外中興

★ⅣF柱穴群

P10 (a)

層位 Ⅱ層

1. 7.3YR5/3 褐色 含炭化物(少量)

2. 7.5YR5/5 暗褐色 粘土質(少量)

P22 (e-d)

層位 Ⅱ層

1. 7.5YR4/4 褐色 赤黄褐色土層(燻煙)・炭化物

2. 7.5YR6/6 暗褐色 赤黄褐色土層・炭化物

3. 7.5YR6/6 暗褐色 粘土質、含炭化物(少量)

P21 (a-b)

層位 Ⅱ層

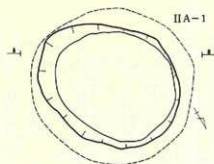
1. 7.5YR4/4 褐色 含炭化物(燻煙)

2. 7.5YR5/3 褐色 含炭化物(少量)・黄褐色土層(少量)

3. 7.5YR6/2 暗褐色 粘土質(燻煙)・含炭化物・黄褐色土層(少量)

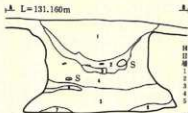
第50図 ⅣF柱穴群・遺物

遺構名	形 状	規 模 (cm) 上層×下層×厚さ	埋 土	遺 物	時 期	図版	
						写真	番号
IIA-1	上面円形 下面円形	235×250×150	自然堆積。2層中から土層と礫石層、下層は流石無し。	1は埴1層の礫石、大木10式土層であるが、埋土上層からの出土であり、フラスコ自体が土層と同一時期かどうかは不明。2は断面使用の埴石。	縄文時代中期	51, 54	43, 47
IIA-2	円形	195×195×143	自然堆積。2層に使用の遺物が出土、他の層は流石無し。	3は蓋面に貼り付いて出土、口縁部遺しのある埴形片。埴石無文等。口縁部残破。体部は流石無し。4～6は2層出土。6は断面に部分的な埴石。	#	51, 54	43, 47
IIA-3	円形、部分的に崩落	250×240×95	自然堆積。II B-1号と重複部分に粘土ブロックの層がある。これはII B-1号の埋土が崩れたために、II A-3号遺構の側に貼り付けたものと思われる。II A-3がII B-1の床を覆っており、新しい。自然堆積、断面に黒く灰化残骸。	7, 8は1層出土。2点とも埴石。7は流石の埴石。9は埴石片の埴石をスクレーパー状に加工。10は最下層(13層)出土の扁平な埴石。	#	51, 54	44, 47
II B-1	隅丸形状	240×200×110	自然堆積。断面に黒く灰化残骸。	1点のみ2層から出土(55層-13)。自然堆積を挟す大形の埴石。	不明	51, 55	44, 48
IIA-1	円形(一部崩壊)	190×220×163	下層人工堆積。上層自然堆積。遺物は1と7層から出土。	石層のみ3点出土。11は最下層7層でクワベラ状両面調査。11は1層出土で、中央部に竜い凹み面あり、他の層も埴形されている。	#	52, 55	44, 48
IIA-2	円形	250×260×162	自然堆積。1層に粘土を含む。遺物は1層の、下からみで埴は流石無し。	石層のみ3点。1層より出土。14はクワ型の石層で下・下折。15は片面調査の石ベラ。上平欠。16はクワ型の埴石。	#	52, 55	44, 48
II B-1	上面隅丸形状 下面円形	170×182×112	自然堆積。表面検出面の壁面に大きな埴。	埋土中からの出土は無し。東側壁面に長径54cmの自然埴。	#	52, 45	
II B-2	隅丸形状	185×188×155	自然堆積。表面でII B-1 2層穴と重複するが、当フラスコが新しい。	石層のみ3点出土。17は床面に貼り付いていた円形の埴石。埴石、埴石面とも細かい埴面が残り、文様はない。18は1層出土の埴石。19は9層出土で表面凹凸。側面は埴石の断面を示す石層。	#	52, 55	45, 48
IV G-1	円形(北側調査区外に かり不明)	100×180×110	自然堆積であるが、3層、5層、4層下部に遺物が多く、下層は流石無しに近い。 II B-1号と同様検出位置にかかって埴が出土。	20-31は4層、32-36、50-53は5層、39-49は1～3層出土の土層である。先んじて埴石で埴は流石の1点のみ(42)。5層からは小形の土層が数点出土(52, 53)。埴石は口縁の外反するもの、キャリバー状となるもの、直立するものがあり、文様は流石、流石、流石によるが、上層は丸い埴石によるものが目立つ(41, 46, 48)。遺物はナギとミギキ。石層の出土状況も土層と同様である。54は両面加工のスクレーパー。55-57は埴石の一部に調査のある不定形埴石。58は両面取りのある小埴。59は埴石。60は両面使用の埴石。61は壁面にあった扁平な埴で、左上を打欠いている。土層は大木2式に含まれる。	縄文時代中期	53, 56, 57	45, 49
IV G-2	円形	105×155×120	自然堆積とおもわれるが、各層にまんべんなく遺物と炭化物が含まれている。	各層から出土しているが内訳は、9層位-73、8層74-78、7層79-83、6層84-89、5層90-97、3層98-107、1層108-110である。埴石がほとんどで、埴石は1層から2点のみ出土(109, 110) 埴石はキャリバー型が多数を占めている。埴、73は別個体であるが、キャリバー型には珍しく無文で構成面の穿孔である。埴石出土である。同じくキャリバー型では、埴石無文等の土層が含まれる(70, 90)。遺物はすべてミギキ、大木2式。石層は116が3層出土で埴はすべて7層出土である。112はビュスエスキュー、113は片面に太目の埴面が走る。114, 115は断面利用の116は両面利用の埴石。111は8層出土の唯一の土製品で、頂部の孔は焼成前、体部下半を欠き、両面、断面とも縄文のみと土層片と共に出土。	#	53, 56-60	46, 51
IV G-3	円形(南側調査区外)	155×150×88	上層は少し削平されている。レンズ状に自然堆積。他の2層と比較して土層は断面に少ない。	土層は3～4層で出土。いずれも埴石片で120は断面。121は断面3層にある石層状の石層で片面がやや凹み面が残り、後に数点自然埴出土。土層は大木2式。	#	53, 60	46, 51

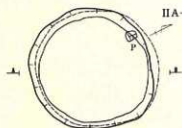


IIA-1

Ⅰ. L=131.160m

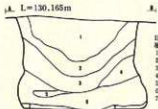


- 目録20号ワラスコピット (1) (Ⅰ) 土層浮記  
目A-1号ワラスコピット
- | 層位 | 色調            | 土性                 |
|----|---------------|--------------------|
| 1. | 7.5YR1.7/1 褐色 | 混明褐色土              |
| 2. | 10YR3/4 暗褐色   | 凝褐色土               |
| 3. | 7.5YR5/6 暗褐色  |                    |
| 4. | 7.5YR4/4 褐色   | 含炭化物・浮石            |
| 5. | 7.5YR5/6 暗褐色  | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)・浮石 |
| 6. | 7.5YR4/4 褐色   | 粘土質(凝)             |
| 7. | 7.5YR5/6 暗褐色  | 粘土質(凝)             |
| 8. | 7.5YR3/6 明褐色  | 粘土質(凝)・含浮石(少量)     |

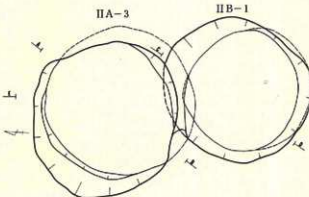


IIA-2

Ⅰ. L=130.165m



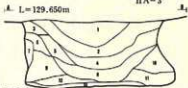
- 目録20号ワラスコピット
- | 層位 | 色調           | 土性                 |
|----|--------------|--------------------|
| 1. | 5YR1.7/1 褐色  | 含炭化物・浮石            |
| 2. | 7.5YR4/6 褐色  | 粘土質(凝)・含炭化物(少量)    |
| 3. | 7.5YR4/4 褐色  | 粘土質・含炭化物(凝集)・浮石    |
| 4. | 7.5YR4/4 褐色  | 粘土質・含炭化物(凝集)・浮石    |
| 5. | 7.5YR3/4 暗褐色 | 粘土質(凝)             |
| 6. | 7.5YR3/6 明褐色 | 粘土質(凝)・含炭化物・浮石(凝集) |
| 7. | 7.5YR2/6 明褐色 | 粘土質(凝)・含浮石         |



IIA-3

IB-1

Ⅰ. L=129.650m

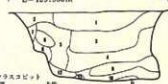


- 目録20号ワラスコピット
- | 層位  | 色調                        | 土性                        |
|-----|---------------------------|---------------------------|
| 1.  | 7.5YR3/3 暗褐色-7.5YR4/6 褐色  | 含炭化物(少量)                  |
| 2.  | 7.5YR4/6 褐色-7.5YR3/4 暗褐色  | 含炭化物・浮石(少量)               |
| 3.  | 7.5YR2/6 明褐色-7.5YR4/6 褐色  | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)           |
| 4.  | 7.5YR4/4 褐色               | 粘土質(凝)                    |
| 5.  | 7.5YR3/2 黒褐色              | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)・浮石(少量)    |
| 6.  | 7.5YR5/6 暗褐色-7.5YR3/4 暗褐色 | 粘土質・含炭化物(凝集)              |
| 7.  | 7.5YR5/6 暗褐色              | 粘土質(凝)・本層の底この部分のみ埋れ平張っている |
| 8.  | 7.5YR4/4 褐色               | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)・浮石(少量)    |
| 9.  | 7.5YR2/6 明褐色              | 粘土質(凝)                    |
| 10. | 7.5YR4/6 褐色               | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)           |
| 11. | 7.5YR5/6 暗褐色-10YR4/6 褐色   | 粘土質(凝)・明褐色土の部分(凝)         |
| 12. | 7.5YR4/6 褐色               | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)・含炭化物(凝集)  |
| 13. | 7.5YR5/6 暗褐色              | 粘土質(凝)・含浮石                |

Ⅰ. L=129.800m

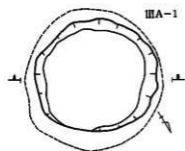


Ⅰ. L=129.900m

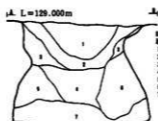


- 目録1号ワラスコピット
- | 層位  | 色調            | 土性                 |
|-----|---------------|--------------------|
| 1.  | 7.5YR1.7/1 褐色 | 含炭化物(凝集)・浮石        |
| 2.  | 7.5YR2/1 黒褐色  | 含炭化物(凝集)           |
| 3.  | 7.5YR2/2 暗褐色  | 含炭化物(凝集)・浮石        |
| 4.  | 10YR4/6 暗褐色   | 粘土質・含炭化物・浮石(少量)    |
| 5.  | 7.5YR6/6 明褐色  | 凝褐色土・粘土質・含炭化物(凝集)  |
| 6.  | 7.5YR2/6 明褐色  | 粘土質(凝)             |
| 7.  | 7.5YR4/6 褐色   | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)    |
| 8.  | 7.5YR5/6 暗褐色  | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)    |
| 9.  | 7.5YR4/4 褐色   | 粘土質(凝)・含浮石・炭化物(凝集) |
| 10. | 7.5YR4/4 褐色   | 粘土質(凝)・含浮石・炭化物(凝集) |
| 11. | 7.5YR2/2 暗褐色  | 粘土質・含炭化物(凝集)       |
| 12. | 7.5YR5/6 暗褐色  | 粘土質(凝)・含炭化物(凝集)    |
| 13. | 7.5YR4/4 褐色   | 含浮石・含土層に炭化物(多量)    |

第51図 フラスコピット(1) : IA-1、IA-2、IA-3、IB-1号

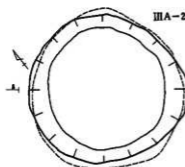


ⅢA-1

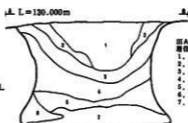


ⅢA L=129.000m

- ⅢA-1号フラスコビット  
層位 色調 土質
1. 7.5YR1.7/1 褐色 含炭化物
  2. 7.5YR4/6 暗褐色 土、含炭化物・浮石
  3. 7.5YR4/4 暗褐色 含浮石・炭化物
  4. 7.5YR4/6 暗褐色 粘土質、含浮石・炭化物(少量)
  5. 7.5YR4/6 暗褐色 粘土質、含浮石(少量)
  6. 7.5YR4/4 暗褐色 粘土質
  7. 10 YR2/4 暗褐色 浮石層

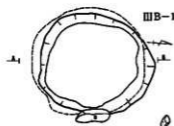


ⅢA-2

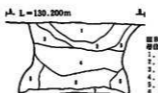


ⅢA L=130.000m

- ⅢA-2号フラスコビット  
層位 色調 土質
1. 10 YR3.7/1 暗褐色 上部腐植土調り、含炭化物・粘土
  2. 7.5YR2/2 暗暗褐色 含炭化物(微量)
  3. 7.5YR4/6 暗褐色 暗褐色土、含炭化物(微量)
  4. 7.5YR4/4 暗褐色 粘土質、含浮石(微量)
  5. 7.5YR4/6 暗褐色 暗褐色土、粘土質、含浮石(微量)
  6. 7.5YR4/6 暗褐色 黄褐色、浮石層
  7. 7.5YR 明褐色 含浮石(微量)

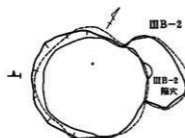


ⅢB-1



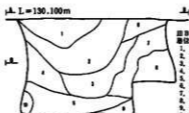
ⅢB L=130.200m

- ⅢB-1号フラスコビット  
層位 色調 土質
1. 7.5YR2/1 暗褐色 含炭化物上層(少量)
  2. 7.5YR4/6 暗褐色 含浮石(少量)
  3. 7.5YR4/4 暗褐色 粘土質
  4. 7.5YR4/6 暗褐色 含浮石(少量)・炭化物(微量)
  5. 7.5YR2/8 明褐色 含浮石(少量)
  6. 7.5YR3/6 明褐色 含浮石(少量)
  7. 7.5YR2.7 暗暗褐色 暗褐色土



ⅢB-2

陥穴



ⅢB L=130.100m

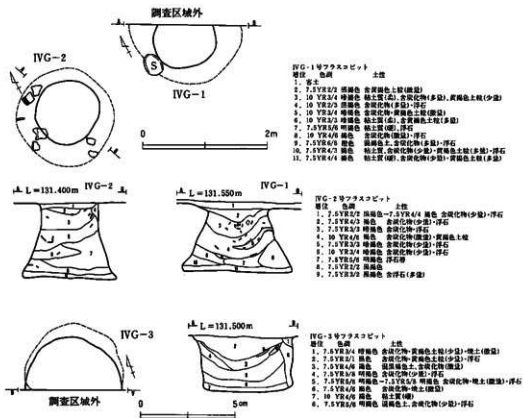
- ⅢB-2号フラスコビット  
層位 色調 土質
1. 7.5YR1.7/1 暗褐色 含炭化物(多量)
  2. 7.5YR4/4 暗褐色 粘土質、含炭化物(少量)
  3. 7.5YR4/6 暗褐色 粘土質、含炭化物(少量)
  4. 7.5YR4/4 暗褐色 粘土質(多)、含炭化物(少量)・浮石(多量)
  5. 7.5YR4/4 暗褐色 粘土質(多)、含炭化物・浮石(少量)
  6. 7.5YR2/4 暗褐色 含炭化物(微量)
  7. 7.5YR4/4 暗褐色-7.5YR3/6 暗暗褐色 含炭化物(微量)・浮石(少量)
  8. 7.5YR2/2 暗褐色 含炭化物(微量)、ⅢB-1号陥穴土埋土
  9. 7.5YR2/8 暗褐色 粘土質(多)、含炭化物・浮石(少量)
  10. 7.5YR2/6 暗褐色 粘土質(多)、含炭化物・浮石

0 2m

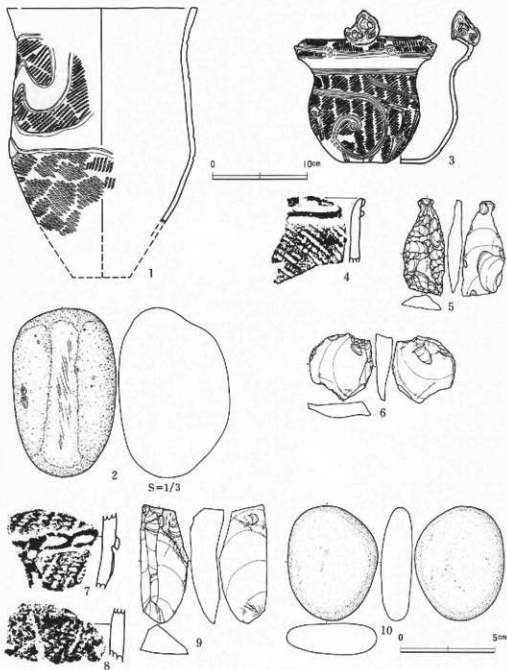
第52図 フラスコビット(2) : ⅢA-1、ⅢA-2、ⅢB-1、ⅢB-2号



西端の中には石器のみ出土し、時期を決定する材料に乏しいピットもあるが、周辺の遺構・遺物から判断して、すべて大木8b式期に属するものと考えられる。ただし、II A-1号のみは埋土上層から大木10式の深鉢が完形に近い形で出土している。調査区域内からの大木10式はこれ1例のみである。後世の廃棄と考えておきたい。他に特徴的な事項としては、2基の底面から完形品の土器と、装飾品が出土したことである。前者はII A-2号の北側壁に近い位置で検出された。土圧で潰れてはいたが、装飾突起を有する特殊な器形である。土器中からは何も検出されなかった。後者はIII B-2号で、中心からやや北寄りの位置で検出された。2基とも墓へ転用し遺物は副葬品との考えもあるが、埋土が自然堆積であり墓説は成り立たない。ただ、偶然的な廃棄とも考えられず、何らかの意味を有する出土状況と捉えたい。2基のみ対して廃棄の儀礼を施したとするのも不自然であるが、これに近いような状態にあったと考えたい。

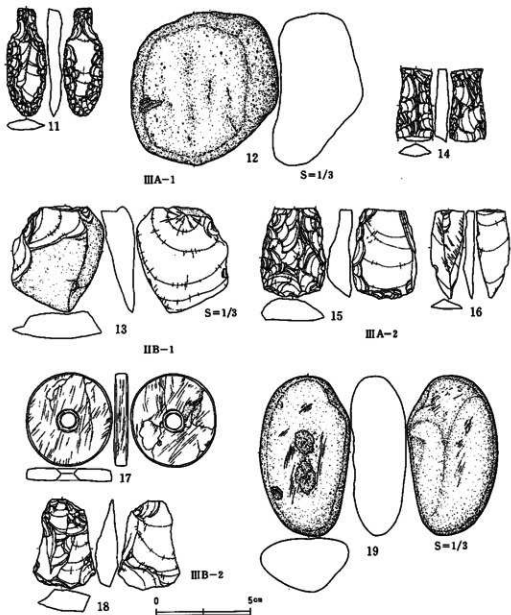


第53図 フラスコピット(3)：IVG-1、2、3号



図版No.	出土地点	品名	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	材質	産地
2	日A-1号フラスコビット2層	磨石	13.4	8.2	0.8	1,261	緑褐色磨石	横山以南 和室二高申洞
3	日A-2号フラスコ 埋土層出土	石器	5.1	2.1	0.8	8.9	硬質灰岩	" "
6	" 埋土層	石製小皿	2.5	3.4	0.9	11.6	硬質砂岩	" "
9	日A-3号フラスコ	"	0.2	2.5	1.8	26.9	硬質砂岩	" "
10	日A-3号フラスコ 埋土層	磨石	9.1	4.6	1.7	17.1	淡緑色砂岩	" "

第54図 フラスコビット遺物(1)：【A-1、【A-2、【A-3号

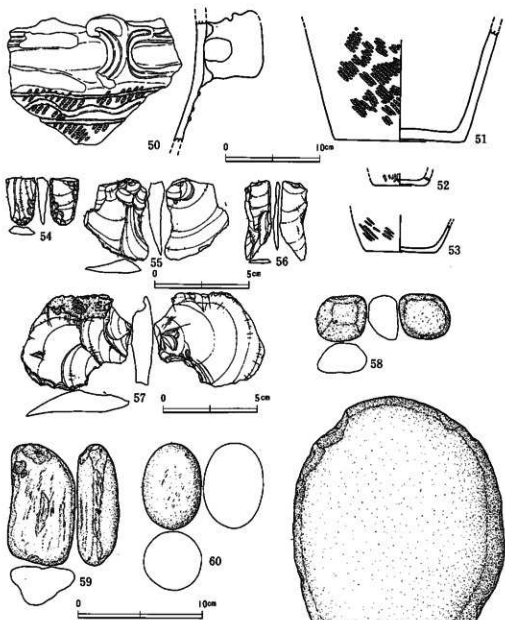


図番No.	出土地点	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g	材質	産地
11	ⅡA-1等フラスコ 磯崎遺跡	石核	5.7	2.1	0.5	7.95	産地不明	長崎山崎 豊後三島中興院
12	ⅡA-1等フラスコ 豊土具志土石	石核	11.1	11.7	7.1	1.110	輝石質山岩	＊ 区別不明豊後三島中興院
13	ⅡB-1等フラスコ 磯崎遺跡	刮削	8.4	7.3	2.7	130	産地不明	＊ 豊後三島中興院
14	ⅡA-1等フラスコ 豊土海津色	石核(片)	3.9	2.0	0.7	15.80	産地不明磯崎遺跡	＊ ＊
15	＊	石核	4.8	2.5	1.3	132.23	＊	＊ ＊
16	＊	産地不明	4.7	1.8	0.5	2.2	＊	＊ ＊
17	ⅡB-1等フラスコ 磯崎遺跡	磨石	4.9	4.5	0.7	14.75	産地不明磯崎遺跡	長崎山崎 豊後三島中興院
18	ⅡB-1等フラスコ 豊土	刮削	4.7	3.3	1.2	16.7	玉すい	産地不明磯崎遺跡
19	ⅡB-1等フラスコ 磯崎遺跡	刮削	11.7	7.3	4.3	95.5	輝石質山岩	長崎山崎(区別不明) 豊後三島中興院

第55図 フラスコビット遺物(2)：ⅡA-1、ⅡA-2、ⅡB-1、ⅡB-2号



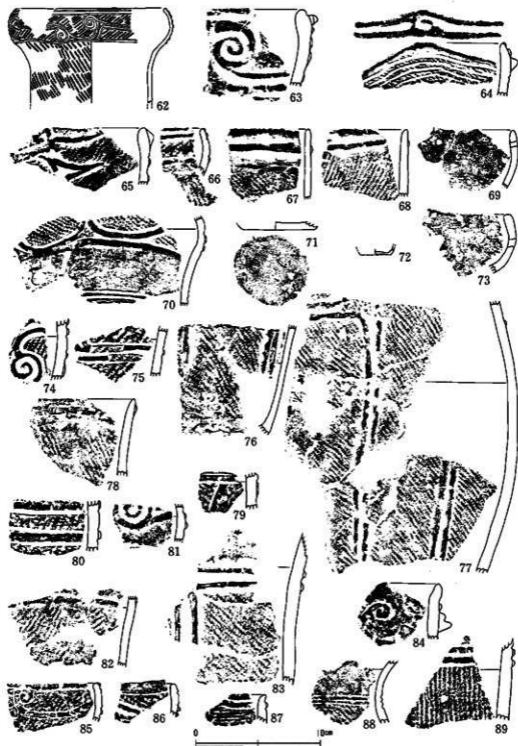
第56図 フラスコピット遺物(3)：WG-1号[1]



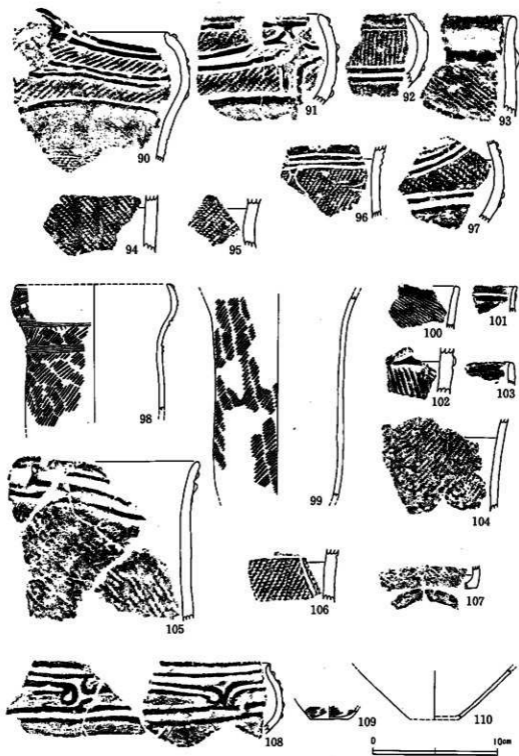
ⅡG-1号フラスコ

図番	出土地	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g	材質	産地
54	下野	燧石	7.5	1.8	0.5	0.10	燧石	高砂山崎、新野三浦中野
55	下野	燧石	4.4	3.4	0.5	0.5	"	"
56	下野	"	4.2	1.1	0.3	1.4	"	"
57	"	"	7.5	2.8	1.3	100	燧石	"
58	"	燧石	3.7	4.5	2.0	41	燧石	高砂山崎(尾山川)、新野三浦中野
59	"	"	5.6	5.3	3.1	230	燧石	新野山崎、古野
60	"	"	6.8	4.7	4.8	179	燧石	高砂山崎(尾山川)、新野三浦中野
61	新野の石	燧石	30.4	28.2	7.4	13,000	燧石	新野山崎、中野

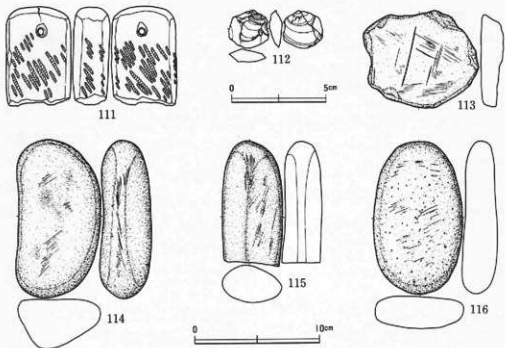
第57図 フラスコピット遺物(4)：ⅡG-1号[2]



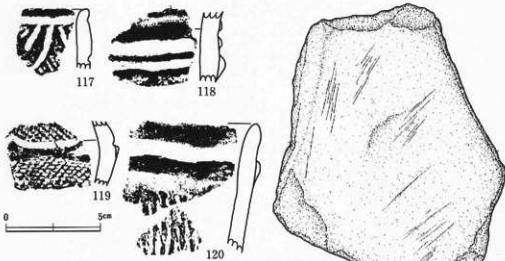
第58図 フラスコピット遺物(5)：IVG-2号[1]



第59図 フラスコビット遺物(8)：NG-2号[2]



IVG-2



●IVG-2号フラスコ

図号	出土地点	形種	長2cm	幅2cm	厚2cm	重量g	石質	産地
112	堀土7層	凹	1.6	2.1	0.7	1.3	付着燧石燧石	豊前・豊前・豊前
113	"	凹	6.7	6.1	1.7	46.4	付着燧石燧石	"
114	"	標石	12.2	6.7	1.3	40.4	"	"
115	"	"	9.9	4.8	1.3	33.3	"	"
116	"	"	12.6	7.6	2.4	59.0	付着燧石燧石	豊前・豊前・豊前

●IVG-3号フラスコ

121	堀土3層	凹	26.6	26.4	3.4	93.00	付着燧石燧石	豊前・豊前・豊前
-----	------	---	------	------	-----	-------	--------	----------

IVG-3

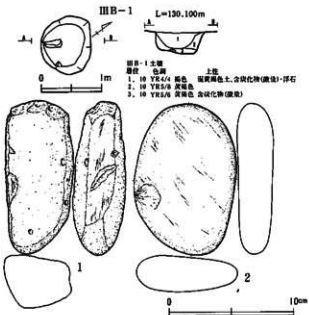
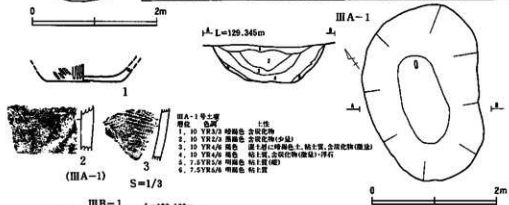
第60図 フラスコビット遺物(7)：IVG-2号[3]、IVG-3号



## (4) 土壌 (第61~63図、写真図版52~55)

隅丸方形、楕円形、不整円形のプランを持つ8基が検出された。分布は調査区西側プラスチック群と同じ位置に4基、中央部に2基、東端に2基である。このうち、隅丸方形の4基II A-1、II B-1、II C-1、II I-1号は形状、埋土とも類似しており、同じ正確の遺構と思われる。性格としては墓墳が考えられるが、それを証明する材料は乏しい。III B-1号は小さな土壌で、中から組石状に石器、礫が出土した。同様の遺構は隣接する本郷遺跡で多数検出されているが、性格については不明である。仮に墓墳としても、石の間に遺骸あるいは遺骨を納めるスペースは少ない。焼土も無く、炉、調理施設ともなりにくい。東端の2基は陥穴の上部が流失した可能性もある。時期は埋土の土器から判断して、すべて大木8b式期であろう。8基のデータは下表の通りである。

遺構名	形状	規模 (cm)		埋土	遺物	時期	図版	
		上面	下面				写真	説明
II A-1	隅丸方形	255	200 × 50	人工堆積。炭化物を含む軽土質土ブロック状に入る。	土器はすべて1層出土。1、2は小瓦葺の体部、3は浅鉢、4は5層上部出土のビュースメスケース。	縄文時代中期	61	
III A-1	楕円形	275	194 × 57	自然堆積。土塊状の新層となる。埋積土には炭化物を含む。	3点とも2層の出土。1の遺物は三本位の沈線文、底部ミダギ、2、3は鉢の体部。	#	#	52、55
II B-1	隅丸方形	160	60 × 35	炭化物を含む褐色土の人工堆積。	埋土中と土器検出層の隙間で多量の土器が出土した。土器内出土は1、2が2層5~8が1層9が表面、3、4、10~12が外である。1層の7、8は大木10式、10、11は埋土に少量の炭化物を含む初期の土器で大木2式か。2層以下の土器は大木8b式である。	#	#	72
III B-1	不整円形	92	80 × 33	黄褐色土ブロックの人工堆積。	埋土中より石器のみ3点出土。1は割面、2は両面を使用した礫石、3は石製の破損品で両面は全く加工されていない。他に自然礫も出土しており、組石状の状況であった。	不明	61	52、55
II C-1	隅丸方形	162	130 × 25	上面削平されている。小さなブロック土による人為堆積。	検出面と1~2層にかけて、小さな破片の状態で出土。本来完形品であったと推定されるが削平の際に破損したものとと思われる。地文のみで文様はない。底部ミダギ。	縄文時代中期	63	53
II I-1	#	135	107 × 40	上面削平されている。人為堆積。	なし。	不明	63	54
I O-1	長楕円形	258	60 × 24	検出で検出。上面が流失された陥穴の可能性もある。自然堆積。	#	#	63	54
I O-1	楕円形	170	65 × 45	同上。	#	#	63	54

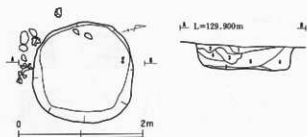


IIIB-1号土壤构成

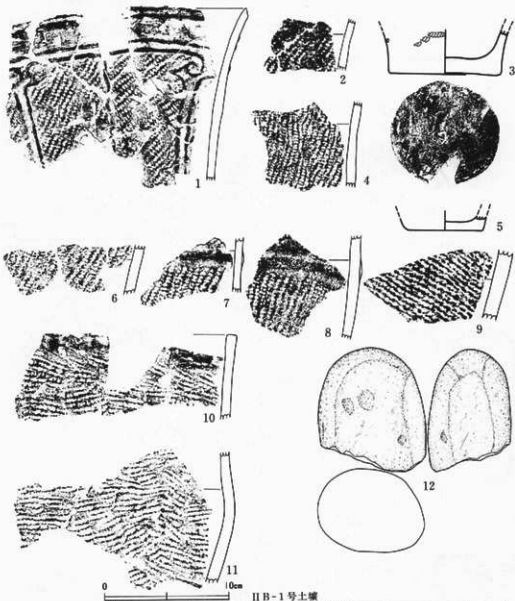
剖面%	层土地点	砂	粘	粘土	砂	粘	粘土	砂	粘	粘土	砂	粘	粘土	砂	粘	粘土	砂	粘	粘土
1	土壤剖面	粘土	12.2	5.5	4.2	201	砂石混合	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石	腐熟褐色土, 含炭化物(微量)*浮石
2	"	"	12.0	6.2	2.9	405	暗褐色腐熟土	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石	暗褐色腐熟土, 含炭化物(微量)*浮石
3	"	粘土	25.4	19.0	6.2	3,300	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石	浮石

IIIB-1

第61图 IIA-1、IIA-1、IIIB-1号土壤·遺物



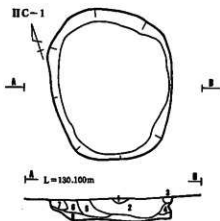
- II B-1号土壙
- | 層別 | 色調            | 土性          |
|----|---------------|-------------|
| 1. | 7.5YR 2/2 黑褐色 | 含炭化物(少量)    |
| 2. | 7.5YR 4/6 褐色  | 含炭化物(少量)    |
| 3. | 10 YR 6/6 褐色  | 夹浮石         |
| 4. | 7.5YR 4/6 褐色  | 炭灰化物(少量)·浮石 |
| 5. | 7.5YR 4/6 褐色  | 炭灰化物(少量)·浮石 |
| 6. | 7.5YR 4/6 褐色  | 炭灰化物(少量)·浮石 |
| 7. | 7.5YR 4/6 褐色  | 粘土質(硬)      |



II B-1号土壙

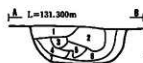
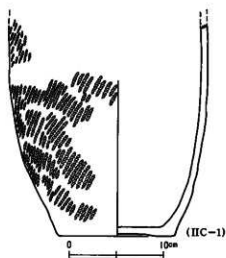
図面No	出土地点	形 様	高 2cm	幅 2cm	厚 2cm	重量g	石 質	備 考
12	壙土4層	粘土	9.8	8.6	0.7	1745	麻石(安山岩)	黄田山跡(夏油川) 新第三紀新統

第62图 II B-1号土壙·遺物



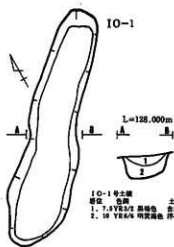
II C-1号土窟

- | 部位 | 色调        | 土质                     |
|----|-----------|------------------------|
| 1. | 10 YR 5/3 | 黄褐色 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(微量) |
| 2. | 10 YR 5/4 | 暗褐色 含炭化物·硬土            |
| 3. | 10 YR 5/6 | 棕色 粘土质(硬)              |
| 4. | 7.5YR 4/3 | 棕色 含炭化物·黄褐色土粒          |
| 5. | 7.5YR 3/3 | 暗褐色 粘土质(硬)·含炭化物        |
| 6. | 7.5YR 4/4 | 棕色 含炭褐色土粒·炭化物          |
| 7. | 7.5YR 2/1 | 暗褐色 含炭褐色土粒             |
| 8. | 7.5YR 5/6 | 明褐色 混黄褐色土              |



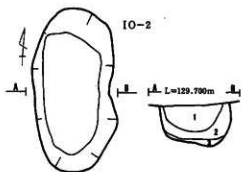
II I-1号土窟

- | 部位 | 色调        | 土质                     |
|----|-----------|------------------------|
| 1. | 10 YR 4/6 | 褐色 粘土质(硬)·含炭化物(少量)     |
| 2. | 10 YR 5/3 | 暗褐色 含炭化物(微量)·黄褐色土粒(少量) |
| 3. | 10 YR 5/6 | 黄褐色 粘土质(硬)             |
| 4. | 10 YR 4/4 | 褐色 含炭化物(微量)            |
| 5. | 10 YR 5/4 | 暗褐色 含炭褐色土粒             |
| 6. | 10 YR 5/3 | 暗褐色 含炭化物·黄褐色土粒(少量)     |
| 7. | 10 YR 6/6 | 黄褐色 粘土质(硬)             |



IO-1号土窟

- | 部位 | 色调        | 土质       |
|----|-----------|----------|
| 1. | 7.5YR 3/2 | 暗褐色 含浮石  |
| 2. | 10 YR 6/4 | 明黄褐色 浮石层 |



IO-2号土窟

- | 部位 | 色调        | 土质              |
|----|-----------|-----------------|
| 1. | 7.5YR 3/2 | 暗褐色 含炭化物(微量)·浮石 |
| 2. | 7.5YR 4/6 | 暗褐色 浮石(少量)      |
| 3. | 7.5YR 6/8 | 棕色 浮石层          |

第63图 IC-1、II-1、IO-1、IO-2号土窟

(5) 陥 穴 (第64～75図、写真図版56～68)

タイプの異なる陥穴が調査区のほぼ全域にわたって分布している。総数で42基検出されているが、これを6つのタイプに分類した。なお、42基の半数以上が上部を削平されており、それぞれのタイプに含みづらい例もある。プライマリーな状況を保っている遺構は、埋土上層に炭化物を含む層がある。

アのタイプ (第64図、写真図版65・66)

やや大型の楕円形プランで、底面に小さな副穴を持つ。I O-1号は湧水のため下部を調査できなかったが形態、規模から同一タイプとして扱った。3基の検出で、分布は東西に離れており直接的な関連に乏しい。データは下表。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上層×下層×深さ	深さ				写真	写原
II B-1	西寄りに副穴2本	186×126×120		自然堆積。上層に炭化物を含む。	なし。	不明	64	65
III C-1	東寄りに副穴2本	190×126×130		自然堆積。3層中に埋土層に炭化物。	なし。	#	64	65, 68
I O-1	形態不明	(198)×(115)×x		自然堆積。	家屋部位置の検出。湧水強く下部検出できなかった。	#	64	65

イのタイプ (第65～68・75図、写真図版57・59～61・68)

隅丸方形を基本形とする一群で、原則的に底面の中央に副穴を有する。11基検出されたが、B、C、G区はそれぞれ2基のみで配置は不明であるが、D、E区の4基はほぼ線上にあり一連の施設と考えられる。やや距離はあるが、このラインを延長するとII C-1、2に辿りつく。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上層×下層×深さ	深さ				写真	写原
II B-1	中央に副穴	124×80×130		自然堆積。	なし。検出面の南側に長方形の自然礫。上層削平。	不明	65	57
III B-3	中央やや東寄りに副穴	130×80×136		# 上層に炭化物を含む。	なし。上層削平。	#	65	57
III D-1	中央に副穴	103×93×125		#	# #	#	65	57
III G-1	中央に副穴、ピーカー状	95×115×132		# 1層中に埋土	#		66	60
III G-2	# #	132×135×110		# 上層に埋土と炭化物。	埋土2～5層中から出土。11は5層、12、13は3～4層、14～22は2層。いずれも薄片で19は洗練、キャッチー層は少なく白粉外装するものが多い。22は薄片径6～7mm程度と重複。1層は結核で、2層も人為的に埋めた土である。	縄文時代中期 大木6式	66、75	68、68
III E-1	中央に副穴	95×76×88		#	なし。上層削平されている。	不明	67	59
III E-2	やや西寄りに小さな副穴隅丸長方形	113×105×100		#	# #	#	67	62
IV E-1	中央に副穴、フラスコ状	85×100×68		#	# #	#	67	59
II C-1	副穴2本、フラスコ状	120×100×130		#	いずれも1層上層からの出土。埋土体部分で4は洗練土、他は炭燼土上部若干、削平されている。あるいはその間に置いた土層か。	縄文時代中期 大木6式	68、75	61、68
II C-2	中央に3本の副穴	133×118×122		#	なし。上層削平の削平。	不明	68	61
III B-2	中央に1本の副穴ピーカー状	118×125×155		自然堆積。6層はIII B-1の埋土。フラスコピットの埋土。	なし。III B-2号フラスコピットに覆られており、副穴の方が古い。	#	68	

ウのタイプ (第69・70・75図、写真図版60~63・68)

楕円形あるいは隅丸方形のプランが基本形で、断面形はフラスコ、ピーカー、筒形と様々である。9基検出された中の6基はC、D区を少し蛇行しながら南北に配置されている。ほかの3基はそれぞれ一基ずつ散在している。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上面×下面×厚さ	幅				写真	頁
II B-2	上面隅丸方形、下面円形	106×120×110		自然堆積、上層は炭化物を含む。	なし、下面のフラスコ状は壁跡残存。	不明		69 69
II C-3	上面楕円、下面隅方形	115×120×78	#	#	なし、上面削平。	#		69 60
II D-2	楕円形	138×148×75	#	#	#	#		69 63
II D-3	#	112×112×85	#	#	#	#		69 61
II D-1	#	130×95×66	#	#	#	#		70 63
III D-3	隅丸方形	116×105×83	#	#	#	#		79 62
III D-2	#	110×115×73	#	#	#	#		70 62
IV F-1	# (?)	( ) × ( ) × 95	#	# 1層は遺土、 上層に炭化物。	埋土2層から土層片4、石層1点が出土。土層は骨体片で3点が散在。9は散在。骨片の一端を刃部としている。北側は遺構の壁跡のため未調査。	縄文時代中期 穴不00式		70、75 63、68
III M-1	#	135×115×75	#	#	なし、上面削平。	不明		70 63

エのタイプ (第71図、写真図版58・59・61)

円形プランで径は短く、原則的に副穴を有する一群。II E区でまとまって検出されたもので狭い間隔でほぼ一線上に並んだ配置である。第71図は実際の配置図で、副穴の無いもの1基ある。北に向かうほど削平されており、浅くなっている。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上面×下面×厚さ	幅				写真	頁
II E-1	円形、中央に副穴	95×80×95	#	自然堆積。	なし、上面削平。	不明		71 58
II E-2	不規則形、細い副穴	74×75×156	#	#	#	#		71 58
II E-3	円形、中央に副穴	60×68×110	#	#	#	#		71 58
II E-4	# 副穴なし	65×73×90	#	#	#	#		71 61
II E-5	# 3本の副穴	70×66×116	#	#	#	#		71 58
II E-6	# 中央に副穴	65×76×134	#	#	# 上部は若干削平されているのみ。	#		71 59
II E-7	楕円形、東寄りに副穴	80×90×130	#	#	#	#		71 59

オのタイプ (第72・73図、写真図版62・64・65)

上面楕円形あるいは卵形で、底面は長楕円形を基本形とする一群である。小型のプランに比較して深く、当遺跡では最も深い陥穴である。8基検出されたが、すべてL区に集中しており

ほぼ南北線上に位置している。II 1-4号はこのラインからはずれており、深さもなく土壌として扱うべきであろう。配置の間隔はエのタイプと異なり、5~7mであり、さらに南北方向に延びる気配がある。

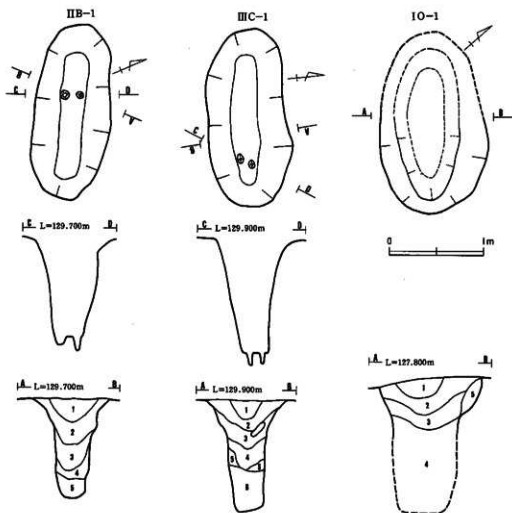
遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上面×下面×長さ					写真	
IL-3	円形	110×74×137		自然埋積、土層に炭化物を含む。	なし、上面の埋積層がよくらむ。	不明	72	64
IL-2	# 竪筒楕円形	87×102×122	# #	#	#、阿部遺跡南部分あり。	#	72	64
IL-1	# #	85×82×118	#	#	#	#	72	64
II L-4	#	122×114×45	#	#	# 上面形平されているが、他とは規模も異なり、土壌の可能性もある。	#	72	62
II L-1	# 竪筒楕円形	105×110×128	#	#	# 阿部遺跡南。	#	73	64
II L-2	# #	120×90×146	# #	#	#	#	73	65
III L-1	# #	97×99×136	#	# 土層に炭化物を含む。	# 埋平を受けていない。	#	73	65
III L-2	# #	112×92×135	# #	#	#	#	73	65

#### カのタイプ (第74図、写真図版66・67)

溝状の細長いタイプである。4基検出された中の2基は調査区域外にかかっている。4基とも散在しており、関連性に乏しい。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上面×下面×長さ					写真	
II L-3	溝状	360×25×90		自然埋積。	なし、上面形平。	不明	74	67
IV L-1	#	( )×55×124	#	#	# 北側調査区域外に延びる。	#	74	66
III M-1	#	320×25×128	#	#	# 南側調査区域外。	#	74	67
I M-1	#	330×25×130	#	#	#	#	74	67

以上、42基の陥穴の概要であるが、これらのなかで埋土中から土器が出土したのは4基のみである。それも殆どが上層からの出土で、底面からは皆無である。出土した土器はすべて大木8b式であり、また各タイプの陥穴から出土していることからすると、所属する時期は大木8b式期を含む前後、中期として大きな誤りはないものと考えられる。



II B-1号陪穴

- | 层位 | 色调           | 土质              |
|----|--------------|-----------------|
| 1. | 7.5YR3/2 暗褐色 | 含炭化物(少量)·浮石     |
| 2. | 7.5YR2/2 暗褐色 | 含炭化物(少量)·浮石     |
| 3. | 7.5YR2/2 暗褐色 |                 |
| 4. | 7.5YR5/6 暗褐色 | 粘土质             |
| 5. | 10 YR4/6 褐色  | 蓝黑褐色土, 含炭化物(微量) |

III C-1号陪穴

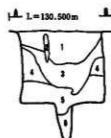
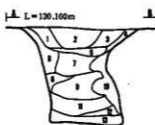
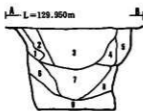
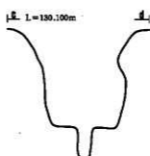
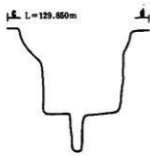
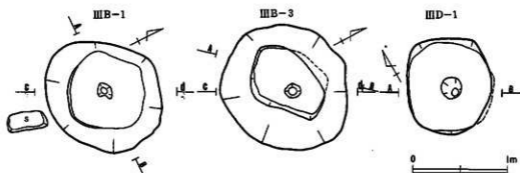
- | 层位 | 色调           | 土质              |
|----|--------------|-----------------|
| 1. | 7.5YR2/2 暗褐色 | 含炭化物(多量)·浮石(微量) |
| 2. | 7.5YR2/2 暗褐色 | 含炭化物(微量)        |
| 3. | 7.5YR2/2 暗褐色 | 含炭化物(少量)·浮石     |
| 4. | 10 YR2/2 暗褐色 |                 |
| 5. | 7.5YR4/4 褐色  | 粘土质             |
| 6. | 10 YR2/4 暗褐色 | 粘土质(蓝)          |

IO-1号陪穴

- | 层位 | 色调           | 土质               |
|----|--------------|------------------|
| 1. | 7.5YR2/1 褐色  | 粘土质, 含炭化物(少量)·浮石 |
| 2. | 7.5YR2/2 暗褐色 | 粘土质, 含炭化物(少量)·浮石 |
| 3. | 7.5YR2/2 暗褐色 | 粘土质, 含炭化物(少量)·浮石 |
| 4. | 7.5YR2/2 暗褐色 | 含浮石              |
| 5. | 7.5YR2/4 暗褐色 | 粘土质, 含炭化物(微量)·浮石 |

第64图 陪穴(1): II B-1、III C-1、IO-1号





III B-1号窑穴

- | 层位 | 色阶       | 土壤                |
|----|----------|-------------------|
| 1. | 10 YR4/6 | 褐色-7.5YR3/3 暗褐色   |
| 2. | 10 YR2/2 | 褐色                |
| 3. | 10 YR3/1 | 褐色 含黄褐色土粒         |
| 4. | 10 YR3/3 | 暗褐色               |
| 5. | 10 YR4/6 | 褐色 深褐色土           |
| 6. | 10 YR2/2 | 褐色 黄-10YR3/3 黄褐色土 |
| 7. | 10 YR2/2 | 褐色 含黄褐色土粒         |
| 8. | 10 YR2/4 | 暗褐色 含炭化物(少量)      |
| 9. | 10 YR2/2 | 褐色 含黄褐色土粒         |

III B-3号窑穴

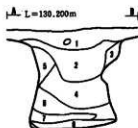
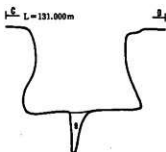
- | 层位  | 色阶       | 土壤                           |
|-----|----------|------------------------------|
| 1.  | 10 YR3/3 | 暗褐色 含炭化物(少量)、黄褐色土粒           |
| 2.  | 10 YR2/2 | 褐色 含炭化物(微量)、黄褐色土粒-浮石         |
| 3.  | 10 YR3/4 | 暗褐色 含炭化物(微量)、黄褐色土粒           |
| 4.  | 10 YR5/6 | 黄褐色 粘土质(黄)                   |
| 5.  | 10 YR2/4 | 暗褐色 含炭化物(微量)、黄褐色土粒           |
| 6.  | 10 YR6/6 | 暗黄褐色-10YR4/6 褐色 粘土质(黄)       |
| 7.  | 10 YR3/5 | 暗褐色 含炭化物(微量)、黄褐色土粒           |
| 8.  | 10 YR6/6 | 黄褐色-10YR4/6 褐色 含炭化物(微量)      |
| 9.  | 10 YR2/4 | 暗褐色 含黄褐色土粒(多数)-浮石            |
| 10. | 10 YR5/6 | 黄褐色-10YR4/6 褐色 含炭化物(微量)-浮石   |
| 11. | 10 YR6/6 | 暗黄褐色-10YR4/6 褐色 粘土质、含炭化物(微量) |
| 12. | 10 YR3/4 | 暗褐色 炭化物(微量)                  |
| 13. | 10 YR4/4 | 褐色 含炭化物(微量)                  |

III D-1号窑穴

- | 层位 | 色阶       | 土壤            |
|----|----------|---------------|
| 1. | 7.5YR2/2 | 暗褐色 含黄褐色土粒-浮石 |
| 2. | 7.5YR2/1 | 褐色 含黄褐色土粒     |
| 3. | 7.5YR2/2 | 暗褐色 含黄褐色土粒    |
| 4. | 10 YR2/4 | 暗褐色 粘土质       |
| 5. | 10 YR4/6 | 褐色 含浮石        |
| 6. | 10 YR4/6 | 褐色 粘土质、含浮石    |

第65图 窑穴(2): III B-1、III B-3、III D-1号

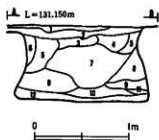
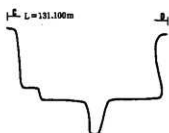
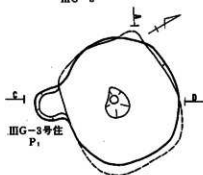
III G-1



III G-1号坑穴

層位	色調	土質
1.	10 YR3/2 黄褐色	含炭化物・黄褐色土粒(少量)
2.	10 YR3/3 暗褐色	含炭褐色土粒(少量)
3.	10 YR4/1 褐色	10 YR4/6 黄褐色、暗褐色土
4.	10 YR4/4 暗褐色	10 YR5/6 黄褐色、暗褐色土
5.	10 YR2/3 黄褐色	
6.	10 YR4/4 褐色	
7.	10 YR3/1 黄褐色	10 YR4/6 褐色
8.	10 YR3/4 暗褐色	粘土質(硬)、含浮石

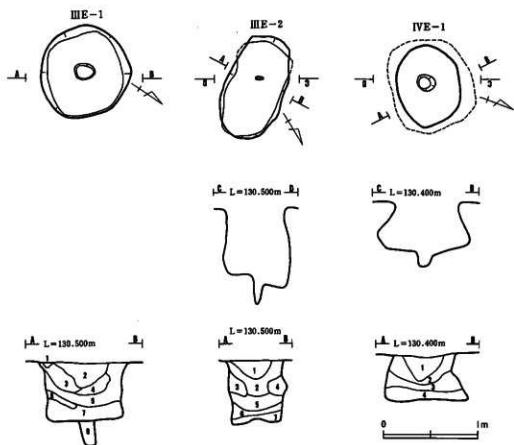
III G-2



III G-2号坑穴

層位	色調	土質
1.	7.5YR4/2 黄褐色	含炭化物・黄褐色土粒
2.	7.5YR4/6 褐色	含炭化物
3.	7.5YR4/6 褐色	含炭化物・褐土(少量)
4.	7.5YR3/4 暗褐色	含炭化物・褐土(少量)、少量の黒色化
5.	7.5YR3/4 暗褐色	粘土質、含炭土(少量)
6.	10 YR5/6 黄褐色	堆土によつて入る
7.	7.5YR3/2 黄褐色	黄褐色土粒・黄褐色土粒・黄褐色土粒(少量)
8.	10 YR4/6 褐色	褐色土
9.	10 YR5/6 黄褐色	堆土のくずれたもの
10.	7.5YR3/2 暗褐色	含炭化物・褐土(少量)
11.	7.5YR3/3 暗褐色	含炭褐色土粒(少量)
12.	7.5YR4/4 褐色	粘土質(硬)

第66図 陥 穴(3): III G-1、III G-2号

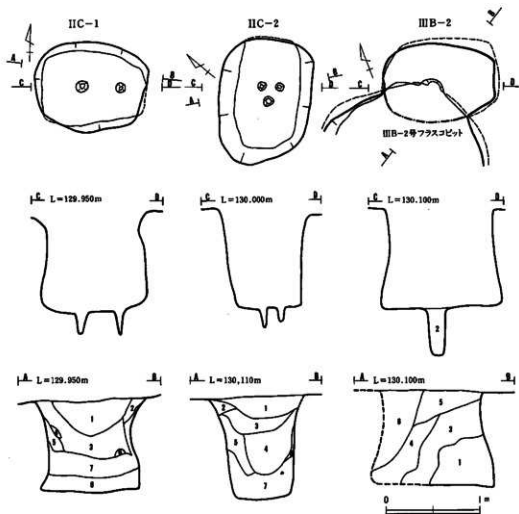


- III E-1 號穴
- | 層位 | 色調           | 土性       |
|----|--------------|----------|
| 1. | 7.5YR4/4 褐色  | 土性       |
| 2. | 10 YR2/1 褐色  | 含砂       |
| 3. | 10 YR2/3 暗褐色 | 含炭褐色土粒   |
| 4. | 10 YR2/2 深褐色 | 含浮石(少量)  |
| 5. | 10 YR2/2 深褐色 | 炭褐色土、含浮石 |
| 6. | 10 YR4/6 褐色  | 粘土質      |
| 7. | 10 YR2/4 暗褐色 | 含浮石      |

- III E-2 號穴
- | 層位 | 色調           | 土性        |
|----|--------------|-----------|
| 1. | 7.5YR3/2 黑褐色 | 含炭褐色土粒·浮石 |
| 2. | 7.5YR2/2 黑褐色 | 含炭褐色土粒    |
| 3. | 7.5YR4/4 褐色  | 凝結褐色土     |
| 4. | 7.5YR4/2 褐色  | 含炭化物(少量)  |
| 5. | 7.5YR3/2 黑褐色 | 含炭褐色土粒    |
| 6. | 7.5YR4/4 褐色  | 凝結褐色土     |
| 7. | 10 YR4/6 褐色  | 含浮石(少量)   |

- IV E-1 號穴
- | 層位 | 色調           | 土性            |
|----|--------------|---------------|
| 1. | 7.5YR3/2 黑褐色 | 含炭褐色土粒(少量)·浮石 |
| 2. | 7.5YR4/4 褐色  | 凝結褐色土         |
| 3. | 7.5YR4/4 褐色  | 含炭褐色土粒(少量)    |
| 4. | 7.5YR3/2 暗褐色 | 含浮石           |

第67圖 隔 穴(4)：III E-1、III E-2、IV E-1号



IC-1号竈穴

- | 層位 | 色調         | 土質                  |
|----|------------|---------------------|
| 1. | 7.5YR1.1/1 | 黒色 含炭化物(微量)・浮石(少量)  |
| 2. | 7.5YR2/1   | 暗褐色 粘土質(中)・含浮石(微量)  |
| 3. | 7.5YR2/2   | 黒褐色 含炭化物(微量)・浮石(少量) |
| 4. | 7.5YR2/3   | 明褐色 粘土質(中)・含浮石(微量)  |
| 5. | 7.5YR4/3   | 褐色 含浮石              |
| 6. | 10YR4/6    | 褐色 粘土質(中)           |
| 7. | 10YR4/6    | 褐色 粘土質(中)・含浮石       |
| 8. | 10YR4/3    | 褐色 粘土質(中)・含浮石(少量)   |

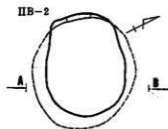
IC-2号竈穴

- | 層位 | 色調         | 土質                                    |
|----|------------|---------------------------------------|
| 1. | 7.5YR2/2   | 黒褐色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒(少量)                |
| 2. | 10YR2/2    | 暗褐色 含黄褐色土粒                            |
| 3. | 10YR2/2    | 暗褐色 含黄褐色土粒(少量)                        |
| 4. | 7.5YR1.1/1 | 黒色-7.5YR5/6 明褐色 含黄褐色土粒(少量)・炭化物(微量)・浮石 |
| 5. | 7.5YR2/2   | 黒褐色-7.5YR4/6 明褐色 粘土質(中)・含黄褐色土粒(少量)    |
| 6. | 7.5YR4/4   | 褐色 粘土質(中)                             |
| 7. | 7.5YR5/6   | 明褐色 粘土質(中)                            |

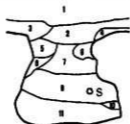
IB-2号竈穴

- | 層位   | 色調       | 土質              |
|------|----------|-----------------|
| 1.   | 7.5YR2/2 | 暗褐色 含炭化物(微量)    |
| 2.   | 7.5YR2/2 | 暗褐色 含黄褐色土粒      |
| 3-6. |          | IB-2号フラスコビットの痕跡 |

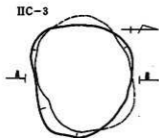
第68図 竈 穴(5)：IC-1、IC-2、IB-2号



L = 130,000m



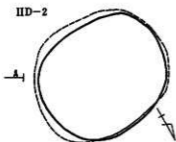
- II B-2号洞穴 土层  
 部位 色调  
 1. 10YR2/3 暗褐色 含灰化层(少量)·浮石(微量)  
 2. 7.5YR2/2 深褐色 含灰化层·浮石(微量)  
 3. 7.5YR2/2 深褐色 腐化  
 4. 7.5YR2/4 暗褐色 粘土质  
 5. 7.5YR4/4 褐色 7.5YR2/2 暗褐色 粘土质  
 6. 7.5YR2/6 暗褐色~7.5YR3/3 暗褐色 粘土质(微)  
 7. 7.5YR2/2 深褐色 含灰化层(微量)  
 8. 7.5YR2/2 暗褐色  
 9. 7.5YR2/2 深褐色 含灰褐色土粒·灰化物(微量)  
 10. 7.5YR2/6 暗褐色 粘土质(微)  
 11. 7.5YR2/3 暗褐色 含灰褐色土粒·灰化物(微量)



L = 130,000m



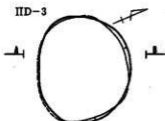
- II C-3号洞穴 土层  
 部位 色调  
 1. 7.5YR2/2 深褐色 含灰化层(微量)·浮石(多数)  
 2. 7.5YR4/4 褐色 粘土质, 含灰化层(微量)·浮石(多数)  
 3. 7.5YR4/3 褐色 含灰化层(微量)·浮石(多数)  
 4. 7.5YR5/6 暗褐色 粘土质  
 5. 7.5YR2/2 深褐色 含灰化层(多数)·浮石  
 6. 7.5YR2/4 暗褐色 含灰化层(微量)·浮石(多数)  
 7. 7.5YR4/4 褐色 粘土质(微), 含浮石  
 8. 7.5YR3/2 暗褐色 粘土质(微), 含浮石(少量)  
 9. 7.5YR4/3 褐色 粘土质(微), 含浮石(多数)  
 10. 7.5YR2/4 暗褐色 粘土质(微), 含浮石(多数)  
 11. 7.5YR3/2 暗褐色 含浮石(多数)



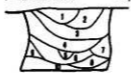
L = 130,200m



- II D-2号洞穴 土层  
 部位 色调  
 1. 10YR2/2 暗褐色~10YR1/1 褐色 含灰褐色土粒(少量)·浮石  
 2. 10YR2/3 暗褐色 含灰褐色土粒(少量)·浮石  
 3. 10YR5/6 暗褐色 含灰褐色土粒(少量)·浮石  
 4. 10YR2/2 暗褐色 含浮石  
 5. 10YR3/4 暗褐色 粘土质

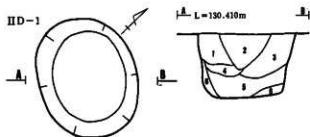


L = 130,250m

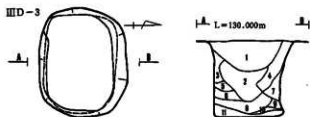


- II D-3号洞穴 土层  
 部位 色调  
 1. 10YR2/2 暗褐色 含灰褐色土粒(多数)  
 2. 10YR2/3 暗褐色 含灰褐色土粒(少量)  
 3. 10YR2/3 暗褐色~10YR4/6 褐色 含灰褐色土粒·浮石  
 4. 10YR2/6 暗褐色 含灰化层(微量)  
 5. 10YR4/6 褐色  
 6. 10YR3/4 暗褐色 含灰化层(微量)·含灰褐色土粒(少量)  
 7. 10YR5/6 暗褐色 粘土质  
 8. 10YR4/6 褐色 粘土质(微)  
 9. 10YR4/6 褐色  
 10. 10YR4/1 褐色 粘土质(微), 含浮石

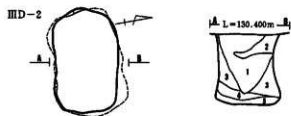
第69图 陷 穴(8): II B-2、II C-3、II D-2、II D-3号



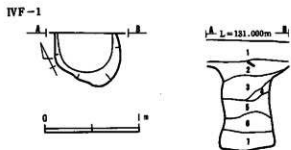
- IID-1号陥穴
- | 層位 | 色調      | 土質               |
|----|---------|------------------|
| 1. | 10YR4/6 | 褐色 含炭屑色土粒(少量)・浮石 |
| 2. | 10YR2/1 | 暗褐色 含炭屑色土粒・浮石    |
| 3. | 10YR4/4 | 褐色 含炭屑色土粒・浮石     |
| 4. | 10YR2/3 | 暗褐色 含浮石          |
| 5. | 10YR4/4 | 褐色 含炭屑色土粒(少量)    |
| 6. | 10YR2/5 | 暗褐色              |



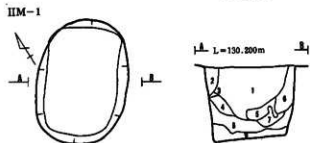
- IID-3号陥穴
- | 層位  | 色調       | 土質             |
|-----|----------|----------------|
| 1.  | 10YR2/2  | 暗褐色 含炭屑色土粒・浮石  |
| 2.  | 7.5YR4/3 | 暗褐色 含炭屑色土粒     |
| 3.  | 10YR2/2  | 暗褐色 含炭屑色土粒     |
| 4.  | 7.5YR4/3 | 暗褐色 含炭屑色土粒(少量) |
| 5.  | 10YR4/6  | 褐色 炭屑色土        |
| 6.  | 10YR2/3  | 暗褐色            |
| 7.  | 10YR4/6  | 褐色 粘土質         |
| 8.  | 10YR4/6  | 褐色 炭屑色土        |
| 9.  | 10YR2/6  | 暗褐色 粘土質        |
| 10. | 10YR2/4  | 暗褐色 粘土質        |
| 11. | 10YR4/4  | 褐色             |



- IID-2号陥穴
- | 層位 | 色調      | 土質                |
|----|---------|-------------------|
| 1. | 10YR2/1 | 暗褐色 含炭屑色土粒(少量)・浮石 |
| 2. | 10YR2/3 | 暗褐色 含浮石           |
| 3. | 10YR2/4 | 暗褐色 粘土質           |
| 4. | 10YR2/4 | 暗褐色 粘土質           |
| 5. | 10YR2/3 | 暗褐色 含浮石           |

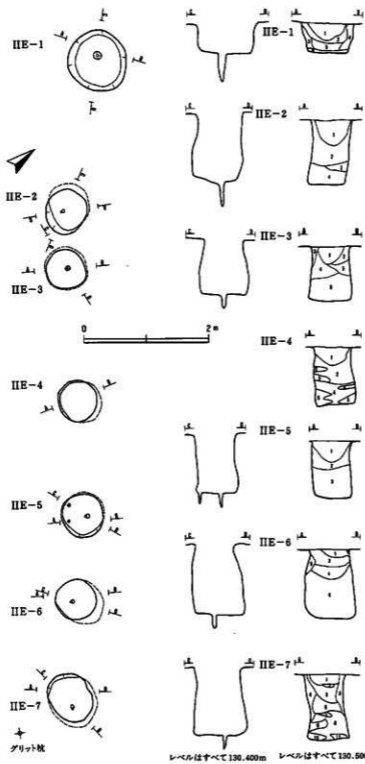


- IVF-1号陥穴
- | 層位 | 色調       | 土質                 |
|----|----------|--------------------|
| 1. | 7.5YR2/5 | 暗褐色 粘り土            |
| 2. | 7.5YR4/4 | 暗褐色 含炭化物(少量)・浮石    |
| 3. | 7.5YR2/4 | 暗褐色 含炭化物(少量)・炭屑色土粒 |
| 4. | 7.5YR4/3 | 暗褐色 含炭土(少量)・炭化物・浮石 |
| 5. | 7.5YR4/4 | 暗褐色 含炭土(少量)・炭化物・浮石 |
| 6. | 7.5YR2/6 | 暗褐色 含浮石・粘土質(硬)     |
| 7. | 10YR2/4  | 暗褐色 粘土質(硬)・含浮石     |



- IIM-1号陥穴
- | 層位 | 色調      | 土質                  |
|----|---------|---------------------|
| 1. | 10YR2/1 | 暗褐色 含炭屑色土粒(多量)      |
| 2. | 10YR4/3 | 暗褐色 粘土質(硬)          |
| 3. | 10YR2/3 | 暗褐色                 |
| 4. | 10YR4/4 | 暗褐色 炭屑色土            |
| 5. | 10YR2/1 | 暗褐色 含炭屑色土粒          |
| 6. | 10YR4/3 | 暗褐色 含浮石             |
| 7. | 10YR2/6 | 暗褐色 炭屑色土            |
| 8. | 10YR2/6 | 暗褐色 炭屑色土            |
| 9. | 10YR2/4 | 暗褐色 炭屑色土 含炭化物(硬)・浮石 |

第70図 陥穴(7): IID-1、IID-3、IID-2、IVF-1、IIM-1号



ⅡE-1号堀穴  
 層位 土質  
 1. 7.5YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 2. 7.5YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 3. 10YR4/6 褐色 粘土質(多量)  
 4. 10YR4/6 褐色 粘土質(多量)  
 5. 7.5YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 6. 7.5YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)

ⅡE-2号堀穴  
 層位 土質  
 1. 7.5YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 2. 7.5YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 3. 7.5YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 4. 7.5YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)

ⅡE-3号堀穴  
 層位 土質  
 1. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 2. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 3. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 4. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)

ⅡE-4号堀穴  
 層位 土質  
 1. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 2. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 3. 7.5YR2/6 暗褐色 粘土質(多量)  
 4. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 5. 7.5YR2/6 暗褐色 粘土質(多量)  
 6. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 7. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)

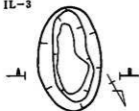
ⅡE-5号堀穴  
 層位 土質  
 1. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 2. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 3. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)

ⅡE-6号堀穴  
 層位 土質  
 1. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 2. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 3. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 4. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 5. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 6. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)

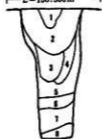
ⅡE-7号堀穴  
 層位 土質  
 1. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 2. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 3. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 4. 7.5YR2/6 暗褐色 粘土質(多量)  
 5. 7.5YR2/6 暗褐色 粘土質(多量)  
 6. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 7. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 8. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 9. 7.5YR2/6 暗褐色 粘土質(多量)  
 10. 10YR2/7 黒褐色 粘土質(多量)  
 11. 7.5YR2/6 暗褐色 粘土質(多量)

第71図 堀穴(8): ⅡE-1~7号堀穴配置図

IL-3

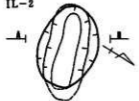


L = 130.300m

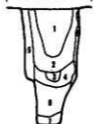


- I L-3号陷穴 土壤
- 層位 色調
1. 10YR2/7 黄褐色 含炭化物·黄褐色土粒(多量)
  2. 10YR5/6 黄褐色 湖沼棕色土·粘土質(強), 含炭化物(少量)·浮石
  3. 10YR5/6 黄褐色 湖沼棕色土·粘土質(強), 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(多量)
  4. 10YR4/6 黄褐色 區に25°黄褐色·粘土質(強), 含炭化物(少量)
  5. 10YR4/6 褐色 粘土質(強), 含炭化物(少量)
  6. 10YR5/6 黄褐色 粘土質(強), 含炭化物(強)
  7. 10YR5/6 黄褐色 粘土質(強), 含炭化物(強)·黄褐色土粒(多量)
  8. 10YR4/4 褐色 含炭化物·黄褐色土粒(多量)

IL-2

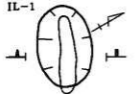


L = 130.300m

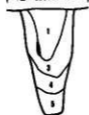


- I L-2号陷穴 土壤
- 層位 色調
1. 10YR2/7 褐色 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(多量)·浮石
  2. 10YR4/6 黄褐色 10YR5/6 暗黄褐色 黄褐色土·含浮石
  3. 10YR4/6 褐色 粘土質(強)
  4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質(強)
  5. 10YR5/6 黄褐色 粘土質(強), 含浮石
  6. 10YR4/6 褐色 粘土質, 含黄褐色土粒(少量)·浮石
  7. 10YR5/6 黄褐色 粘土質

IL-1

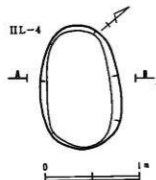


L = 130.300m



- I L-1号陷穴 土壤
- 層位 色調
1. 10YR2/7 褐色 含炭化物(強)·浮石
  2. 10YR2/5 暗褐色 含浮石
  3. 10YR5/6 黄褐色 10YR4/6 黄褐色 黄褐色土·含浮石
  4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質(強)
  5. 10YR5/6 黄褐色 粘土質(強)

IL-4



L = 130.300m



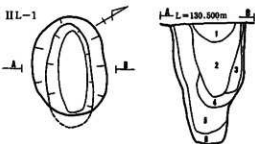
- I L-4号陷穴 土壤
- 層位 色調
1. 10YR4/6 黄褐色 含炭化物·黄褐色土粒(少量)·浮石
  2. 10YR2/5 暗褐色 10YR4/6 褐色 含浮石
  3. 10YR4/6 黄褐色 區に25°黄褐色 含炭土粒·炭化物
  4. 10YR4/6 褐色 含炭土粒·炭化物·浮石
  5. 10YR5/6 黄褐色 含炭化物(少量)

第72圖 陷穴(8) : I L-1~3、I L-4号



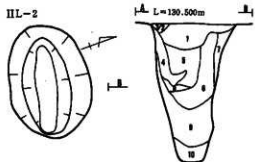
II L-1号洞穴

- | 層位 | 色調           | 土性                        |
|----|--------------|---------------------------|
| 1. | 10 YR2/3 暗褐色 | 含腐殖质土粒(多数)+浮石             |
| 2. | 10 YR2/3 暗褐色 | 10 YR4/4 褐色 含腐殖质土粒(多数)+浮石 |
| 3. | 10 YR2/8 黄褐色 | 含浮石                       |
| 4. | 10 YR2/8 黄褐色 | 暗褐色 含腐殖质土粒(多数)+浮石         |
| 5. | 7.5YR4/6 暗褐色 | 10 YR2/8 黄褐色 暗褐色土 含浮石     |
| 6. | 10 YR2/8 黄褐色 | 含浮石                       |

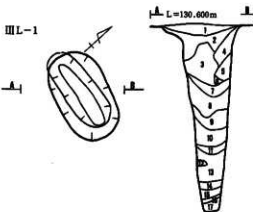


II L-2号洞穴

- | 層位  | 色調           | 土性                    |
|-----|--------------|-----------------------|
| 1.  | 10 YR2/3 暗褐色 | 含腐土(微量)+灰化物+黄褐色土粒(少量) |
| 2.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 含腐殖质土粒                |
| 3.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 含腐殖质土粒                |
| 4.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 10 YR2/6 暗褐色 暗褐色土     |
| 5.  | 10 YR2/1 褐色  | 含腐化物+黄褐色土粒            |
| 6.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 10 YR2/6 褐色 含腐化物      |
| 7.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 黏土质(硬) 含浮石            |
| 8.  | 10 YR2/4 暗褐色 | 含腐化物(多数)              |
| 9.  | 10 YR2/6 暗褐色 | 含腐土小ブロック              |
| 10. | 10 YR2/6 黄褐色 |                       |



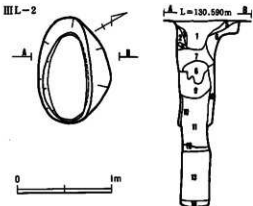
III L-1



III L-1号洞穴

- | 層位  | 色調           | 土性                          |
|-----|--------------|-----------------------------|
| 1.  | 10 YR2/3 暗褐色 | 含腐化物(微量)                    |
| 2.  | 10 YR2/4 暗褐色 | 黏土质+含浮石                     |
| 3.  | 10 YR2/3 暗褐色 | 10 YR2/4 暗褐色 含腐化物+含浮石       |
| 4.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)+浮石          |
| 5.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 黏土质(硬)                      |
| 6.  | 10 YR2/4 暗褐色 | 黏土质(硬)                      |
| 7.  | 10 YR2/4 暗褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)+浮石          |
| 8.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 黏土质(硬)                      |
| 9.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)             |
| 10. | 7.5YR2/6 暗褐色 | 黏土质(硬)                      |
| 11. | 7.5YR2/6 暗褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)             |
| 12. | 7.5YR2/6 暗褐色 | 黏土质(硬)                      |
| 13. | 7.5YR2/4 暗褐色 | 含腐化物+黄褐色土粒(多数)              |
| 14. | 10 YR2/4 暗褐色 | 10 YR2/4 暗褐色 含腐化物+黄褐色土粒(多数) |
| 15. | 7.5YR2/6 暗褐色 | 黏土质 含腐化物+黄褐色土粒(少量)          |
| 16. | 10 YR2/6 黄褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)             |
| 17. | 7.5YR2/6 暗褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量) 黄褐色土粒(少量)   |

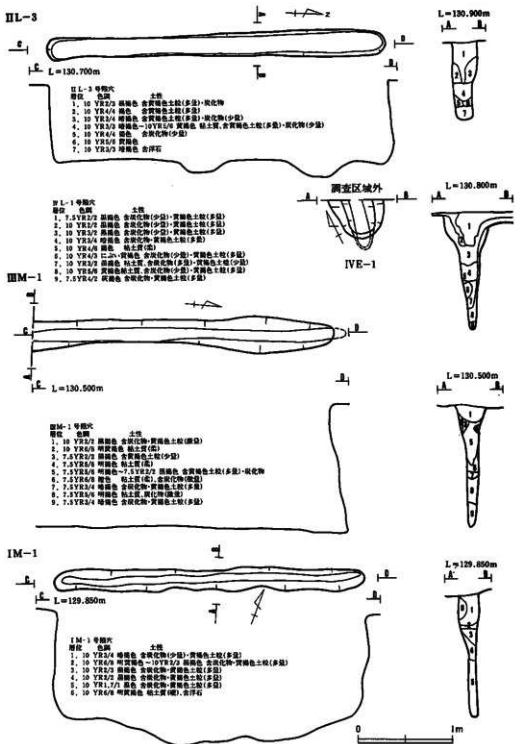
III L-2



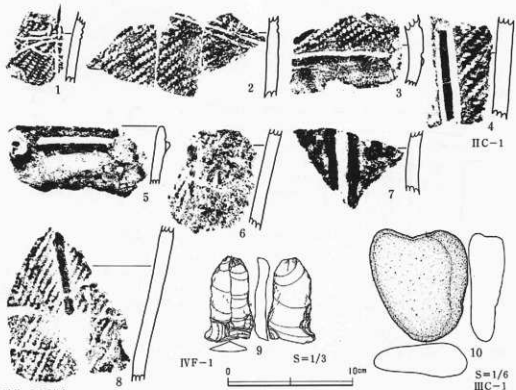
III L-2号洞穴

- | 層位  | 色調           | 土性                        |
|-----|--------------|---------------------------|
| 1.  | 10 YR2/2 黑褐色 | 含腐化物+黄褐色土粒(微量)            |
| 2.  | 7.5YR2/6 暗褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)           |
| 3.  | 10 YR2/4 暗褐色 | 黏土质(硬)                    |
| 4.  | 10 YR2/3 暗褐色 | 含腐质土粒(多数)                 |
| 5.  | 10 YR2/4 暗褐色 | 黏土质                       |
| 6.  | 10 YR2/4 暗褐色 | 黏土质                       |
| 7.  | 10 YR2/3 暗褐色 | 含腐化物(微量)+黄褐色土粒(少量)        |
| 8.  | 10 YR2/1 褐色  | 含腐化物(微量)+黄褐色土粒(多数)+浮石     |
| 9.  | 10 YR2/6 黄褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)           |
| 10. | 10 YR2/6 黄褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)           |
| 11. | 10 YR2/6 黄褐色 | 含腐化物(微量)                  |
| 12. | 10 YR2/2 黑褐色 | 含腐化物(多数)+黄褐色土粒(少量)        |
| 13. | 10 YR2/6 暗褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物(微量)           |
| 14. | 10 YR2/4 暗褐色 | 黏土质(硬) 含腐化物+黄褐色土粒(少量)     |
| 15. | 10 YR2/4 暗褐色 | 10 YR2/4 暗褐色 黏土质 含腐化物(微量) |

第73图 洞穴(II) : II L-1, II L-2, III L-1, III L-2号



第74图 陷 穴(0): IL-3、NE-1、IM-1、IM-1号

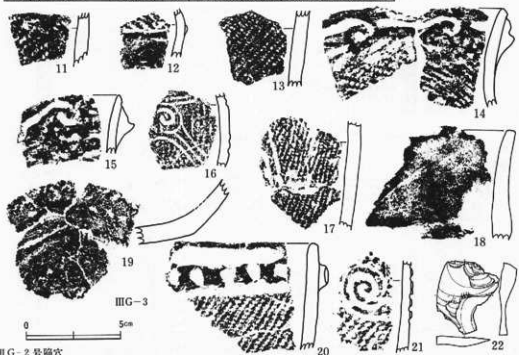


IV F-1号陷穴

100%	出土地点	品名	长×宽	高	厚×内径	重量(g)	石质	说明	出
9	埋土2层	石制器	6.8	3.9	1.1	23.3	燧石质	鹿田山地-明第三系中洞坑	地

III C-1号陷穴

100%	出土地点	品名	长×宽	高	厚×内径	重量(g)	石质	说明	出
10	埋土3层棕色土	自然器	17.8	13.5	5.9	1,560	燧石质砂岩	鹿田山地(夏通)1号第一系中洞坑	地



III G-2号陷穴

100%	出土地点	品名	长×宽	高	厚×内径	重量(g)	石质	说明	出
22	III G-2号陷穴灰层	制刀	2.9	3.3	0.9	6.3	燧质泥岩	鹿田山地-明第三系中洞坑	地

1-4: III C-1号, 5-9: IV F-1号  
10: III C-1号, 11-22: III G-2号

第75图 陷穴出土遗物

## V. 遺構外出土の遺物

### 1. 一括廃棄土器群 (第76～78図、写真図版69・70)

IVC区西側、調査区域外に近い地点で、一括して廃棄された土器群を検出した。大きくは一つの地域であるが、間に無遺物の空間があったのでA群とB群に分けた。両群とも完形品を廃棄したものではなく、一部欠損あるいはバラバラになった土器片で構成されている。復原できたのはA群の5点のみで、他は破片のみである。B群には1点擦石が含まれている。土器はいずれも大木8b式の範疇に属するもので、A、B群ともキャリバー型の深鉢が多く、浅鉢は見られない。周辺には焼土、炭化物、灰などは確認できなく、特殊な遺物も存在しなかった。たんなる土器の捨て場とみなすべきであろう。

### 2. 縄文時代の土器 (第79～84図、写真図版71・72)

再三述べているように、当遺跡は昭和40年代の開田の際に地山まで削平されており、遺構と遺物の保存状態は不良である。特に、遺構外出土の遺物は破損が甚だしく、かつ原位置を保っていない。包含層が移動しているため、各グリットから遺物が出土するが、それでも遺構の集中する周辺からより多く出土する傾向は認められた。図化できた土器の殆どは開田されていないA～C区出土である。原位置を保っている土器の図には出土地点を記載したが、そうでないものはナンバーのみを付してある。

器種は深鉢と浅鉢が基本で、これに少量の小型深鉢と手捏土器(4)および注口土器(5)が含まれる。深鉢型土器は口縁部が直立気味で隆線文および突起、橋状肥手が付くもの(17～23)、キャリバー状で隆沈線文による渦文、平行沈線を主体とする一群(24～58)、口縁部にのみ隆沈線のある粗製土器(76～106)等に分類される。浅鉢は数が少なく、破片で5点(124～128)を確認したのみである。いずれも無文で底部は磨かれている。これらの土器は総じて大木8b式に含まれるが、数例他型式の土器が存在する。17、18は大木8a式に、12、119は大木7式に相当するものであろう。

### 3. 平安時代の土器 (第80図16、写真図版71)

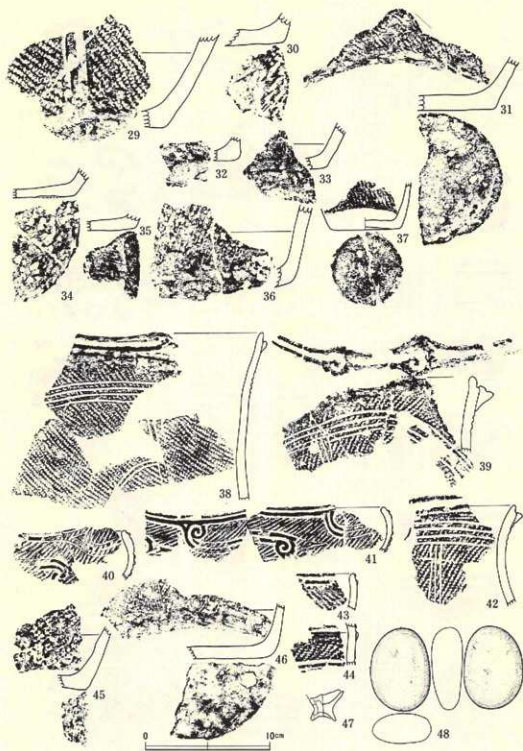
土器器が一点のみ、ほぼ完形で出土した。地点は調査区東端に近いIII N区の斜面黒色土中である。付近では焼土も若干検出されており、遺構にからむ土器の可能性が高い。黒色土中に構築された住居跡が流失あるいは破壊され、土器と焼土の一部が残ったものと考えられる。糸切痕のある坏で、10世紀代の年代が与えられる。



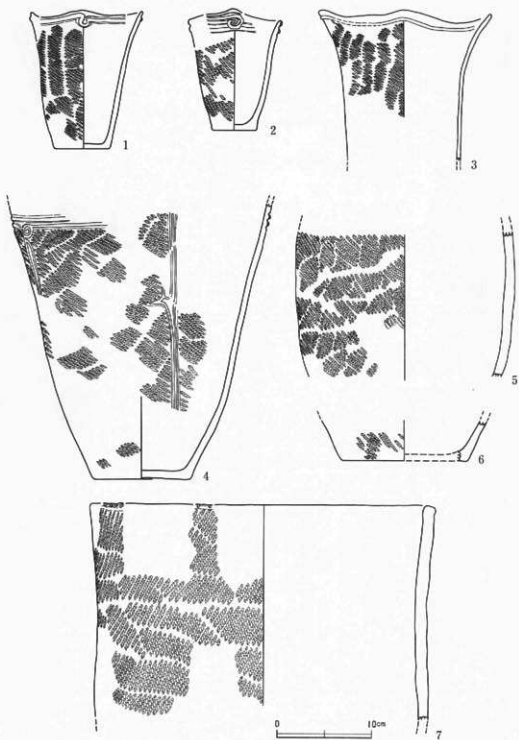
第76图 一括鹿寨土器群：ⅡC区A群(1)



第77图 一括庞寨土器群：ⅡC区A群(2)

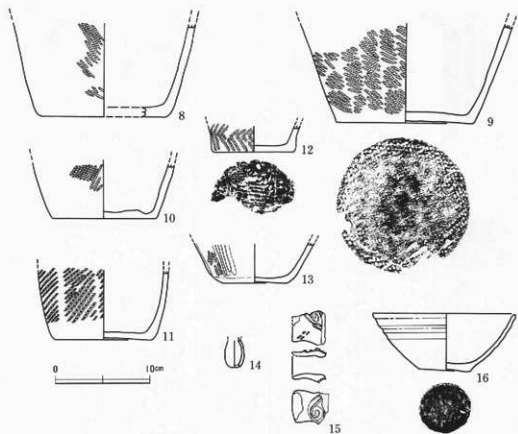


第78图 一括鹿寨土器群：IV区A群(3)・B群

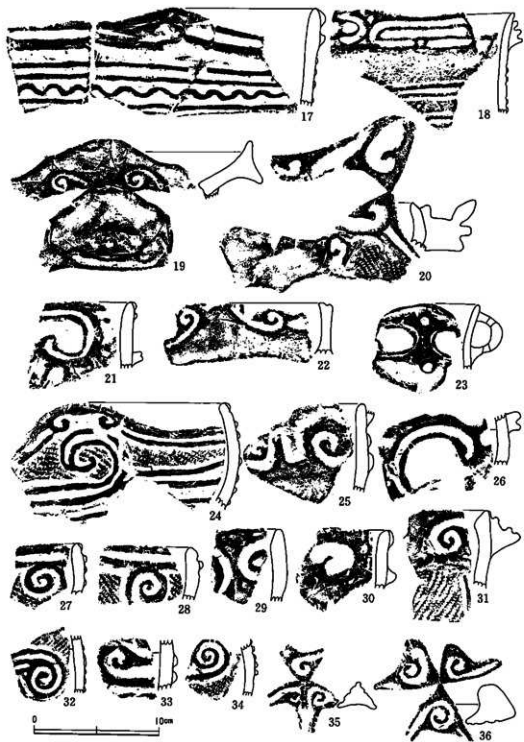


第79図 遺構外遺物：土器(1)

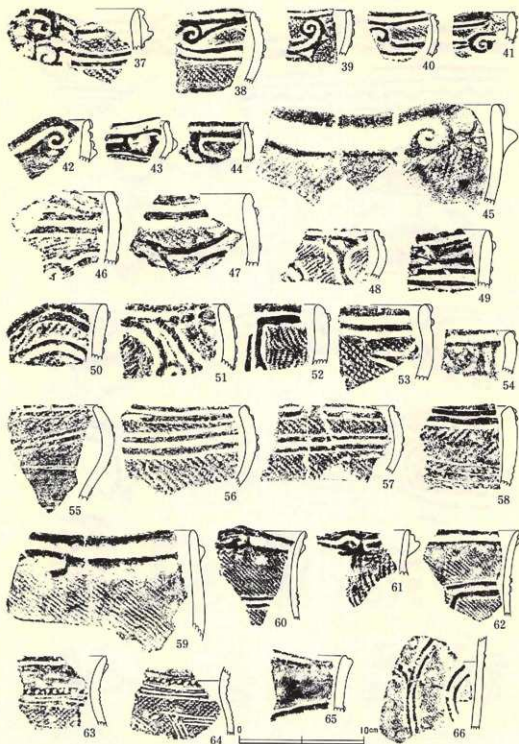




第80圖 遺構外遺物：土器(2)



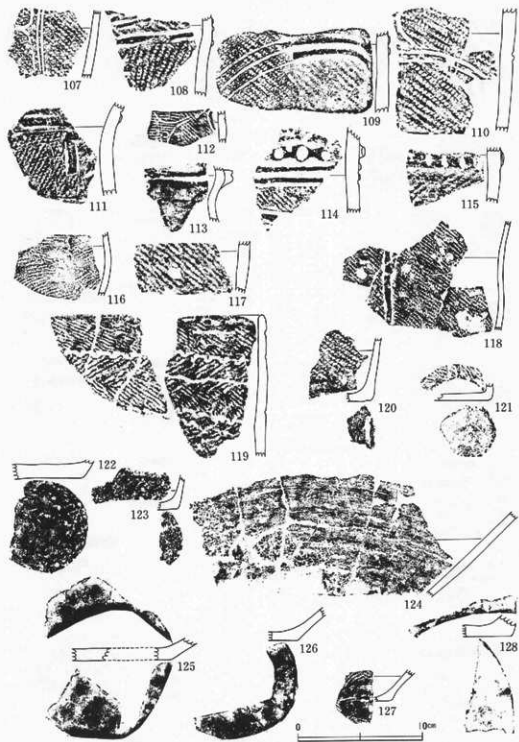
第81圖 遺構外遺物：土器(3)



第82圖 遺構外遺物：土器(4)



第83圖 遺構外遺物：土器(5)



第84図 遺構外遺物：土器(6)

#### 4. 石器 (第85～94図、写真図版73・74)

出土した石器のうち、形の判明している定形的な剥片石器の類はすべて図示したが、擦石、不定形石器等のいくつかは省略したものがある。以下に記述する各石器は、すべて縄文時代に属するものと考えられる。出土地点と層位は一覧表に示してあるが土器と同様、原位置を保っているものは少ない。

##### 石鏃 (第85図1～3、写真図版73)

3点出土した。いずれも無茎であるが、3のみは片面加工で先端部が湾曲し、基部は欠損している。嘴状石器と呼ばれている石器で、岩手県では稀に出土しているが、一遺跡から多数の例はない。秋田県八木遺跡 (秋田県文化財調査報告書181集・1989) では52点が出土している。八木遺跡は縄文時代中期～後期に属するが、本遺跡は大木8b式期であり、隣接する本郷遺跡では大木7、8a式の土器に伴って出土している (岩手県埋文報告164集・1992)。

##### 尖頭器 (第85図4～6、写真図版73)

3点出土。4は両面の周辺を丁寧加工しているが、5、6はより大型で調整も粗く、背面に自然面を残している。

##### 石鏃 (第85図7～9、写真図版73)

同じく3点の出土。7は改端部変形で、基部は薄く平坦である。8は方形に近い断面で、先端部は磨耗している。9は剥片の一端を加工して鏃部としている。

##### 石匙 (第85図10～13、写真図版73)

横型2点、縦型2点の計4点の出土。10は刃部が内湾し、片刃状となっている。11は両面とも丁寧な調整。12も両面調整で、丸みのある器形。13は刃部欠損。

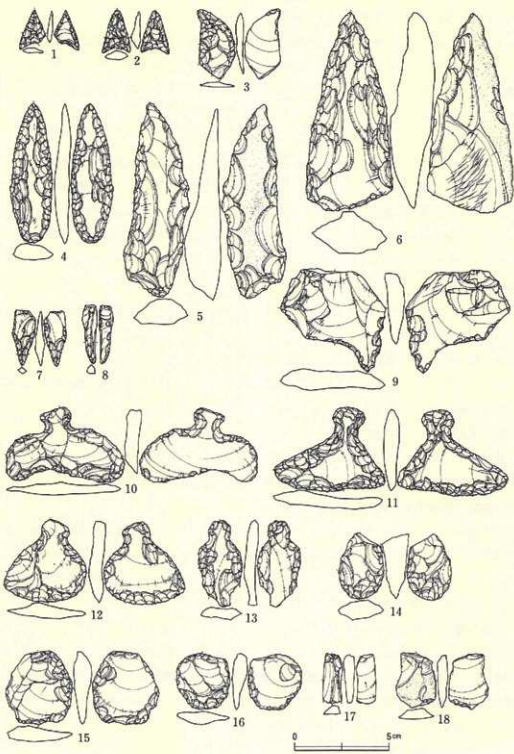
##### 掻・削器 (第85図14～87図38、写真図版73)

二次加工によって円形、楕円形に整形した搔器(14～16)、剥片の1辺あるいは2辺に片面または両面からの二次加工による刃部をもつ削器類を一括した。刃部以外への二次調整は見られない。ノッチを有する石器も含めてある。25点図示したが、破損して刃部の存在が不明な剥片を除くとこれが総数である。なお、39は石核。

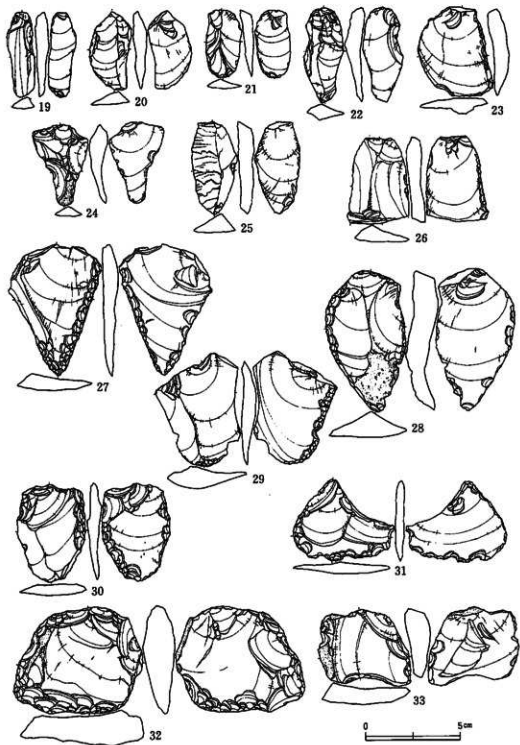
##### へら状石器 (第88図40～49、写真図版73)

石篋とも呼ばれる器種で9点が出土した。43を除いた8点は両面加工がなされている。長方形あるいは長楕円形状のものは二次調整が丁寧であるが、パチ形状のものはやや雑である。形態がやや異なるので、機能の違いも考慮する必要があるだろう。パチ型の48、49とも刃部欠損している。刃部は片刃、両刃あるが後者の方が多い。

##### 石斧 (第89図51～59、写真図版74)

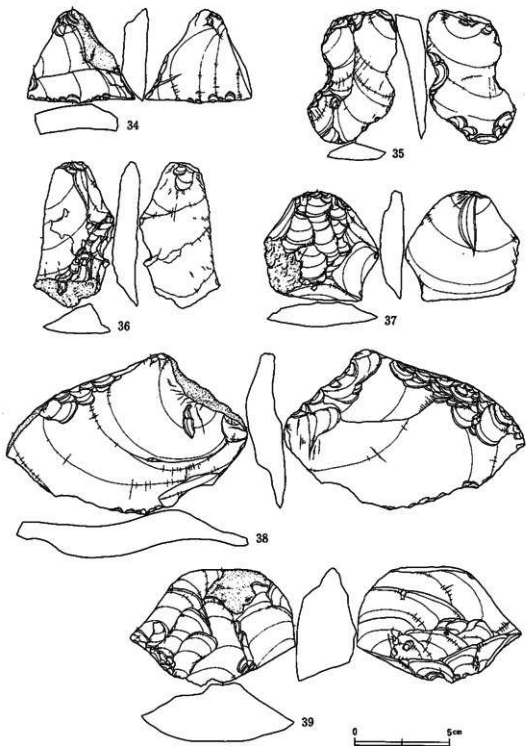


第85圖 遺構外遺物：石器(1)

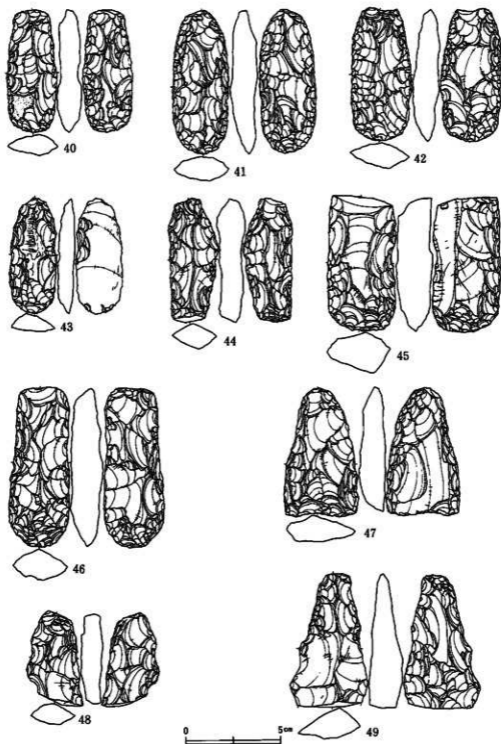


第86圖 遺構外遺物：石器(2)

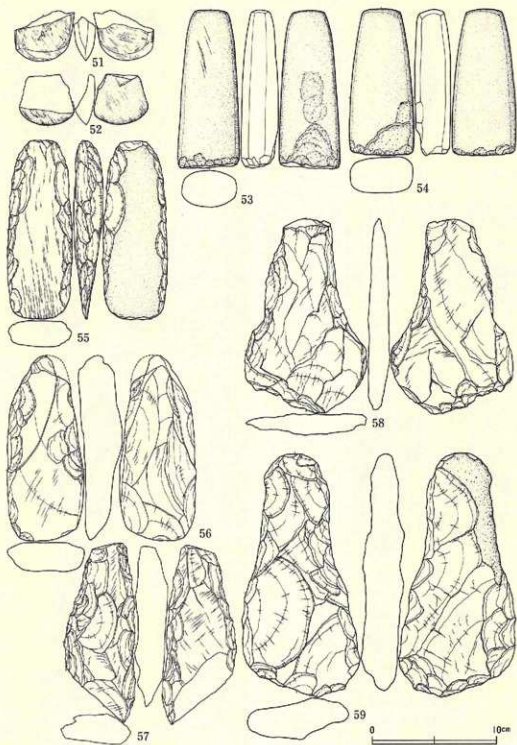




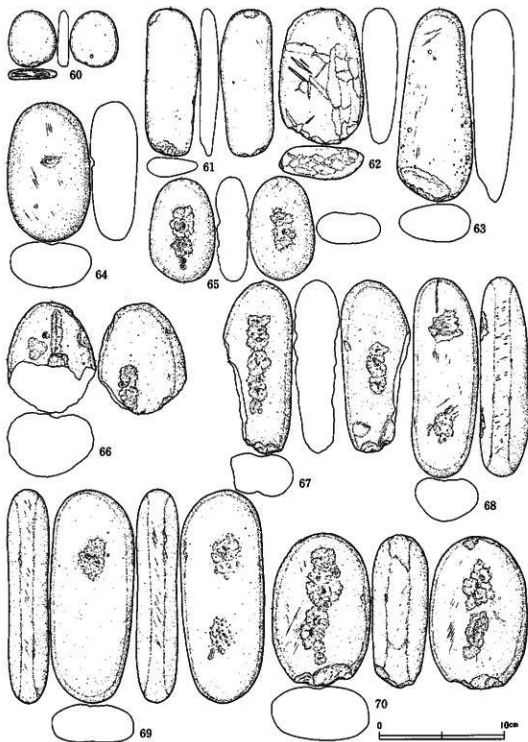
第87圖 遺構外遺物：石器(3)



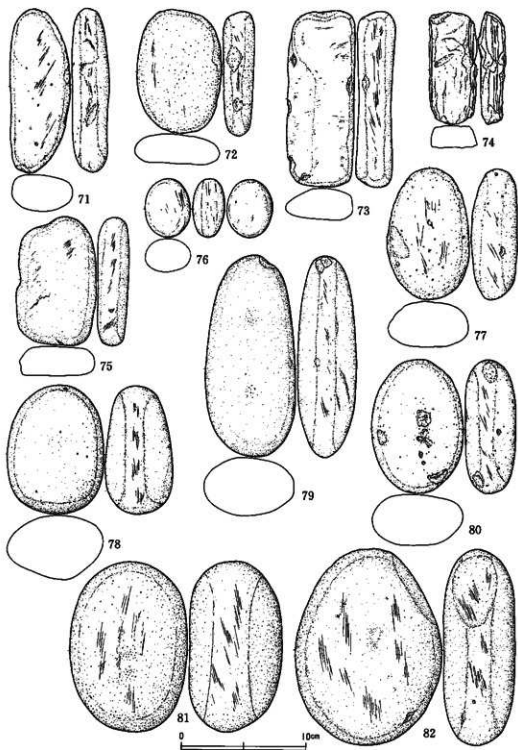
第88圖 遺構外遺物：石器(4)



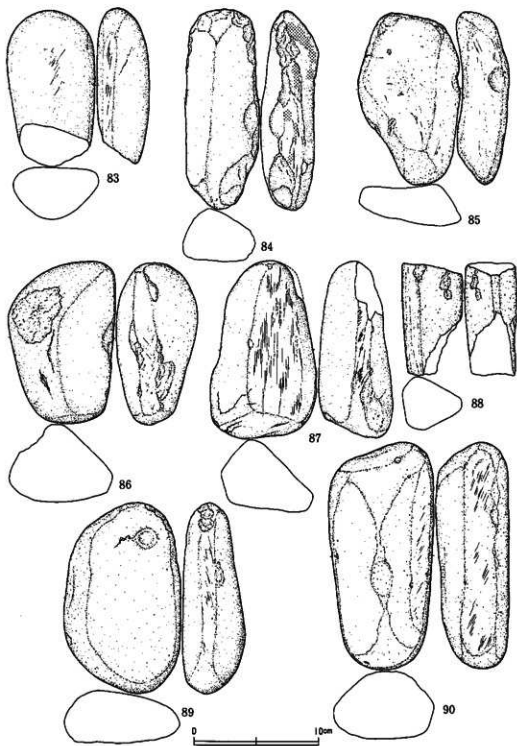
第89図 遺構外遺物：石器(5)



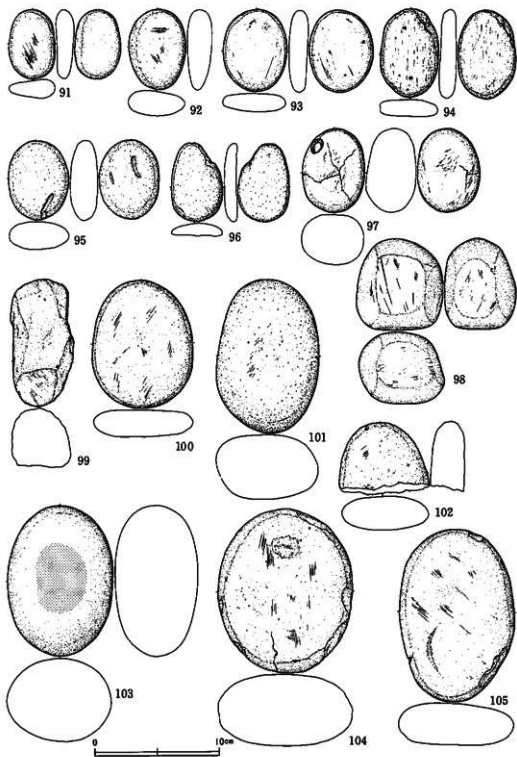
第90圖 遺構外遺物：石器(6)



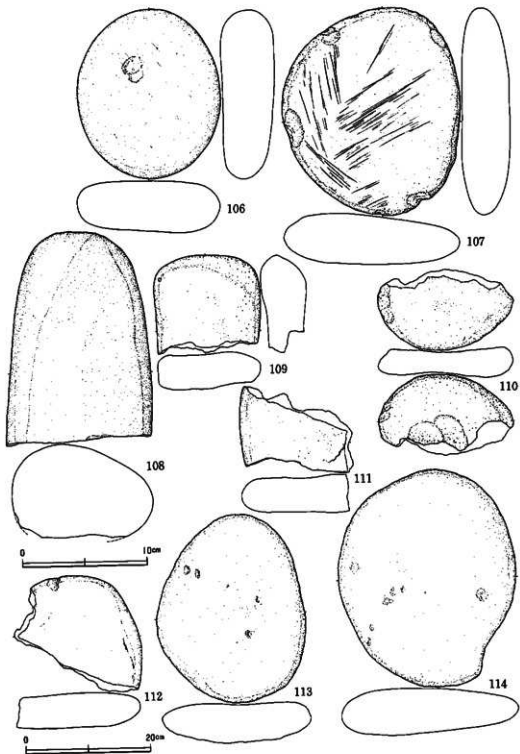
第91圖 遺構外遺物：石器(7)



第92圖 遺構外遺物：石器(8)



第93圖 遺構外遺物：石器(9)



第94圖 遺構外遺物：石器(10)



磨製・打製あわせて9点が出土。磨製の5点中、2点は破損した刃部のみ、53、54は破損した部分を再調整して敲石として使用している。55は両面は磨いているが基部および両側面を剝離調整している。56、57は打製で、後者は刃部欠損。58、59は石鎌の類で下部は三角形状となり刃は厚く鈍い。

#### 敲石 (第90図60～63、写真図版74)

楕円形あるいは長方形の礫の短い1辺を敲いているもので4点出土した。擦石や凹石の1辺を加工するものもあるが、この一群は敲き面のみを有する。62は器面に細い溝が走る。

#### 凹石 (第90図64～70、写真図版74)

9点出土したうちから8点を図示した。擦石の項で扱った中に1点凹みを有するものが含まれている(91図80)。64～66は片面および両面の凹みのみであるが、67は下端が敲き面となっており、68、69は片側および両側面が擦石として機能しており、70は擦石兼敲石と、三つの機能を有している。凹石に関しては単一の機能よりは、複数の機能を持たせる傾向が認められそうである。

#### 擦石 (第91～93図71～105、写真図版74)

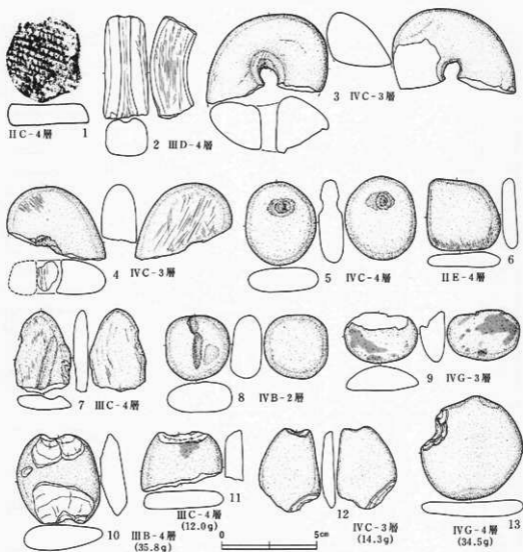
擦石とした石器は形態からして二つに分類される。一つは長方形あるいは楕円形、三角形の長辺の側面を使用しているもので、断面が三角形のものも多々含まれる(92図)。片側面を擦っているのが最も多いが、両側面を使用している例もある。当然、平面も擦り面として利用しているものも含まれる。なかには、側面を調整した上で擦っている例もあり(92図84)この擦石には部分的に炭化物が付着している。48点出土したうち20点を図示した。もう一つのは扁平な礫の片面あるいは両面を擦っているものであるが、中には98のような多面を使用しているものや、98のように先端部分のみを擦っている例もある。103は中央部に光沢面を持つ。32点出土したうち15点を図示した。遺構外の石器のなかでは最も多い数量である。

#### その他の石器 (第94図106～114、写真図版74)

106、107は器面に擦痕が走る扁平な礫。108はおそらく石棒の破片。109、110は器面にゆるやかな凹みをもつ石皿的な石器。111～114は台石と思われる。

### 5. 土・石製品 (第95図1～13、写真図版74)

1は土器片を利用した円盤状土製品、2は珪質凝灰岩製の側面に溝のある石製品であるが、破片のため形状は不明。3、4は淡緑色凝灰岩製の穿孔のある石製品で、4の両面には擦痕があり孔にはタール状の付着物が認められる。5は両側から穿孔しているが貫通はしていない、未製品か。6は擦痕、7・8は溝が刻まれているが用途は不明。9は斑状に炭化物が付着して



第95図 遺構外遺物：土・石製品

いる。5～7は淡緑色凝灰岩、7・8は輝石安山岩製。10～13は本来石器として扱う石錘である。紙数の関係でこのページに納めた。4点の出土であるが、13は1辺のみを欠いている。11の頂部には煤が付着している。重量は少なく、材質は淡緑色凝灰岩。土・石製品は図示した資料が全てであり、明瞭な装飾品や精神生活に係わる土偶等は出土しなかった。ただ、遺構内からは検出されているので遺跡自体の保存状況の劣悪さによるものと考えたい。

遺構外出土石器觀察表

圖版№	出土地點	器 種	長	幅	厚	重量	石 質	處 地
1	IVC-3層 黑色	石鏃	2.1	1.4	0.3	1.0	瑤質細粒凝灰岩	興羽山地 新第三系中新統
2	III D-4層 褐色	"	2.3	1.5	0.5	(0.6)	"	" "
3	IVC-4層 褐色土	"	3.8	2.1	0.5	2.6	瑤質泥岩	" "
4	II C-4層 褐色	尖頭鏃	7.4	2.3	0.9	14.7	瑤質細粒凝灰岩	" "
5	III C-3層 黑色土	"	10.3	3.5	1.9	52.8	硬質泥岩	" "
6	II E-表探	"	10.5	4.6	2.3	85.0	瑤質細粒凝灰岩	" "
7	III C-2層 黑色土	石鏃	3.0	1.2	0.5	1.5	"	" "
8	IVC-4層 褐色土	"	3.1	0.8	0.5	1.1	硬質泥岩	" "
9	II B-3層 黑色	"	5.5	5.6	1.1	30.0	瑤質細粒凝灰岩	" "
10	III C-3層 灰褐色	石鏃	4.0	6.3	0.8	13.4	"	" "
11	IVB-4層 褐色	"	4.5	5.9	0.9	18.2	"	" "
12	IVG-4層 褐色	"	4.4	4.4	0.8	14.2	瑤質泥岩	" "
13	IVF-3層 黑色下層	"	4.6	2.3	0.8	6.6	瑤質細粒凝灰岩	" "
14	IVE-3層 黑色下層	箭・箭鏃	3.5	2.4	1.4	(11.0)	"	" "
15	IVC-2層 褐色	"	3.9	3.5	1.0	13.0	"	" "
16	IVF-2層 褐色	"	3.0	2.8	0.8	5.9	"	" "
17	III G-4層 褐色	"	2.7	1.0	0.6	1.8	"	" "
18	IVC-3層 黑色	"	3.0	2.1	0.6	3.4	瑤質泥岩	" "
19	I J-表土	"	4.5	1.5	0.7	4.0	"	" "
20	III C-3層 黑色土	"	4.1	2.3	0.7	7.0	輝綠凝灰岩	北上山地 "
21	IVE-4層 褐色	"	3.6	1.9	0.7	3.3	瑤質細粒凝灰岩	興羽山地 "
22	IVC-3層 黑色	"	5.0	2.1	1.1	7.1	"	" "
23	IVC-3層 黑色	"	4.7	4.0	1.1	13.3	硬質泥岩	" "
24	IVC-4層 褐色土	"	4.3	2.9	1.0	7.1	瑤質細粒凝灰岩	" "
25	III B-2層 褐色	"	4.9	2.4	1.0	3.7	"	" "
26	III C-2層 褐色土	"	4.5	3.3	0.9	(15.4)	硬質泥岩	" "
27	IVC-3層 黑色土	"	7.0	5.0	0.9	26.5	瑤質泥岩	" "
28	II A-4層 褐色	"	7.5	4.3	1.8	41.0	"	" "
29	III B-4層 褐色	"	4.4	6.0	1.3	18.8	硬質泥岩	" "
30	II M-4層 褐色	"	5.2	3.6	0.8	12.9	瑤質細粒凝灰岩	" "
31	IVF-3層 黑色下層	"	4.3	5.4	0.6	12.8	"	" "
32	IV J-2層 褐色	"	5.7	6.9	1.9	79.0	"	" "
33	IV I-2層 褐色	"	4.1	4.9	1.3	26.1	"	" "
34	IVG-4層 脫亂	"	5.0	5.7	1.5	37.8	瑤質泥岩	" "
35	IVH-2層 褐色	"	7.0	4.7	1.6	35.6	"	" "
36	III B-4層 褐色	"	7.7	4.3	1.6	38.1	瑤質細粒凝灰岩	" "

図面No	出土地点	層 名	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 地
37	IVC-3層 黒色	礫・閉層	5.8	6.1	1.3	41.9	硬質泥岩	# #
38	IVC-2層 褐色	#	8.5	12.8	2.4	169	珪質細粒凝灰岩	# #
39	II C-4層 褐色	石状	6.1	8.8	3.2	155	硬質泥岩	# #
40	III C-2層 褐色	へう状石層	6.5	2.7	1.3	21.2	珪質細粒凝灰岩	# #
41	IVE-4層 褐色	#	7.6	3.0	1.5	34.8	#	# #
42	IVH-2層 褐色	#	7.0	3.2	1.4	34.8	珪質泥岩	# #
43	III C-2層 褐色	#	6.1	2.5	1.0	16.8	珪質細粒凝灰岩	# #
44	IVH-2層 褐色	#	5.6	2.6	1.5	(27.4)	硬質泥岩	# #
45	II B-2層 褐色土	#	7.1	3.7	2.1	64.0	珪質細粒凝灰岩	# #
46	IVG-水田客土下面	#	8.5	3.2	1.7	55.0	#	# #
47	III N-黄土	#	6.8	4.0	1.5	40.2	#	# #
48	IVH-2層 褐色	#	5.1	3.0	1.1	(18.3)	硬質泥岩	# #
49	IVB-2層 褐色土	#	7.1	4.1	2.0	42.1	輝石凝灰岩	# #
50	—	—	—	—	—	—	—	—
51	III B-4層 褐色	石片	4.0	4.8	1.7	35.4	粘板岩	夏油川 古生界
52	III C-3層 黒色	#	4.0	4.4	1.6	21.1	#	# #
53	III C-2層 褐色	#	12.6	4.9	3.0	(295)	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
54	III F-3層 黒土下層	#	11.6	5.2	2.9	(310)	#	# #
55	IVG-水田客土下面	#	14.1	5.1	2.3	225	粘板岩	夏油川 古生界
56	III B-4層 褐色	#	14.7	6.1	3.4	395	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
57	III E-4層 褐色下部	#	14.3	5.8	2.6	(210)	泥板岩	# #
58	III B-4層 褐色	#	15.5	9.7	1.8	250	粘板岩	夏油川 古生界
59	II B-2層 褐色	#	19.3	9.4	3.5	572	輝石安山岩	# 新第三系中新統
60	IVC-3層 黒色	礫石	4.5	3.8	0.9	16.5	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 #
61	III C-2層 褐色	#	11.7	4.3	1.7	121	粘板岩	夏油川 古生界
62	III B-4層 褐色	#	10.8	6.7	2.8	290	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
63	IVC-3層 黒色	#	15.3	6.0	3.4	365	淡緑色凝灰角礫岩	# #
64	IVC-3層 黒色	閉石	11.0	6.6	3.8	420	輝石安山岩	夏油川 #
65	III E 黒土下層	#	8.3	5.2	2.6	170	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 #
66	II E-4層 褐色	#	8.8	7.0	5.0	(281)	グレイサイト	鈴川-夏油川 #
67	III N-黄土	#	13.7	5.5	3.6	(320)	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 #
68	III B-4層 褐色	#	15.8	5.3	3.8	432	淡緑色細粒凝灰岩	# #
69	II B-2層 褐色	#	17.0	6.7	3.3	555	淡緑色凝灰角礫岩	# #
70	III B-2層 褐色	#	12.1	7.8	4.4	540	#	# #
71	III H-4層 褐色	閉石	12.9	4.8	3.0	24.5	輝石安山岩	夏油川 #
72	II E-4層 褐色	#	9.8	6.7	2.5	220	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 #
73	IVO-2層 褐色	#	13.9	5.4	3.0	34.5	#	# #

図版No	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
74	II B-4層 褐色	磨石	8.9	3.8	1.8	(77.0)	#	#
75	IV F-3層 黒色下層	#	10.2	6.4	2.5	259	#	#
76	IV C-3層 黒色	#	4.7	3.6	2.6	60.0	輝石安山岩	夏油川 新第三系中新統
77	III G-4層 褐色	#	10.4	6.6	3.7	339	デイサイト	鈴鴨川-夏油川 #
78	II G-4層 褐色	#	10.2	7.7	5.4	509	輝石安山岩	夏油川 #
79	III E-3層 黒土下層	#	16.0	7.1	4.7	721	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
80	III G-4層 褐色	#	10.6	7.3	4.0	440	デイサイト	鈴鴨川-夏油川 #
81	II F-4層 褐色	#	13.5	9.3	7.4	1,372	輝石安山岩	夏油川 #
82	III E-4層 褐色土	#	15.6	11.7	5.7	1,380	#	#
83	II G-4層 褐色	#	12.3	7.0	4.2	(320)	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 #
84	IV F-3層 黒土下層	#	15.8	6.0	4.5	560	淡緑色凝灰角礫岩	#
85	II A-4層 褐色	#	13.7	8.1	4.2	490	輝石安山岩	夏油川 #
86	IV C-3層 黒色土	#	12.8	8.5	6.5	740	#	#
87	III B-4層 褐色	#	14.0	8.5	5.9	80.0	片麻岩	和賀仙人 古生界
88	II F-4層 褐色	#	9.0	4.8	4.2	(230)	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 新第三系中新統
89	III B-4層 褐色土	#	15.1	9.3	5.0	959	花崗閃緑岩	和賀仙人-夏油川 中生界
90	IV G-1層 表土	#	18.0	8.4	5.8	1,298	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 新第三系中新統
91	IV C-3層 黒色上部	#	5.5	3.7	1.5	40.0	淡緑色細粒凝灰岩	#
92	IV C-3層 黒色	#	6.4	4.5	2.0	80.0	#	#
93	IV C-3層 黒色	#	6.5	3.1	1.5	67.0	#	#
94	IV C-3層 黒色	#	7.0	4.6	1.4	65.0	#	#
95	III G-4層 褐色	#	6.3	4.8	2.2	100	輝石安山岩	夏油川 #
96	IV E-3層 黒土下層	#	6.2	4.1	1.0	33.7	#	#
97	III C-3層 黒色	#	6.7	5.0	4.0	99.0	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 #
98	IV C-3層 黒色	#	7.2	6.9	5.7	439	#	#
99	IV F-3層 黒土下層	#	10.1	5.1	4.6	(300)	輝石安山岩	夏油川 #
100	II B-2層 褐色	#	10.2	8.0	2.2	231	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 #
101	II F-4層 褐色	#	12.2	8.1	5.1	800	輝石安山岩	夏油川 #
102	IV G-4層 擾乱	#	5.6	7.2	2.8	(136)	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 #
103	II F-4層 褐色	#	12.0	8.3	6.6	970	輝石安山岩	夏油川 #
104	II F-4層 褐色	#	13.0	10.7	5.7	1,165	#	#
105	III C-4層 褐色	#	13.8	9.2	3.3	580	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 新第三系中新統
106	II A-4層 褐色土	加工機	13.4	11.4	4.3	971	輝石安山岩	夏油川 #
107	III N-表土	#	16.4	14.1	3.9	980	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 #
108	IV D-3層 黒色下層	石楯?	16.7	11.6	7.4	2,180	#	#
109	II B-4層 褐色	石楯?	7.8	8.5	3.7	(320)	輝石安山岩	夏油川 #
110	III B-4層 褐色	#	10.7	6.5	2.4	(170)	デイサイト	鈴鴨川-夏油川 #

図版№	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
111	ⅢB-4層 褐色	台石?	13.8	18.0	6.1	2,120	輝石安山岩	夏油川 #
112	ⅣG-2号フラスコビット跡	#	18.6	20.2	5.7	2,740	#	# #
113	ⅣE-3層 黒色下層	#	29.9	23.6	6.5	6,140	#	# #
114	ⅡC-黄土	#	34.4	28.2	7.6	9,990	花崗閃緑岩	和賀仙人-夏油川 中生界

## VI. 考察とまとめ

### 1. 住居跡

本遺跡で竪穴住居跡としたものは18棟であるが、柱穴群遺構とした中でも数棟の住居跡が含まれる可能性が高いので、最終的には20数棟を検出したことになる。地形的に見ると西側が高く、東側に向かうにしたがって低くなり段丘崖に連なる。縄文時代中期の集落立地を考えると調査区の南側にはまだ相当数の竪穴住居跡を含む遺構が存在しているものと思われる。検出された20数棟の住居跡のうち、確実にプラン、炉の位置と構造などが判明しているのは数棟にしかすぎない。特に、柱穴のみの検出で住居としたものは推定規模では重複が考えられるが、プランは全く不明で、新旧関係も一切把握できない状況にある。したがって、住居跡間の相互の関連性、同時期に存在した数の算定も困難である。壁が残っておりプランの確実な例をみると隅丸方形、隅丸長方形と楕円形のプランに分類できそうである。この三者が同時存在していたか、別々であったか、床面出土の土器を比較すると楕円形プランのそれは、頸部無文、キャリパー型が多いなどの同一性のある傾向を示すが、前二者のプランにはバラつきがありそうである。

傾向として西側に隅丸長方形の住居跡が分布するように見受けられるが、これは中央部のG、H区の住居を楕円形に推定復原していることにもよる。ただ、この区域には当遺跡最大の住居跡ⅢG-1号住があり、プランは楕円形である。両側にある2棟ⅢG-2、3号住も楕円形状であり、遺物を比較しても新旧の区別は見出し難く、一つのまとまりを示している。いずれ、当遺跡は大木8b式期に営まれた大規模な集落であり、かつ住居跡間に重複が見られることから、時間的には数10年の幅が認められよう。それが西側から東側へ、あるいはその逆に東側から西側に移動したのか、またはⅡ-D、E、F区、Ⅲ-D、E、F区に住居跡の存在しないことから(削平されている可能性もあるが)、この空間を囲み馬蹄形に住居が巡っており、そのなかで変遷があったか。以上の可能性が考えられるが、プラン不明、遺物皆無の住居が大半を占めるので、推定で留め置くしかない。

### 2. フラスコピット

検出された地点は西側段丘縁のA、B区と、G区の住居跡群の中の二箇所で、それぞれ規模形態は異なっている。前者はC、Dの住居跡群に、後者はG、H区の住居跡群にそれぞれ伴うものであろうが、ⅣG-3号が住居跡を載ってつくられておりG、H区のいくつかの住居跡よりは新しく位置づけられる。前者のフラスコピットは埋土中に遺物は少ないが、底面に意識的

に安置したと思われる土器と装飾品が出土している(ⅡA-2、ⅢB-2)。2基とも埋土は自然堆積の状況を示しており、墓とは考えづらい。廃棄に伴うなんらかの遺物と考えておきたい。後者は、前者よりは規模が小さいが、埋土中に多量の遺物を含むのが特徴である。廃棄後は明らかに遺物の捨て場として再利用している。

### 3. 陥 穴

42基検出されたが、形態から6つに分類した。このうち3つのタイプは配置にまとまりをもっている。イのタイプはD、E区にかけて4基が並び、ウのタイプはC、D区のほぼ南北に並ぶ。エのタイプはⅡE区に狭い間隔で配置されている。オのタイプはL区にほぼ南北に等間隔で位置する。それぞれのタイプが時期差を示しているのかあるいは同時期で獲物の対象が異なっているのかは不明である。所属する時期については遺物が少なく断定はできないが、土器が検出できた3基はすべて大木8b式であり、多くの陥穴はこれと同時期あるいはそれ以前ということが可能である。

### まとめ

林崎館遺跡の名称は隣接する中世の林崎館跡にちなんでいる。館跡は本遺跡の北側に位置しており、空堀を巡らす大規模な中世城館である。今回の調査ではこれら城館に係りのある遺構遺物は一切検出されなかった。調査区域は幅20数m、長さ約300mで、検出された遺構、遺物とも縄文時代中期に属するものが殆どで、遺跡の性格は集落跡と言える。住居跡はまだ南側に拡がっている可能性が高く、相当の規模の集落であったと想像される。出土した土器は殆どが大木8b式であるが、その特徴の示すところは同じ8b式の中でも大木9式に近い諸要素は少なく、中頃あるいはそれよりやや古い時期に属する様相を示している。

林崎館遺跡の東側には谷をへだてて煤孫遺跡が、西側には同じく谷をへだてて本郷遺跡が、その西側には石曾根遺跡がある。煤孫遺跡は大木6式土器を伴う大規模な集落で(註1)、本郷遺跡は大木7a、7b、8a式期の集落であり(註2)、石曾根遺跡は同じく大木8a、8b式期の集落である(註3)。これらの遺跡は和賀川の段丘沿いに、開析された谷をはさんで隣接している。言葉を変えれば、ある限定された地域に長い期間(大木6式から8b式の間)少しづつ場所を移動して居住していたことを示している。

註1：当センター1990、1991年調査、1993年報告書刊行予定

2： 同 1989、1990年調査、1992年報告書刊行予定

3： 同 1990年調査 同



写 真 图 版

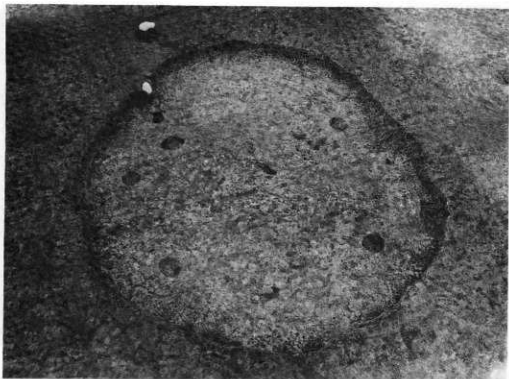


遺跡全景（北から）



遺跡全景（西から）

写真図版1 遺跡全景



全景 (北から)

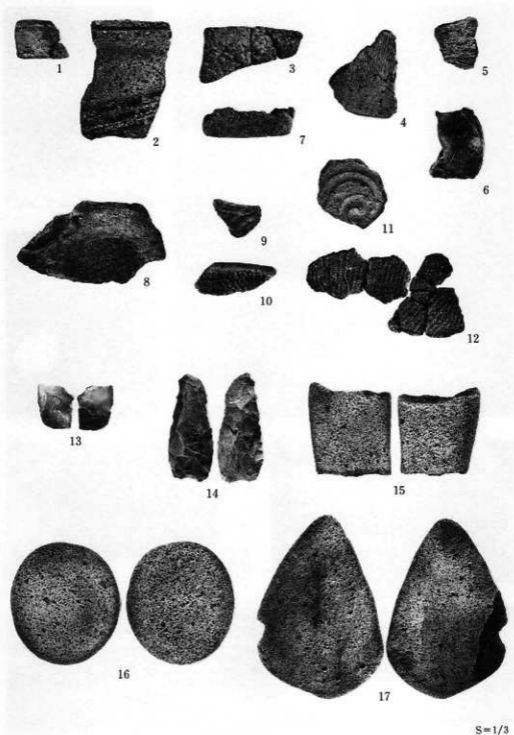


埋土土層断面 (A-B)

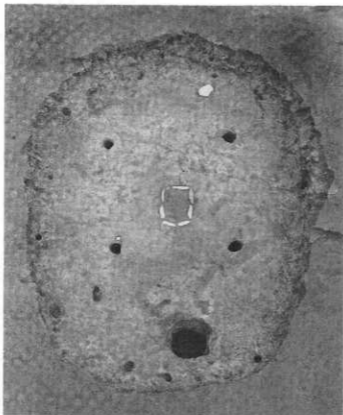


埋土土層断面 (C-D)

写真図版2 【B-1号住居跡



写真図版3 ■B-1号住居跡遺物



全景（南から）



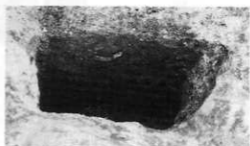
石圍炉平面



炉直上出土土器



石圍炉断面

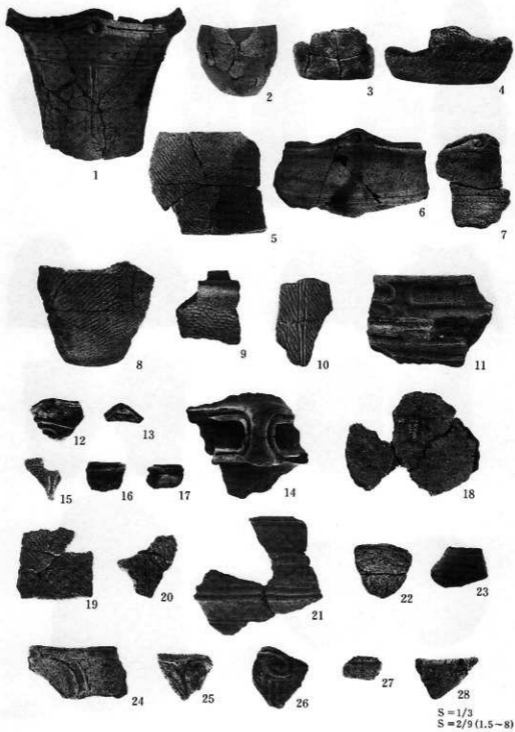


方形ピット断面



埋土土層断面（A-B）

写真図版4 III C-1号住居跡



写真図版5 ■C-1号住居跡遺物(1)



29



30



31



32



33



34



35

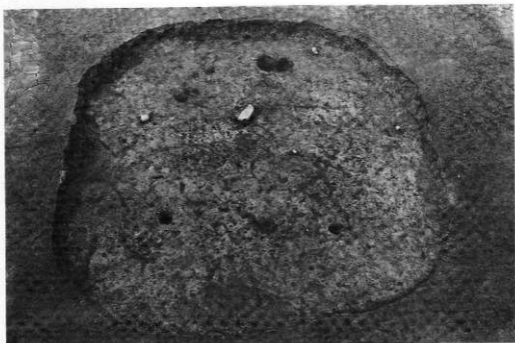


36

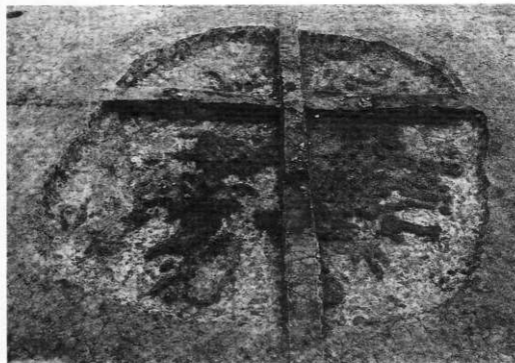


37 S=2/3  
S=2/9 (37)

写真図版6 III C-1号住居跡遺物(2)



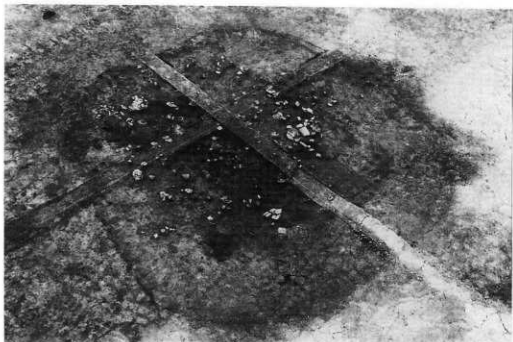
全景（西から）



炭化材出土状況（西から）

写真図版7 ■D-1号住居跡(1)





土器検出状況（北から）



埋土土層断面（A-B）

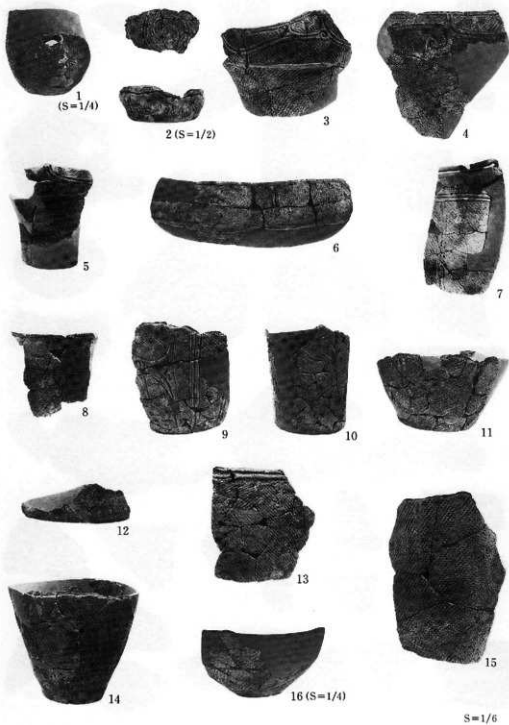


埋土下層土器検出状況

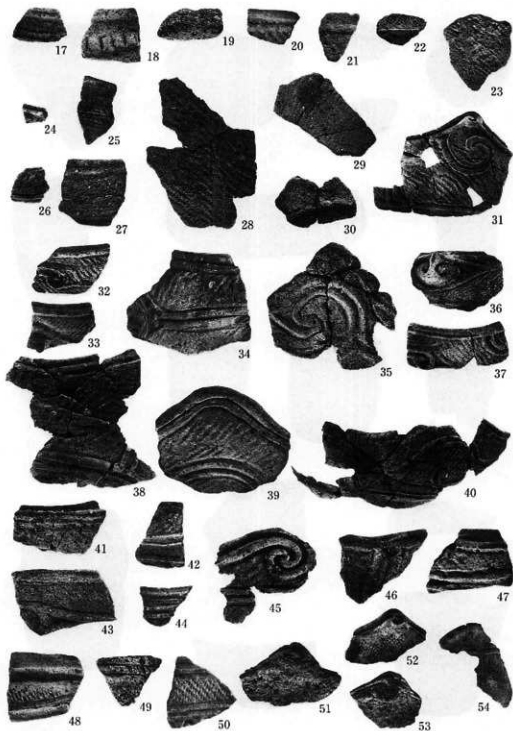


土偶（胴部）出土状況

写真図版8 III D-1号住居跡(2)

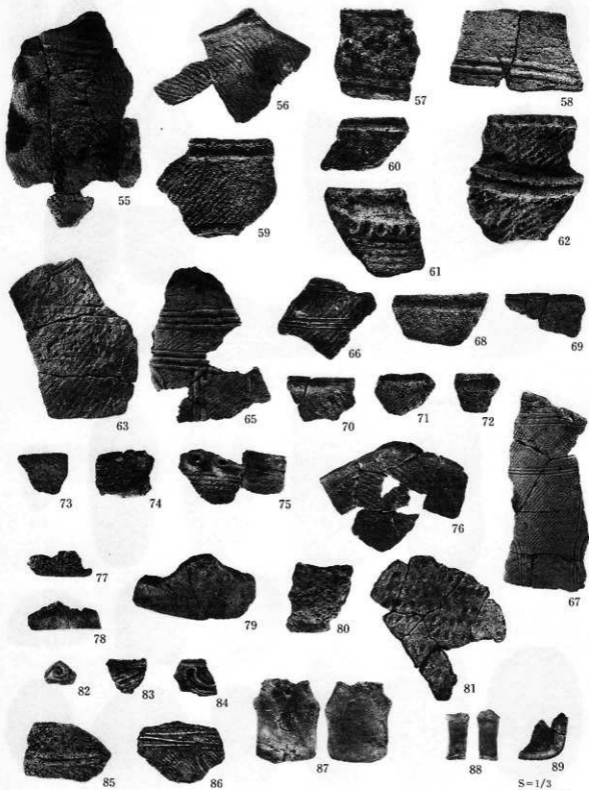


写真図版9 III D-1号住居跡遺物(1)



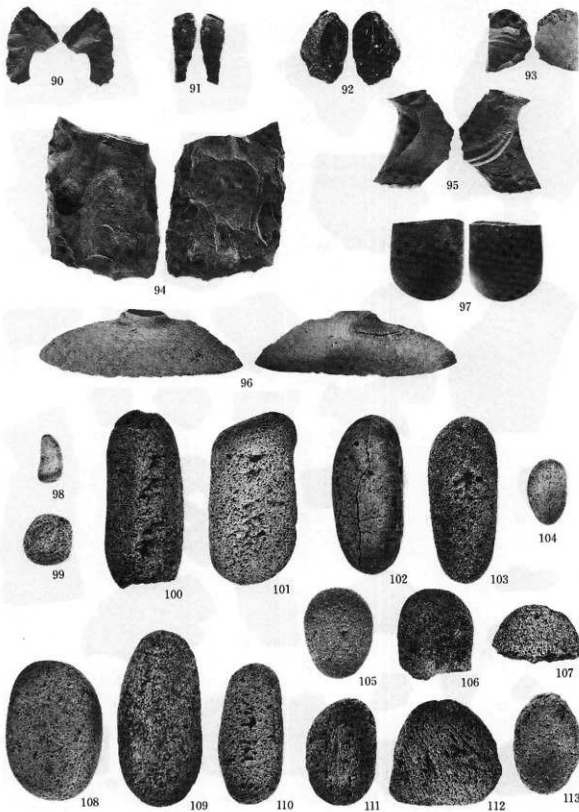
S=1/3

写真図版10 ■D-1号住居跡遺物(2)



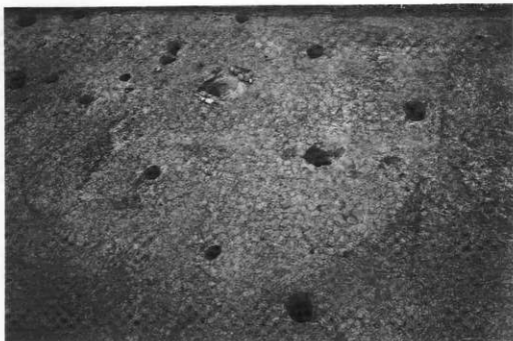
S=1/3  
S=1/5(65)  
S=1/6(67)

写真図版11 III D-1号住居跡遺物(3)

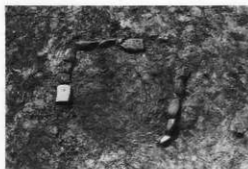


写真図版12 ■D-1号住居跡遺物(4)

S=2/3 (90-96)  
S=1/3 (98-113)



全 景 (北から)



石 圓 炉 平 面



埋 設 土 器 (南から)

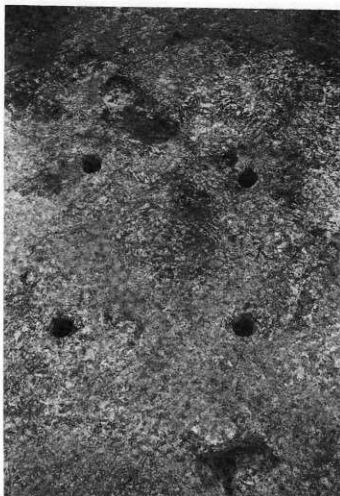


石 圓 炉 断 面



石 圓 炉 土 器 除 去 後 (東から)

写真図版13 IV D-1号住居跡



全景 (東から)



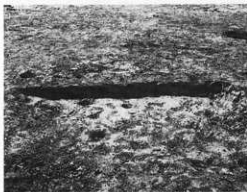
住居内1号土坑断面



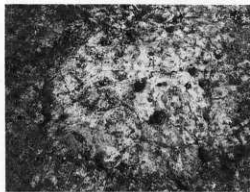
P<sub>1</sub>断面



P<sub>2</sub>断面

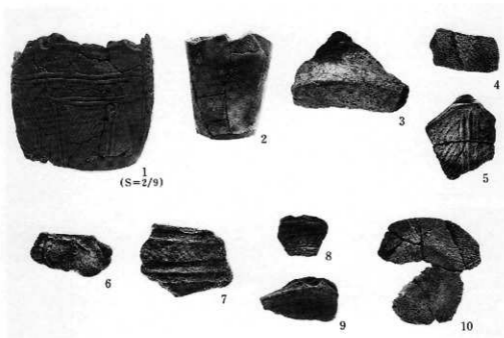


炉断面



炉・焼土除去後

写真図版14 ND-2号住居跡



IV D-1号住居跡

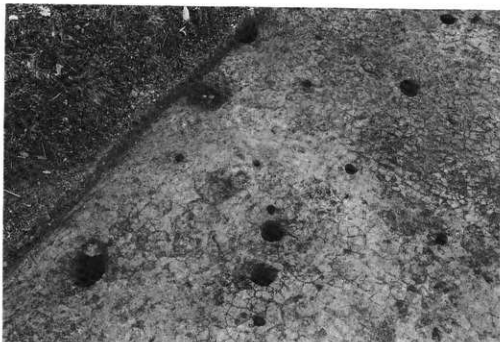


IV D-2号住居跡

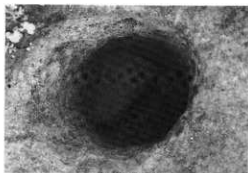
S=1/3

写真図版15 ND-1号・2号住居跡遺物

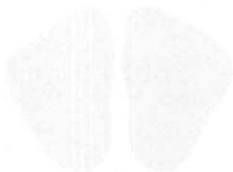


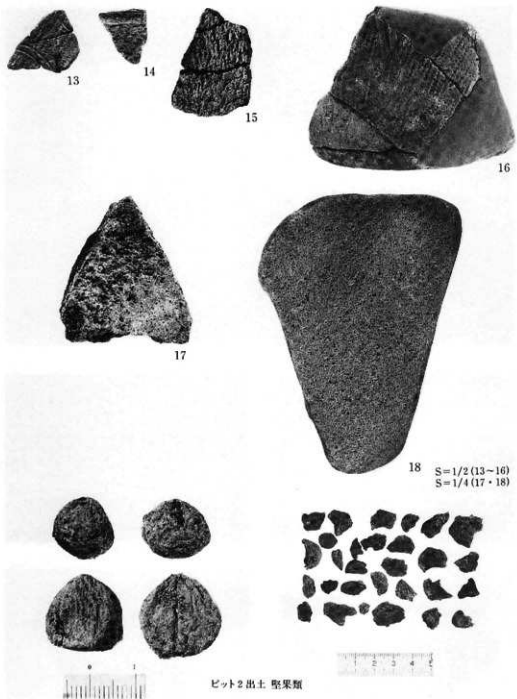


全 景 (東から)



中央ピット底部





写真図版17 IV E-1号住居跡遺物



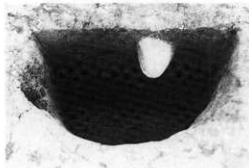
全景 (南から)



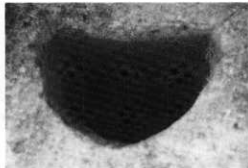
埋設土器



焼土断面

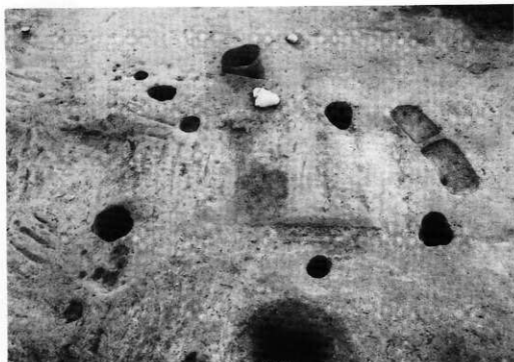


P<sub>3</sub>断面

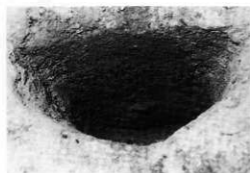
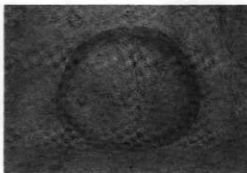


P<sub>4</sub>断面

写真図版18 IV E-2号住居跡

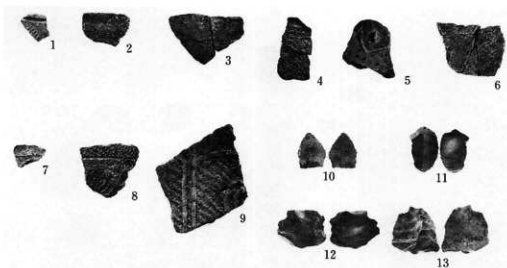


全景（北から）

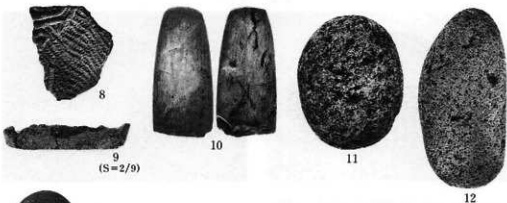


左上 カ断面  
 右上 炉焼土除去後  
 左 P<sub>1</sub>断面

写真図版19 IVF-1号住居跡



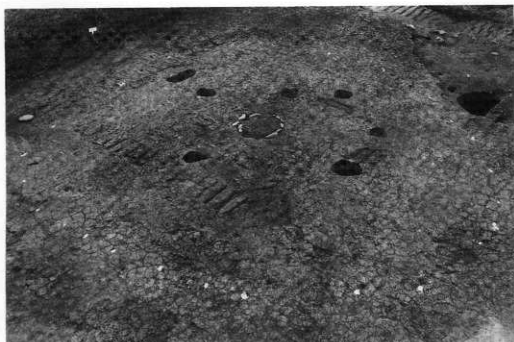
IVF-1号住居跡(1-13)



IVE-2号住居跡(1-16)

S=1/2

写真図版20 IVE-2号・IVF-1号住居跡遺物



全景 (北東から)



石囲が平面



石囲が断面

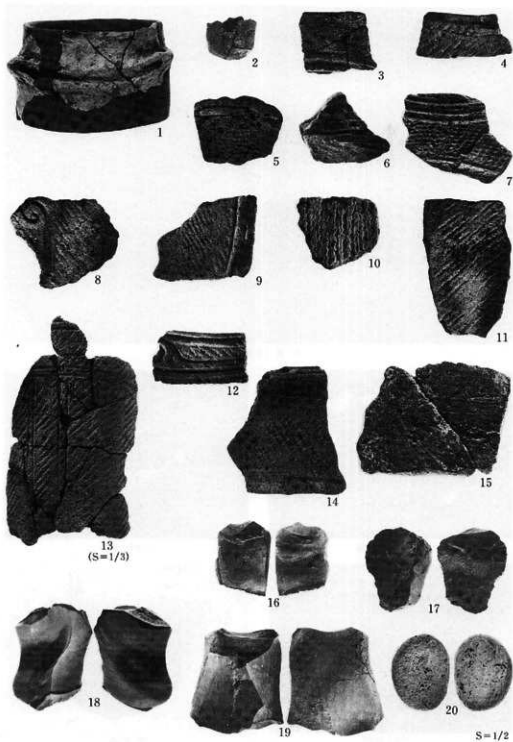


ピット断面



P<sub>1</sub>断面

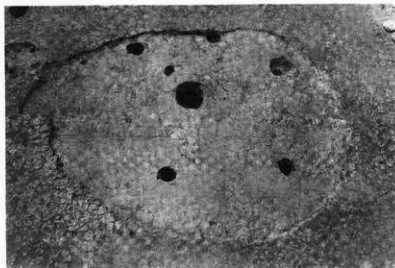
写真図版21 ■G-1号住居跡



写真図版22 ■G-1号住居跡遺物



検出状況（北から）



全景（北から）



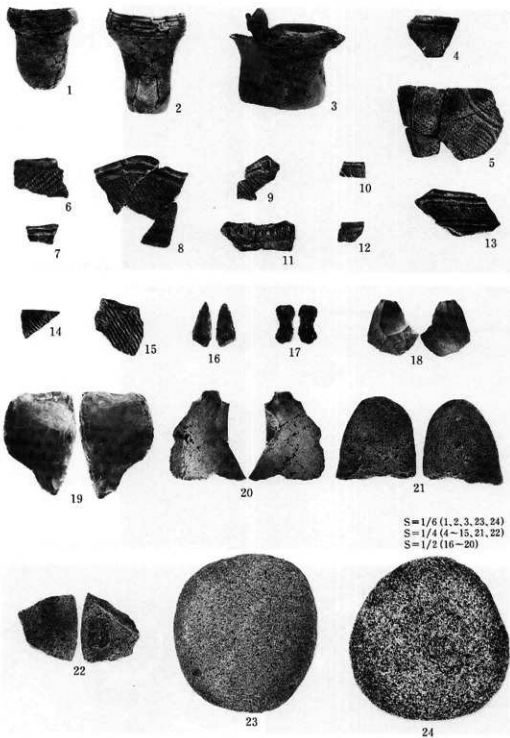
床直中央部一括土器



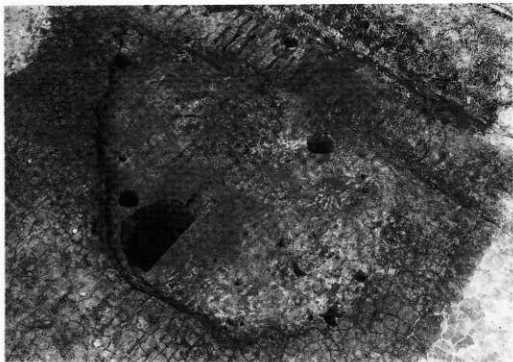
床直土器

写真図版23 III G-2号住居跡





写真図版24 II G-2号住居跡遺物



全景（東から）



埋土土層断面（A-B）

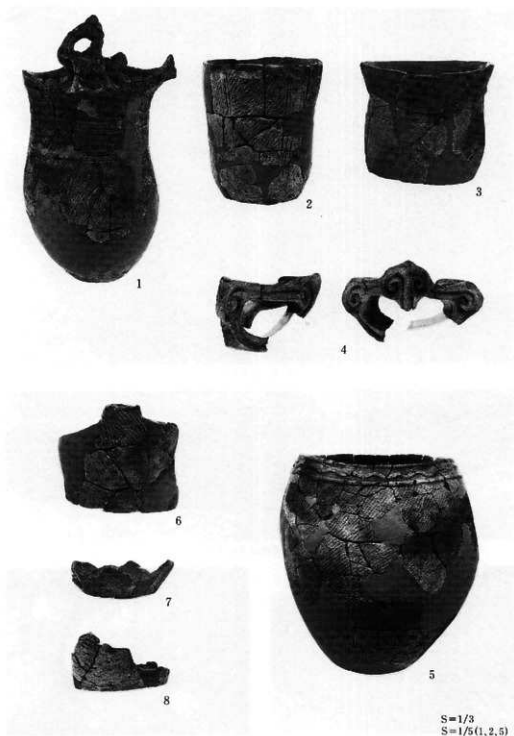


土器検出状況

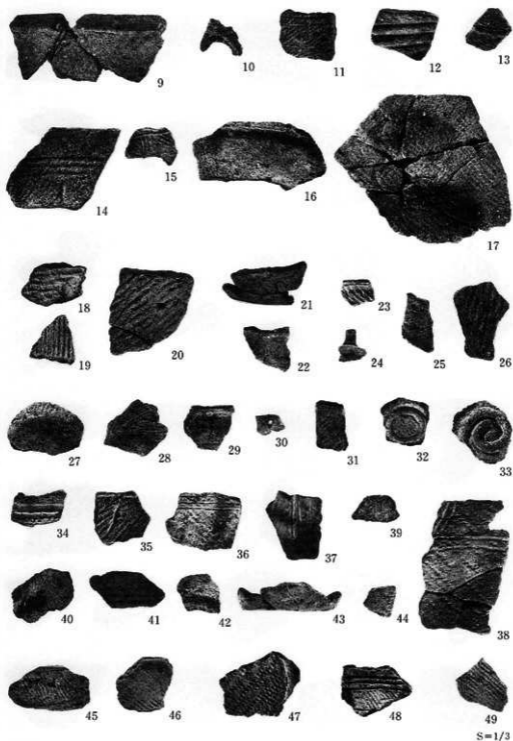


35図・1の出土状況

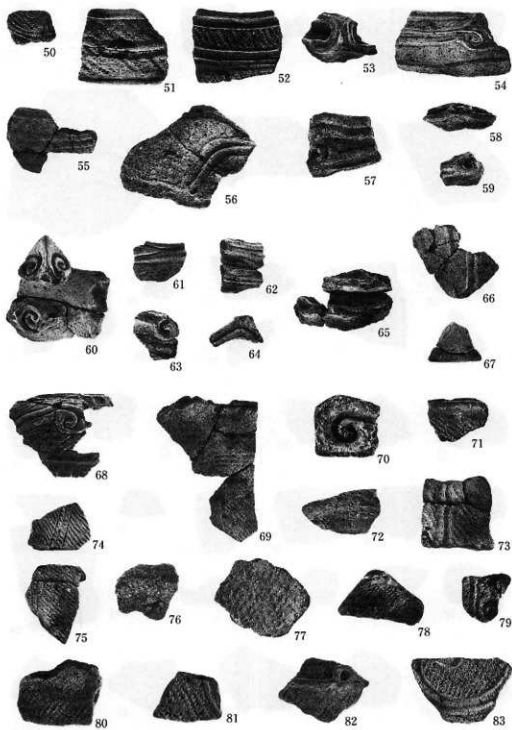
写真図版25 III G-3号住居跡



写真図版26 ■G-3号住居跡遺物(1)

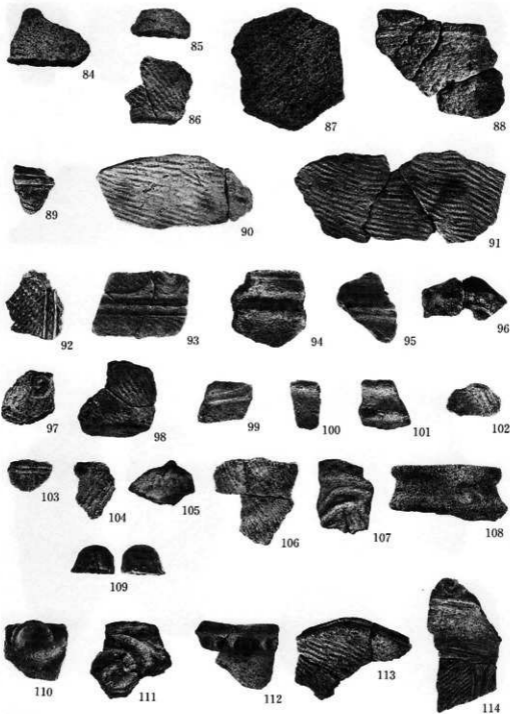


写真図版27 II G-3号住居跡遺物(2)



S=1/3

写真図版28 III G-3号住居跡遺物(3)



S=1/3

写真图版29 II G-3号住居跡遺物(4)



115



116



117



118



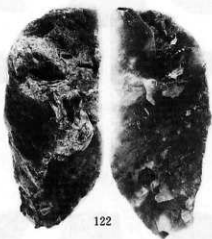
120



119



121

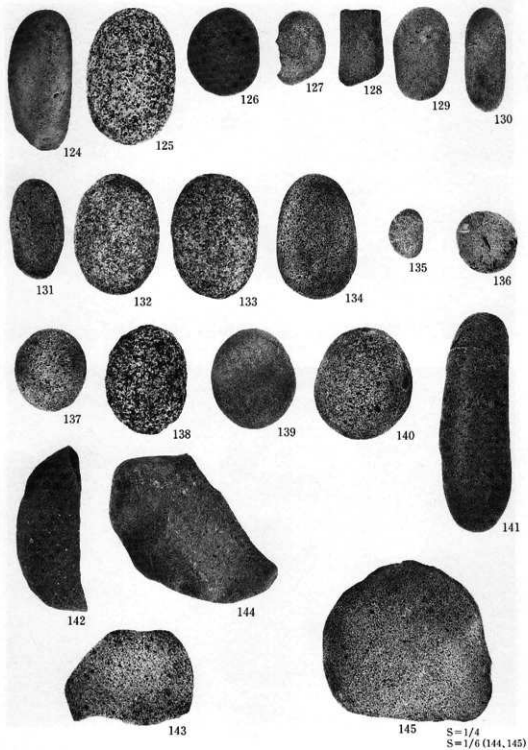


122



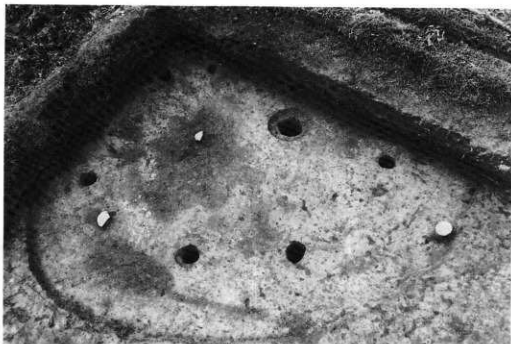
123

S=2/3

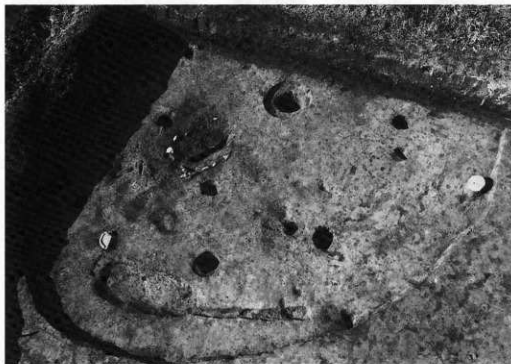


写真図版31 ■G-3号住居跡遺物(6)





検出状況（東から）



全景（東から）

写真図版32 NG-1号住居跡(1)



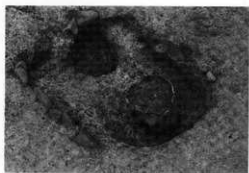
埋土土層断面 (A-B)



石圍炉平面



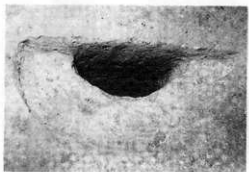
石圍炉断面



埋設土器



石圍炉 炉石除去後

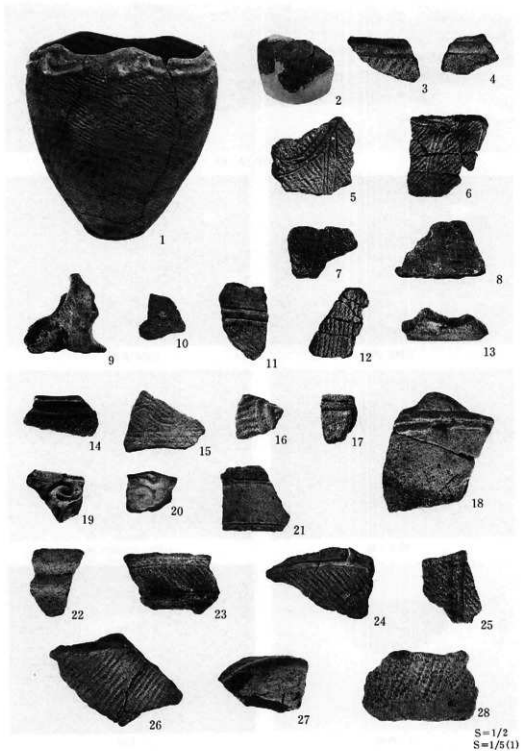


P<sub>2</sub> 断面

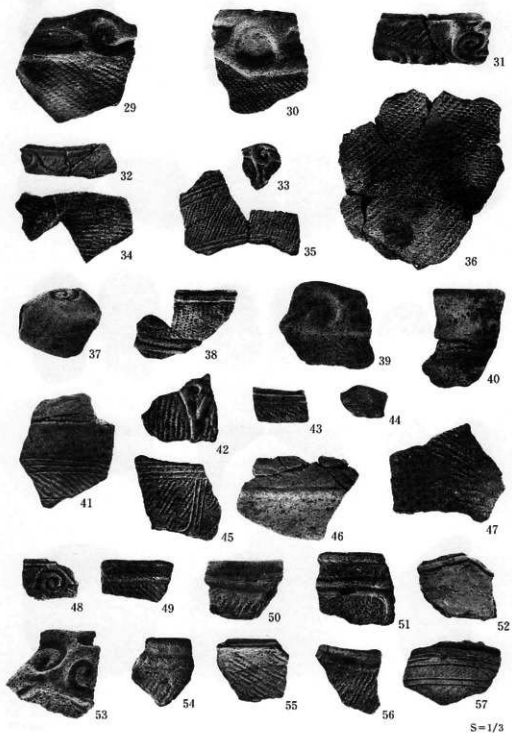


石圍

写真図版33 NG-1号住居跡(2)



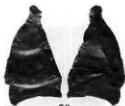
写真図版34 IVG-1号住居跡遺物(1)



写真図版35 NG-1号住居跡遺物(2)



58



59



60



61



62



63



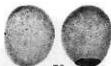
64



68



69



70



71



72



65



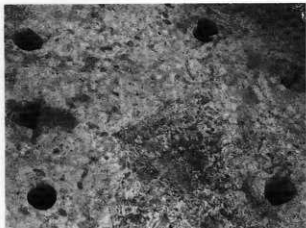
66



67

S = 1/2 (58-64)  
S = 1/6 (65-67)  
S = 1/4 (68-72)

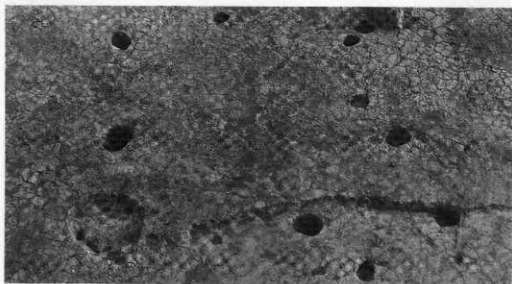
写真図版36 NG-1号住居跡遺物(3)



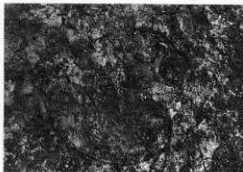
IVG-2号住居跡全景（北から）



炉断面



IIIH-1号住居跡全景（北から）

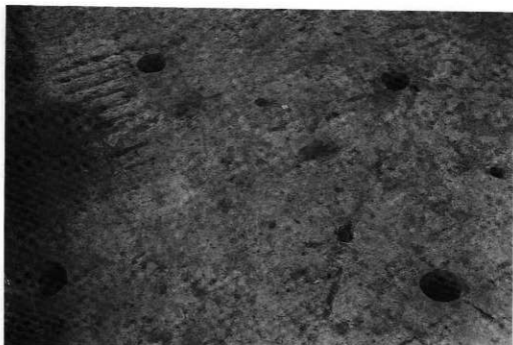


炉平面

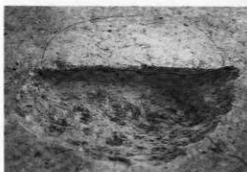


炉断面

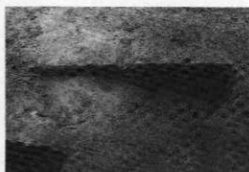
写真図版37 IVG-2号・IIIH-1号住居跡



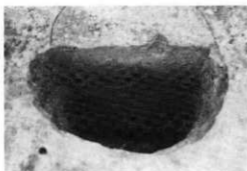
全景 (南から)



炉<sub>1</sub> 断面



炉<sub>2</sub> 断面



P<sub>1</sub> 断面



P<sub>2</sub> 断面

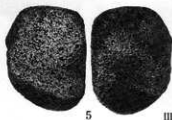
写真図版38 IVH-1号住居跡



IVG-2号住居跡



IVH-1号住居跡



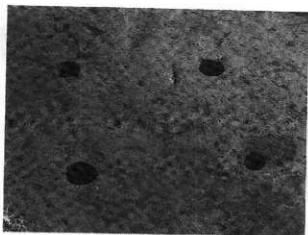
IIIH-1号住居跡



S=1/3

写真図版39 IVG-2号・IIIH-1号・IVH-1号住居跡遺物

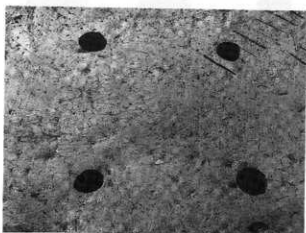




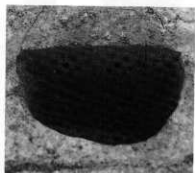
IVH-2号住居跡 全景（北から）



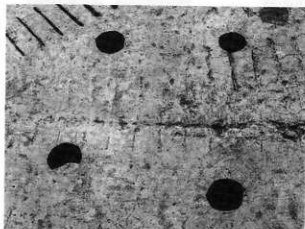
P<sub>1</sub>断面



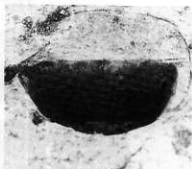
IVI-1号住居跡 全景（北から）



P<sub>1</sub>断面



IVI-2号住居跡 全景（北から）

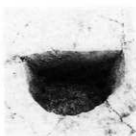


P<sub>1</sub>断面

写真図版40 NH-2号・VI-1号・VI-2号住居跡



全景 (東から)



P17 断面



P31 断面

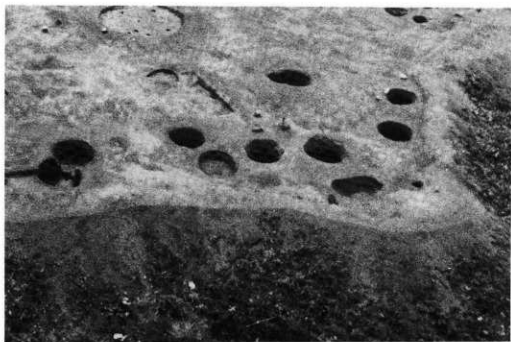


1



2

S=1/2

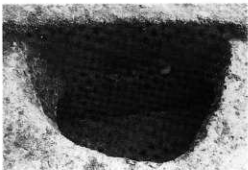
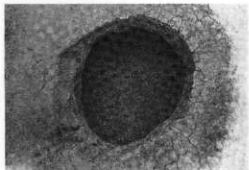


フラスコビット群配列状況 (西から)

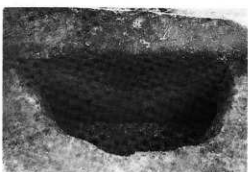
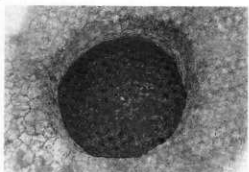


フラスコビット群配列状況 (北から)

写真図版42 フラスコビット(1)

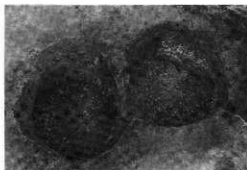


左上 II A-1号フラスコビット平面  
右上 同断面  
左 同埋土中の土器・骨



左上 II A-2号フラスコビット平面  
右上 同断面  
左 同底面土器

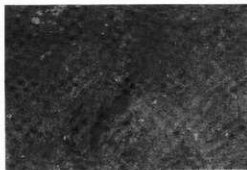
写真図版43 フラスコビット(2)



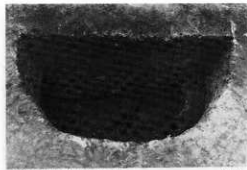
II A-3号(右) II B-1号(左)フラスコピット 平面



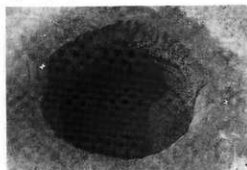
II A-3号フラスコピット 断面



II B-1号フラスコピット 床面の炭化材



II B-1号フラスコピット 断面



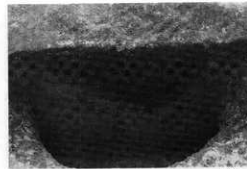
III A-1号フラスコピット 平面



断面

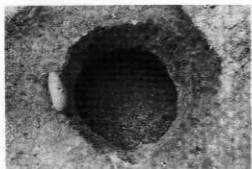


III A-2号フラスコピット 平面



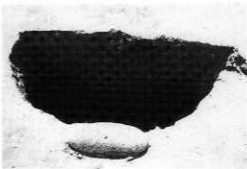
断面

写真図版44 フラスコピット(3)

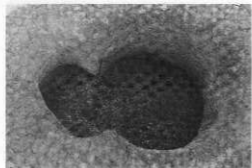


ⅢB-1号フラスコピット

平面

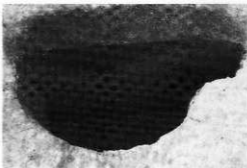


断面

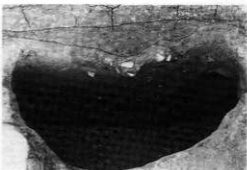
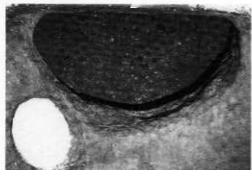


ⅢB-2号フラスコピット(右) 同隣穴(左)

平面



断面



左上 IVG-1号フラスコピット 平面

右上 同断面

左 同埋土中層土器

写真図版45 フラスコピット(4)

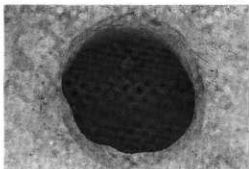


IVG-2号フラスコピット

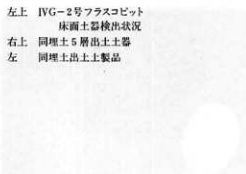
平面



断面



左上 IVG-2号フラスコピット  
床面土器検出状況  
右上 同埋土5層出土土器  
左 同埋土出土土製品



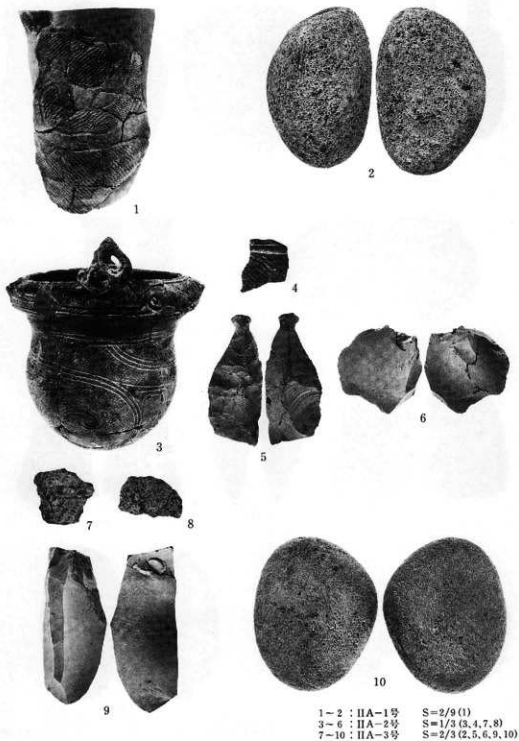
IVG-3号フラスコピット

平面



断面

写真図版46 フラスコピット(5)



写真図版47 フラスコピット遺物(1):II A-1・II A-2・II A-3号





11



12



13



14



15



16



18



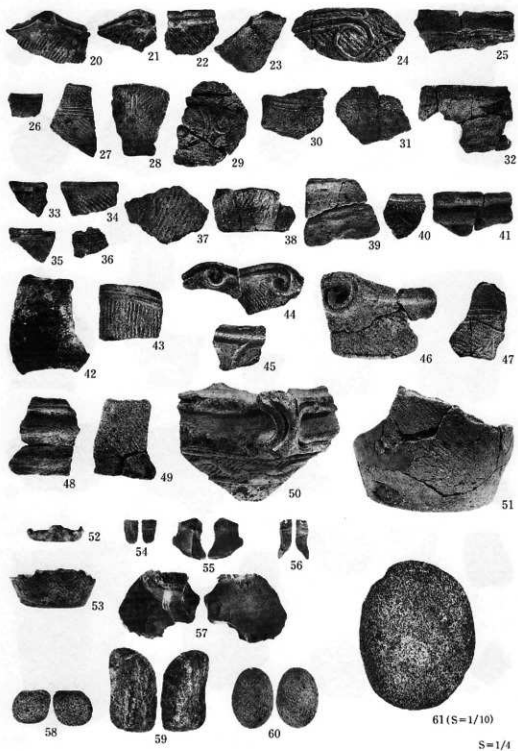
17



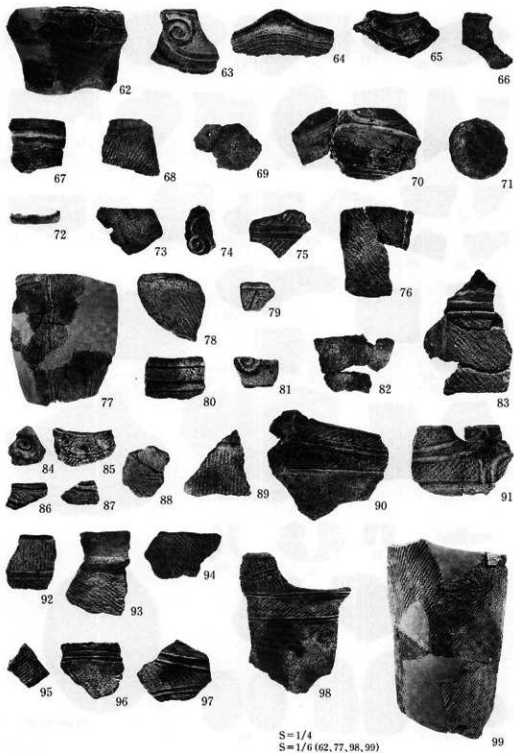
19

11-12 : III A-1, 13 : II B-1 S=2/3  
14-16 : III A-2, 17-19 : III B-2 S=1/3 (12, 13, 19)

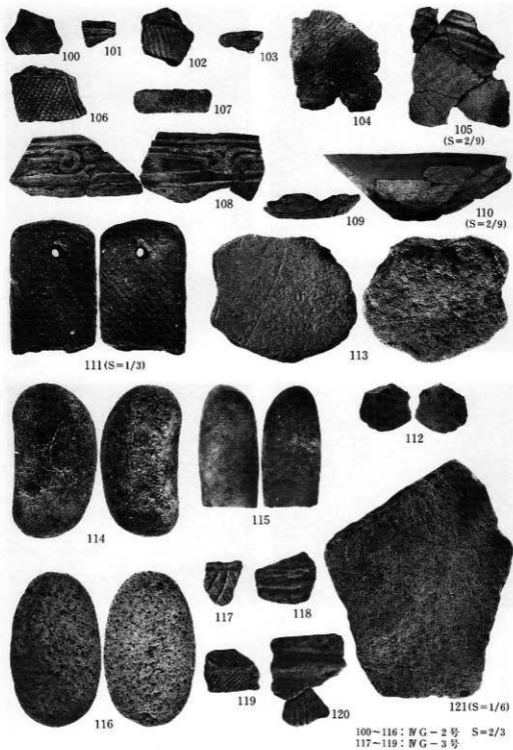
写真図版48 フラスコビット遺物(2): III A-1・III A-2・II B-1・III B-2号



写真図版49 フラスコビット遺物(3): IVG-1号



写真図版50 フラスコピット遺物(4): N/G-2号[1]



写真図版51 フラスコピット遺物(5): NG-2号[2]・NG-3号



IIA-1号土壤

平面



IIIA-1号土壤

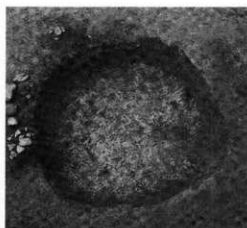
平面



断面



断面

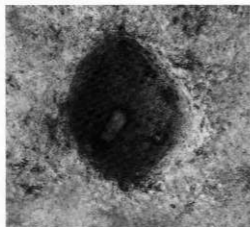


IIB-1号土壤

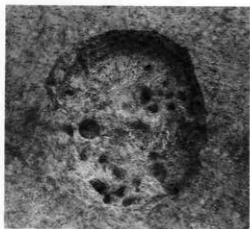
平面



断面



左上 III B-1号土壇平面  
 右上 III B-1号土壇 断面  
 左 III B-1号土壇  
 組石檢出状況

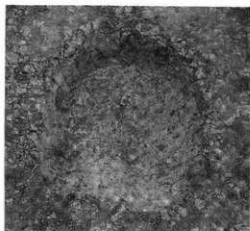


II C-1号土壇

平面



断面



II1-1号土壤

平面

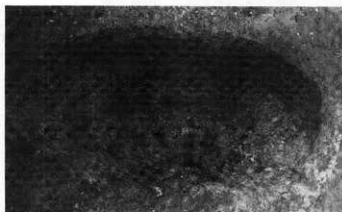


断面



IO-1号土壤

平面



IO-2号土壤

平面



IO-1号土壤

断面



IO-2号土壤

断面

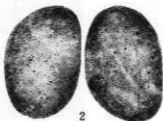


IIA-1号土壤(1-4)

IIIA-1号土壤(1-3)



1



2

IIIB-1号土壤(1-3)



3(S=1/3)



1  
(S=1/6)



2



4



5



3



6



7



8



9



10



12

II B-1号土壤(1~12)



13(S=1/6)

II C-1号土壤



11

S=1/4

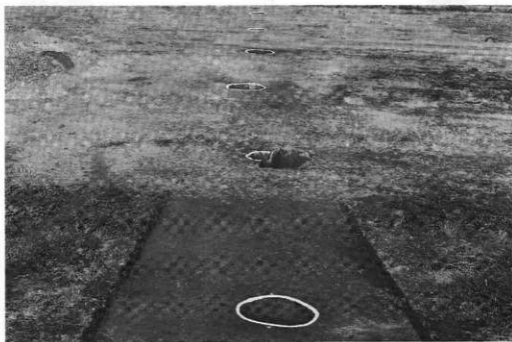




II E 陥穴群配列状況 (西から)

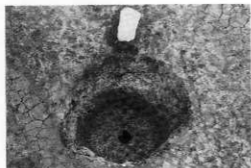


同左



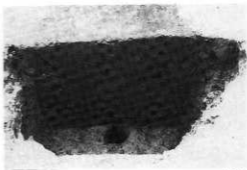
I L・II L・III L 陥穴群配列状況 (南から)

写真図版56 陥 穴(1)

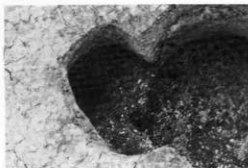


平面

III B-1号陷穴



断面

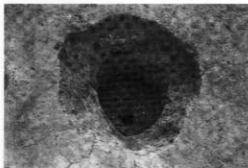


平面(左)

III B-2号陷穴

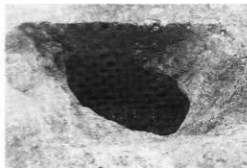


断面(右)

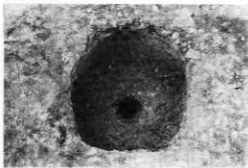


平面

III B-3号陷穴

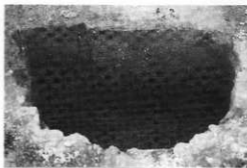


断面



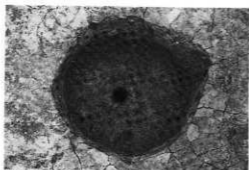
平面

III D-1号陷穴



断面

写真图版57 陷穴(2)

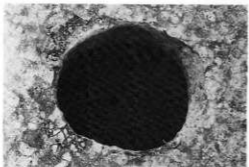


平面

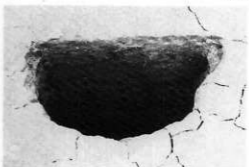


断面

II E-1号陷穴

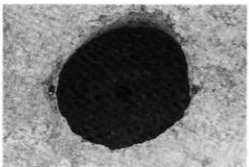


平面

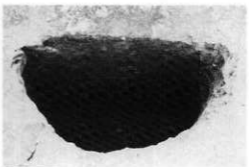


断面

II E-2号陷穴

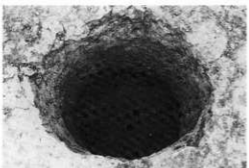


平面



断面

II E-3号陷穴



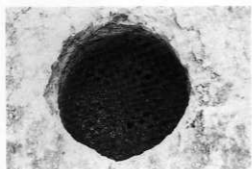
平面



断面

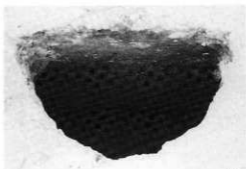
II E-5号陷穴

写真图版58 陷穴(3)

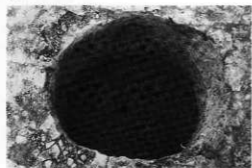


平面

II E-6号陷穴



断面

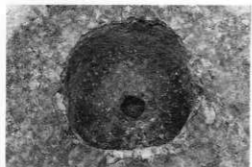


平面

II E-7号陷穴



断面



平面

III E-1号陷穴



断面



平面

IV E-1号陷穴



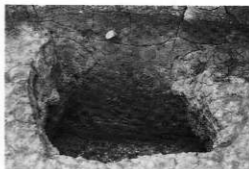
断面

写真图版59 陷穴(4)

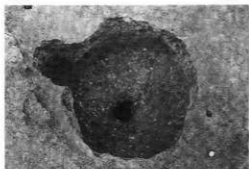


平面

III G-1号陷穴



断面

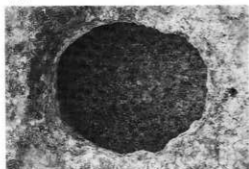


平面

III G-2号陷穴

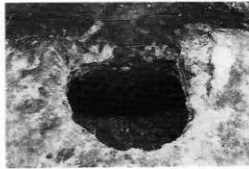


断面

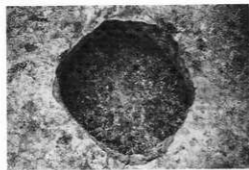


平面

II B-2号陷穴



断面



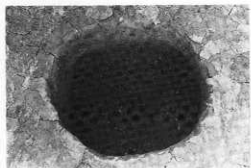
平面

II C-3号陷穴

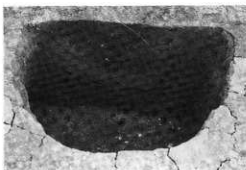


断面

写真图版60 陷穴(5)

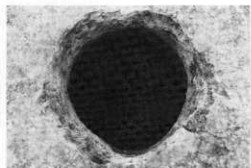


平面



断面

IID-3号陷穴

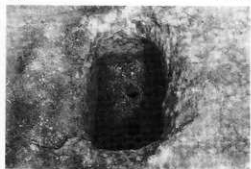


平面



断面

IIE-4号陷穴

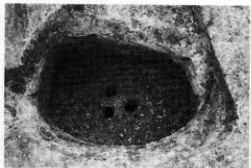


平面



断面

IIC-1号陷穴



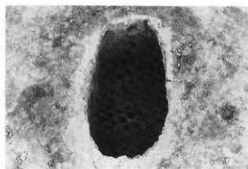
平面



断面

IIC-2号陷穴

写真图版61 陷穴(6)



平面



断面

III E-2号陷穴

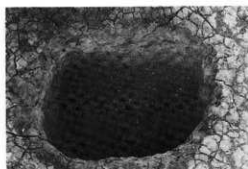


平面

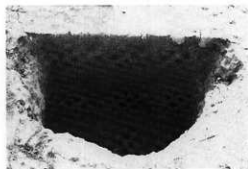


断面

III D-2号陷穴

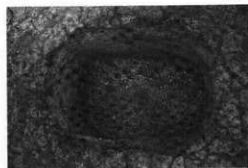


平面



断面

III D-3号陷穴



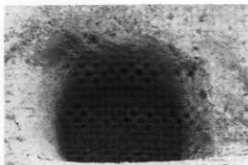
平面



断面

II L-4号陷穴

写真图版62 陷穴(7)

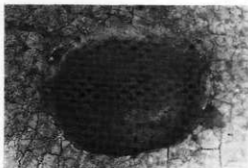


平面



断面

IVF-1号陷穴

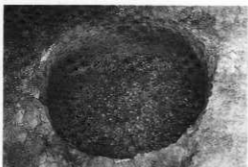


平面



断面

IID-1号陷穴

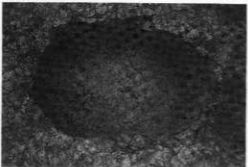


平面



断面

IID-2号陷穴



平面



断面

IIM-1号陷穴

写真图版63 陷穴(8)



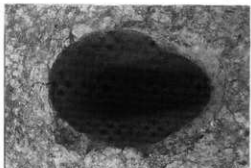


平面

IL-1号陷穴

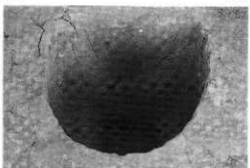


断面



平面

IL-2号陷穴



断面



平面

IIL-3号陷穴

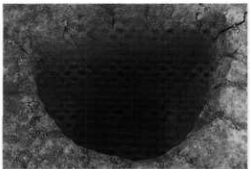


断面



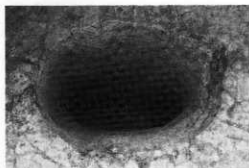
平面

IIL-1号陷穴



断面

写真图版64 陷穴(9)

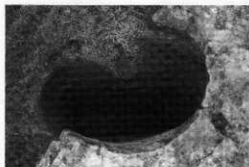


平面



断面

II L-2号陷穴

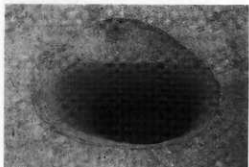


平面

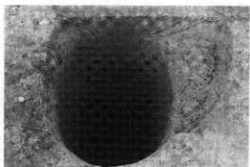


断面

III L-1号陷穴



平面



断面

III L-2号陷穴



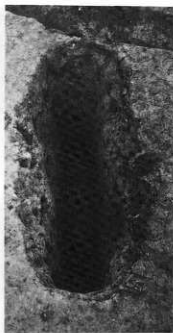
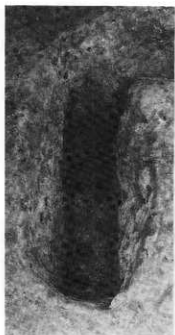
平面



断面

10-1号陷穴

写真図版65 陷穴(10)



左 II B-1号陷穴 平面

左下 同断面

右 III C-1号陷穴 平面

右下 同断面



平面

IV L-1号陷穴

断面

写真图版66 陷穴(1)



III M-1号陷穴 平面



I M-1号陷穴 平面



III L-3号陷穴 平面



断面

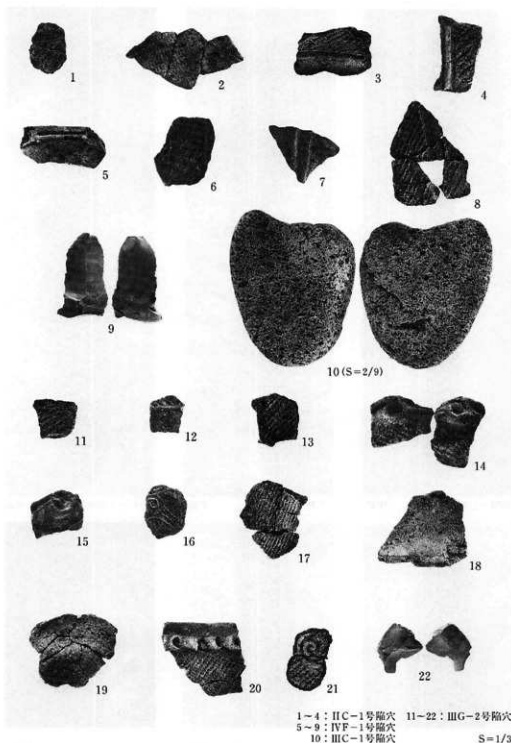


断面



断面

写真图版67 陷穴(1)



写真图版68 陷穴遗物



1



2



3

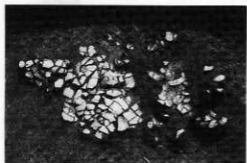


4



5

S=1/6



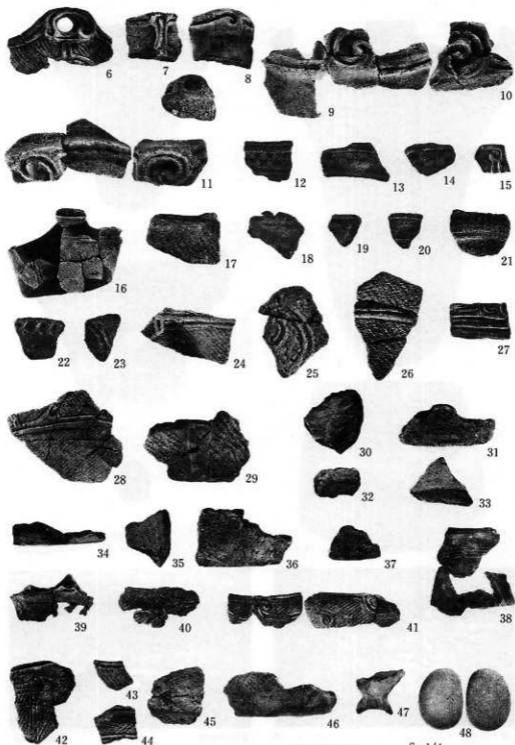
(東上から)



(東横から)

IVC-括土器：A群検出状況

写真図版69 IVC-括廃棄土器A群(1)



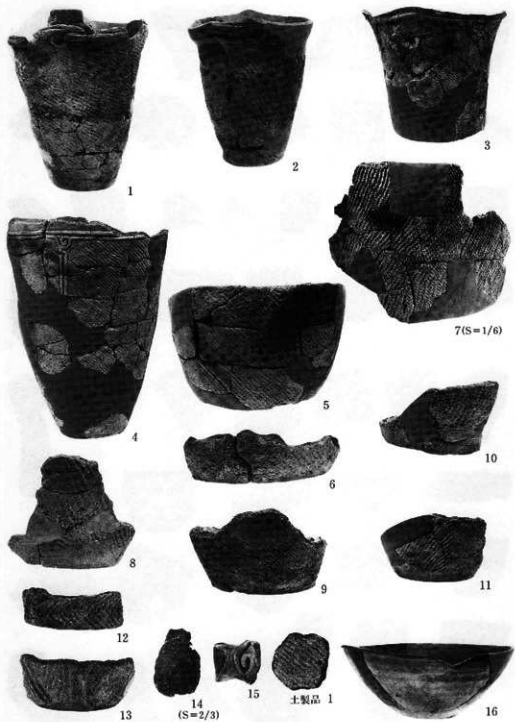
38-48: B群

S=1/4

S=1/6 (6, 10, 28, 38, 39)

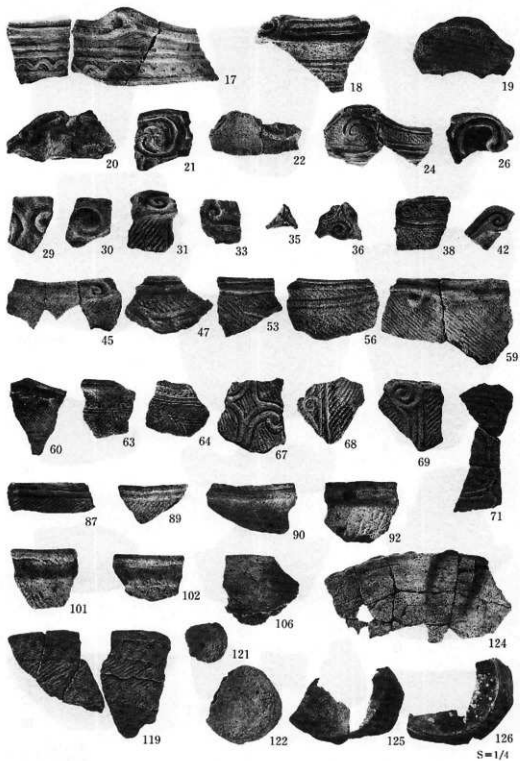
S=1/2 (47)

写真図版70 IV C-括鹿楽土器A群(2)・B群



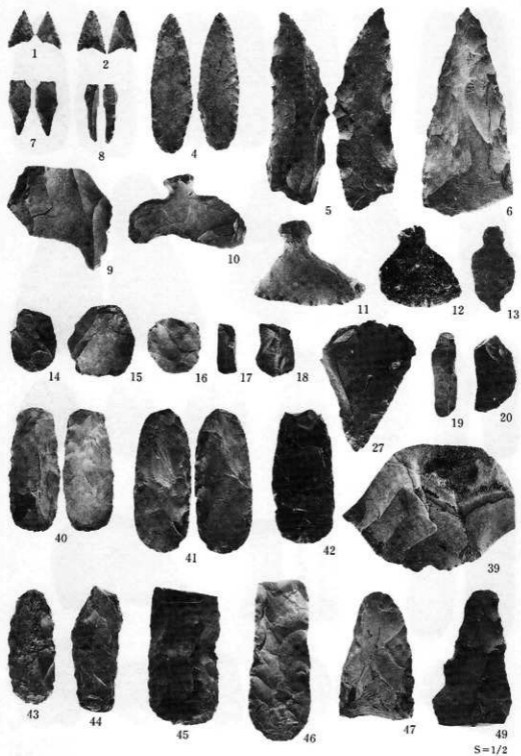
写真図版71 遺構外遺物：土器(1)・土製品



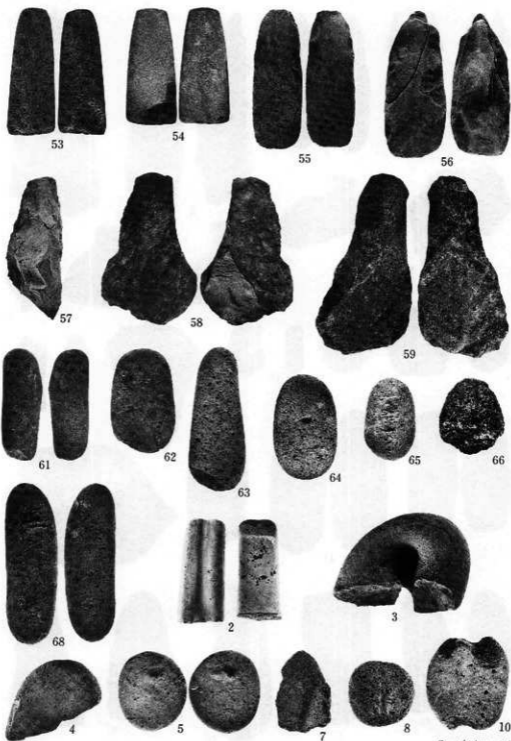


写真図版72 遺構外遺物：土器(2)

S=1/4



写真図版73 遺構外遺物：石器(1)



S=1/4 (53~68)  
S=1/2 (石製品)

写真図版74 遺構外遺物：石器(2)・石製品



---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第163集

## 林崎館遺跡発掘調査報告書

印刷 平成4年3月25日

発行 平成4年3月30日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県紫波郡南村大字下飯岡11字高屋敷185

TEL (0196) 38-9001

印刷 株式会社 吉田印刷

〒020 岩手県盛岡市名須川町23-27

TEL (0196) 25-2323

---

---

©岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992